The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	北インドの諺（Ⅱ）
Author(s)	古賀，勝郎
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50630
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

北インドの諺

北インドの諺　(II)

目次

参考文献及び略号　i

北インドの諺 (II)　1

諺の世界　土人形　62

ネズミ百匹

蝿と承知で

参考文献及び略号

(A) ヒンディー語諺の直訳

A.V. इन्दुप्रकाश पाण्डेय, अवधी-हिन्दी कहावत कोश, हिंदी बुक सेंटर, नई दिल्ली, 1991

(B) ヒンディー語諺の出典における意味及び用法

B.E.P. The Background of English Proverbs and Old Sayings (篠田武清：英語の諺・古諺の研究, 篠崎書林, 東京, 1956)

Bhoj. शशिशेखर तिवारी, भोजपुरी लोकोक्तियाँ, बिहार राष्ट्रभाषा परिषद्, पटना, 1970

B.K.S. विश्वनाथ दिनकर नरवणे, भारतीय कहावत संग्रह I, II, III, त्रिवेणी संगम भाषा विभाग, पुणे, 1978, 1979, 1983

B.P. John Christian, Behar Proverbs, 1891, reprint, New Delhi, 1986

B.T. बृहत हिंदी लोकोक्ति कोश, संपादक : भोलानाथ तिवारी, शब्दकार, दिल्ली, 1985

Ch. अनुसूया अग्रवाल, छत्तीसगढ़ी लोकोक्तियाँ और जनजीवन, भावना प्रकाशन, दिल्ली, 2001

Chatt. मन्नूलाल यदु, छत्तीसगढ़ी लोकोक्तियों का भाषावैज्ञानिक अध्ययन, भाषिका प्रकाशन, रायपुर, 1979

D.E.P. 大塚高信・高瀬省三編, 英語諺辞典, 三省堂, 1976 Sanseido's Dictionary of English Proverbs, 1976

E. ((Fa. 1) の略号. 東部ヒンディー語地域に行われる諺)

E.E.P. 北村孝一・武田勝昭編, 英語常用諺辞典, 東京堂出版, 1997 A Dictionary of Everyday English Proverbs, Tokyo, 1997

Fa. → Fa.1, Fa.2

Fa.1 S.W. Fallon, Hindustani-English Dictionary of Idioms & Proverbs, 1886 (revised edition 1991, Star Publications, New Delhi)

Fa.2 S.W. Fallon (हिंदी संपादक : कृष्णानन्द गुप्त, हिंदुस्तानी कहावत कोश, नेशनल बुक ट्रस्ट, इंडिया, नई दिल्ली, 1968)

Ga. चंद्रशेखर 'आज़ाद', गढ़वाली हिंदी कहावत कोश, तक्षशिला प्रकाशन, नई दिल्ली, 1977

Har. जयनारयण वर्मा, हरियाणवी लोकोक्तियाँ : शास्त्रीय विश्लेषण, आदर्श साहित्य प्रकाशन, दिल्ली, 1972

Hin. Hindus ((Fa.1) の略号. 主にヒンドゥーの間に行われる諺)

Hrk. जयनारणय कौशिक, हरियाणवी-हिंदी कोश, हरियाणा साहित्य अकादमी, चंडीगढ़, 1985

Kah. श्रीभुवनेश्वर मिश्र 'माधव', कहावत कोश, बिहार राष्ट्रभाषा परिषद्, पटना, 1965

गाँवघर (पत्रिका, गाँवघर कार्यालय, आरा); चंपा॰ 1 (चंपारन ज़िले का पूर्व-दक्षिणी छोर); चंपा॰ 2 (चंपारन का पूर्वी छोर); चंपा॰ 3 (चंपारन का पश्चिम- उत्तरी छोर); दर॰ 1 (दरभंगा ज़िले का पूर्वी तथा उत्तरी भाग); दर॰ 2 (दरभंगा ज़िले का उत्तर-पूर्वी भाग); दर॰ 3 (दरभंगा ज़िले का उत्तर-पूर्वी भाग); पट॰ 1 (पटना ज़िले का दक्षिणी भाग); पट॰ 2 (पटना ज़िले का दक्षिण-पूर्वी छोर); पू॰ पट॰ (पूर्वी पटना); बिहान ('बिहान' पत्रिका, पटना); भाग॰ 1 (भागलपुर ज़िले का दक्षिणी भाग); भाग 2 (भागलपुर ज़िले का मध्य भाग); भोज प॰ ('भोजपुरी' पत्रिका; आरा); मुँ॰ 1 (मुँगेर ज़िले का दक्षिण-पूर्वी भाग); मुँ॰ 2 (मँगेर ज़िले का उत्तरी तथा मध्य भाग); मुज॰ 1 (मुजफ्फरपुर ज़िले का उत्तर-पश्चिमी छोर); मुज॰ 2 (मुजफ्फर ज़िले का उत्तर-पूर्वी हिस्सा); शाहा॰ (शाहाबाद ज़िले का उत्तर-पश्चिमी भाग); शाहा॰ 2 (शाहाबाद ज़िले का दक्षिण भाग); सा॰ 1 (सारन ज़िले का मध्य भाग); हिन्दु॰ ('हिन्दुस्तानी' पत्रिका)

Kaur. कृष्णचंद्र शर्मा, कौरवी-वाक्पद्धति और लोकोक्ति-कोश, अमित प्रकाशन, गाज़ियाबाद, 1970

K.L. शिवकुमार शाण्डिल्य, कौरवी लोकोक्तियाँ, मंगला प्रकाशन, नई दिल्ली, 1983

Mah. Muhammadans ((Fa.1) の略号. 主にイスラム教徒の間に行われる諺)

Mar. Marwari ((Fa.1) の略号. 主にラージャスターン地方で行われる諺)

M.L.K. हरदेव बाहरी, श्यामलाकान्त वर्मा, मुहावरा एवं लोकोक्ति कोश, नई दिल्ली, 1987

(N) 註 (諺についての補足説明)

R. rustic ((Fa.1) の略号)

Rag. William Crooke, A Rural and Agricultural Glossary for The N.W. Provinces and Oudh, Thacker, Spink, and Co., Calcutta, 1888 (second ed. Vintage Books, Gurgaon, 1989)

Raj. विजयदान देथा (संयोजक व संपादक), राजस्थानी-हिंदी कहावत कोश, जोधपुर, 2003

R.J.K. भागीरथ कानोडिया, गोविंद अग्रवाल, राजस्थानी कहावत कोश, पंचशील प्रकाशन, जयपुर, 1979

R.K. कन्हैयालाल सहल, राजस्थानी कहावतें, बंगाल हिंदी मंडल, कलकत्ता, वि॰ सं॰ 2017

Wom. Women ((Fa.1) の略号. 主に女性の間に行われる諺)

☆ ☆ ☆

(इ)

〔483〕 **इंचा-खिंचा वह फिरे, जो पराये बीच में पड़े**(Fa., B.T.)

(A) 他人の間のことにかかわる人は困ったことになるものだ (B)(1) 他人のことにかかずらわると厄介に巻き込まれるものだ (Fa.) (2) 他人の間に入ったり他人のもめごとにかかわると大変困ったことになるものだ (B.T.)

(N) (1)इंचा-खिंचा फिरना とは खिंचा-खिंचा फिरना と同義であり争っている人の間に入ると両方からの圧力がかかって困る，すなわち，板挟みになる，という意のイディオムである (2) Of little meddling comes great ease. お節介を余りしなければ安楽が得られるものだ (Fa.1, D.E.P.) They who in quarrels interpose, will often wipe a bloody nose. (A)(Fa.1) (A) 喧嘩に割って入ると鼻血を出すことになる (B) 余計な世話はやくな

〔484〕 **इंजन को भी कोयला-पानी चाहिए** (B.T.)

(A) 機関車を走らせるにも石炭と水がいるものだ (B) 人を動かそうとすれば当然金がかかるものだ

(N) (1) この諺はエンジン，すなわち，ここでは機関車を例に引いているのであるからインドに鉄道が導入された以後のものであり，従って (Fa.) に掲載されていないのはある意味で当然のことであろう (2)(B.T.) はパンジャーブ語及びブラジュバーシャーの同義の諺を例示している．ただし，パンジャーブ語のものは इंजन नूं वी कोला पाणी चाइदा とあり (B.T.) と全く同じ表現のものであるが，ブラジュバーシャーのものは अंजन ऊ तौ कौला, पानी ते चलै 「機関車も石炭と水で走る」になっている

〔485〕 **इंदर राजा गरजा, म्हारा जीआ लरजा** (Fa.1, Hin.), (Fa.2, Mar.) **इंदर राजा गरजा मोरा जीया लरजा**(B.T.)

(A) インドラ神が発した大音声にわが胸は震え上がった (B) 雷鳴が轟き降雨の気配に穀物を投機のために買いだめしている商人は（価格の下落が）心配になった

(N) (1) インドラ神については〔487〕を参照のこと (2)(Fa.) の Hin. と (Mar.) はここでは同じくいわゆるラージャスターン地方出身のマールワーリー商人のことを指す

〔486〕 **इंदरायन का फल देखने का है चखने का नहीं**(B.T.)

(A) コロシントウリの実は眺めるだけのもので味わうためのものではない (B)(1) 外見はよいが中身がよくないもののたとえ (2) 見かけは立派だが心のよくない人のたとえ

(N) (1) ウリ科のコロシントウリ (Cucumis colcynthis) は丸くて黄緑の実をつけるので見かけは立派だがその果肉は苦いことから見かけは立派だが役立たずな人のことも指す

〔487〕 **इंद्र का बरसा, माँ का परसा** (B.T.)

(A) インドラ神の降らせた雨，母親のよそった料理 (B) 雨水は畑に母の料理は子に安心を与えるものだ

(N) (1) インドラ神はインド・アーリア族のインド到来以前からの主要な神でありリグ・ヴェーダ以来雷神としてアーリア人の守護者とされて多くの讃歌が寄せられたが，後代にはサハスラバガ（サハスラローチャナ）のようなガウタマ聖仙の妻アハリヤーを誘惑したために聖仙に呪いをかけ

られる好色で軽んじられる不名誉な神格にもなった．しかし，インドラ神は寛容で忍耐強い人にたとえられることもあり，また雷神としては今日もなお雨との関係は重んじられ雨乞い神事には祈願の対象となっている．本来困ることのないはずの人が困るのをたとえる表現にラージャスターンの次の諺があるように इंदर री मां तिसाई(Raj.) 「(本来水不足に困ることのないはずの) インドラ神の母親が渇きに苦しむ」インドラ神は降雨や水とはとは切り放せない縁がある (2) これは灌漑の水では到底及ばない天水の威力を強調する形で母親の子に与える影響力の強さをたとえるものであろう (3)इंदर आवै बरसणा रै भाव, उत्तर गिणै न दिक्खण बाव(Raj.) (A) インドラ神が雨を降らせようと思うなら北風が吹こうが南風が吹こうが関係なく雨が降るものだ (B)(a) 強い愛情があればいかなる犠牲を払うことになろうとも献身がなされるものだ (b) 心があればそれは行動に現れるものだ (c) 自分の感情に応じて相手の反応があるものだ (d) 何事かをなそうという意欲があれば道は必ず開けるものだ

〔488〕 **इक अहसान और इक नुक़सान**(B.T.)

(A) 親切一つ，損害一つ (B)(1) 他人に役立つこともするが損もさせるような人のたとえ (2) 人に与えるものと人から受け取るものとの釣り合いがとれていなければならない関係について言う (3) 借りたもののために損の生じる場合についてのたとえ

〔489〕 **इक लख पूत सवा लख नाती, ते रावण घर दिया न बाती**(B.T.) **एक लख पोता, सवा लख नाती, उस रावन के दीया न बाती**(Fa.1, Hin.) **इक लख पूत सवा लख नाती, उस रावण के दीया न बाती**(Fa.2)

(A) 十万人の息子，十二万五千人の外孫のあったラーヴァナの家に灯心も油皿もなし (B) (1) 慢心により一切のものを失うたとえ (2) 家族の大きさを自慢する人を揶揄する言葉 (Fa.,B.T.) (3) 非道の人は必ず滅びる (B.T.) (4) 人の滅するのは必定である (B.T.)

(N) (1) ラーヴァナとはもちろん叙事詩ラーマーヤナの中でラーマの妻シーターを奪ったためにラーマに退治されたランカー島の王のことである (2)(Fa.1) では इक लख…ではなく एक लख…であるが，意味に相違はない．なお，(Fa.1) ではヒンドゥーが専ら用いるものとされている (3)(Fa.) によれば，灯芯と油皿は男子の世継ぎが死者の手に黄泉路を照らす明かりとして持たせるものであり世継ぎにより点火されるものである．もっとも，(B.K.S.) によれば，「灯火が点らない」ほどの意味でしかない इक लख पूत सवा लख नाती, ते हि रावन घर दिया न बाती(B.K.S.) (4)एक लख पूत, सवा लख नाती, उण रावण रै घर, दीया नह बाती(Raj.) (B) (a) 富や勢力，軍力などを誇ってはならないものだ．人は時間には勝てないものだ．一切のものは瞬時にして失われるものだ (b) 時間を超えるものはこの世には何一つないものだ．常住不変のものは何もないのだ (5)इक लख पूत सवा लख नाती। रावण के घर दिया न बाती॥ (A.V.) (B) 世界に無比の勢力を誇ったラーヴァナの一族でさえ滅びたのであるから常人については言うまでもない．慢心が身を滅ぼすことになるたとえとして用いられる表現である (6)एक लाख पूत सवा लाख नाती ओकरा घरे दिया ना बाती(Kah., शाहा॰ 2) (B) この世ではいつどのような不測の事態が生じるかわからないものだ．権勢を得たとて傲慢になってはならない (7) 〔675〕を参照のこと (8)सौ लाख बेटा सवा लाख नाती से रावन के दिया न बाती(Kah., पट॰ 1) (A) (今や) 一千万人の息子と十二万五千人の外孫のあったラーヴァナの弔いをする人すらいない (B) この世は儚いものだ．驕りたかぶることは愚かしいことだ

〔490〕 **इक्का ते दुक्का भलो, तिक्का करे बिगार** (B.T.)

(A) 一つより二つあるほうがよいが，三つ集まればよからぬことになる (B) 内緒話は二人の間だけで保たれるものだ．三人になると保たれないものだ

〔491〕 इक्का, वकील, गधा, पटना शहर में सधा(Fa.1, E.)(B.T.) इक्का, वकील, गधा, पटना शहर में सदा (Fa.2)

(A)(1) パトナーの街にはイッカー（二輪馬車）と弁護士，それにロバが溢れる (2) パトナーの街にはイッカーと弁護士とロバが常に揃っている (B) パトナーの名物はイッカーと弁護士とロバである

(N) (1) なお，(Kah.) によれば，इक्का, वकील, गधा, पटना शहर में साधा であり，これの出典は S.W. Fallon の (Fa.1) である

〔492〕 इज़्ज़त से आदमी बेइज़्ज़ती से पशु (B.T.)

(A) 尊敬により人，軽蔑により獣 (B) 世間の尊敬を受けてこそ人は人とされるが，尊敬されない人は獣同然である

(N) (1)इज़्ज़त と言う言葉はヒンディー語でもウルドゥー語でも体面や面目を表す言葉としてよく用いられる．反意語は बेइज़्ज़ती である (2) 次も同じことを述べるものである इज़्ज़त के आगे माल क्या चीज़ है 財が名誉に比べられようか (Fa.,)(B.T.) (3)इज़्ज़त वाले की कमबख़्ती है(Fa.) (A) 面子のある人は不運なものだ (B) 体面を保つには様々な苦労があるものだ

〔493〕 इतना झूट बोलो जितना आटे में नमक (Fa.1) इतना झूठ बोलो जितना आटे में नमक(Fa.2) इतना झूठ बोले जितना आटे में नोन(B.T.)

(A) 嘘を吐くなら小麦粉に混ぜる塩ほどにすべし (B) 度を過ぎた嘘は見抜かれるものだ．嘘をつくにもほどほどにしろ

〔494〕 इतना नफ़ा खाओ जितना आटे में नोन (Fa., B.T.)

(A) 利益は小麦粉に混ぜる塩ほどにせよ (B) ほどほどに儲けるのが商売のこつだ (B.T.) あまり利益を追求するのはよくない (Fa.)

(N) (1)(Fa.2) はこれを商業界に用いられるものとする (2)(Fa.1) はこれを投機に関するもので「投機には安全な限度を守るべし」とする

〔495〕 इत्तिफ़ाक़ बड़ी चीज़ है (Fa., B.T.)

(A) 一つにまとまることは大きなことだ (B) 団結すれば大きな力となる

(N) これと同義のものに次がある इत्तिफ़ाक़ ही में क़ुव्वत है(Fa.1, B.T.) इत्तफ़ाक़ में ही क़ुव्वत है(Fa.2) (B) 団結は力なり

〔496〕 इधर का घाटा उधर गया (B.T.)

(A) こちらでの欠損はあちらへ行った (B)(1) 一方での損害は他方で取り戻せるものだ (2) 気概のある人はどうにかして不利な立場を乗り越えるものだ

(N) (1)ईनलौ घाटौ ऊने गियौ(Raj.) (B) (a) 欠損はいずれ取り戻せるものだ (b) なにかの欠陥が他のもので補われるたとえ (c) なにか足りないものが他で補われるたとえ

〔497〕 इधर क़िबला क़ुतुब, उधर ख़तीजा, मूतूँ किधर(Fa.1, Mus.) इधर क़िबला क़ुतुब, उधर ख़दीजा, मूतूँ किधर ?(Fa.2)

(A) こちらの方角にはカアバ聖殿がありあちらの方角にはハディージャーの墓がある．どちらを向いて小便をすればよいのやら (B) 進退窮まったり途方に暮れることのたとえ

(N) (1)(Fa.1) のハティージャーは預言者ムハンマドの妻ハディージャのこと　(2) イスラム教徒は小便をする際にメッカやハディージャーの墓のある方角を避けてしゃがむものだ. (Fa.1)
(3)(B.T.) はこれと同義のものとして次の諺を掲げている. इधर क़िबला उधर क़ुतुब बी ख़दीजा सोवे किधर (a) こちらの方角にはカアバ聖殿がありそちらの方角にはクトゥブ（イスラム教において最高位に立つとされる聖者）がまします. ハティージャー様はどちらの方角を向いて寝るのがよいのやら (b) 進退窮まった状態をたとえる表現

〔498〕 **इधर कुआँ उधर खाई** (B.T.)

(A) こちらには井戸，あちらには堀　(B) 絶体絶命の状況にあるたとえ.【前門の虎，後門の狼】

(N) (1) =इधर खाई उधर कुआँ (B.T.), इधर गिरूँ कूआँ, उधर गिरूँ खाई(Fa.1), (A) こちらには堀，あちらには井戸　(B) 絶体絶命の状況のたとえ इधर गिरूँ तो कुआँ उधर गिरूँ तो खाई(Fa.2, B.T.) (A) こちらに落ちれば井戸，あちらに落ちれば堀　(B) 進退窮まった状況のたとえ　(2) = Between Scylla and Charybdis (B.T.).　(B) 前門の虎，後門の狼　(3)एने जाई तऽ कुआँ ओने जाई तऽ खाई(Kah., शाहा॰, 2) 及び इधें कुवाँ ऊँधें खाई (K.L.) は語彙に違いこそあれ (Fa.2, B.t., B.K.s.) と同じ表現である (A) こちらに進めば井戸，あちらへ進めば堀　(4)इन्ने पड़े तौ कूवौ, उन्ने पड़े तौ खाई(Raj.) (A) こちらに落ちれば井戸，あちらに落ちれば堀　(B) 進退窮まった状況のたとえ

〔499〕 **इधर के बराती न उधर के घराती**(B.T.)

(A) こちらの花婿側の人でもなくあちらの嫁側の人でもない　(B)(1) だれからも相手にされないような存在感のない人を揶揄する表現　(2) 第三者の立場にある人のたとえ

(N)　Neither fish, flesh nor fowl(B.T.)　(B) 得体の知れないものやどっちつかずのもののたとえ【海のものとも山のものともつかぬ】(D.E.P.)

〔500〕 **इधर न उधर, यह बला किधर**(Fa., B.T.)

(A) この厄介なものはこちらにもあちらにも見つからず一体どちらにあるのか　(B)(1) どっちつかずのたとえ (Fa.1)　(2) どうしても災厄や困難を避けることのできない状況のたとえ (B.T.)

(N) (1) Neither die nor get well(Fa.1)　(B)(a) どっちつかずのたとえ　(b) 物事がはっきりしないたとえ

〔501〕 **इधर पुकारा और उधर भूत बोला** (B.T.)

(A) こちらで声をかけるとそちらでブートがすぐ答える.　(B) 呼ばれた人がすぐさま返事をしたりその場に現れたりすると冗談めかして言う言葉

(N) (1)(B.T.) は Talk of the devil and he is bound to appear を掲げているが，これは Speak of the devil and he will appear(D.E.P.) と同義であろう. だが、【噂をすれば影がさす】は噂をすると噂になった人が「たまたま来る」ことに重点があるようだから，悪口を言うと関係のある【呼ぶより謗れ】とは少し隔たりがあるように思われる.　(2) 厳密に定義なり説明を加えることが難しいものであるが，ブートとは不慮の死，自殺，刑死などにより死んだ人の霊が然るべき供養がなされずに浮かばれずにいる死霊のことを指すものと考えるのがよいだろう. そのような意味で幽霊と訳すこともできよう. ただ，このブートと呼ばれるものには様々に分類されるものが含まれるのであるが，一般的にはその姿は影を作らない，地上に足がつかない，足が後ろ向きについている，芳香を嫌う，色黒であり鼻声で話すなどの特徴が伝えられる. もちろん，このブートという言葉は比喩的な意味合いでよく用いられる言葉でもある.　(3)(B.T.) はラージャスターンの वकायाँ भूत बोले と言う諺を

同義のものとして掲げているが，(Raj.) は「夜分だれであれ大声で呼ぶとブートがつきまとう」という俗信のあることにも言及している

〔502〕 **इनकी नाक पर गुस्से का मस्सा** (A) この人の鼻の上には怒りのたこ（胼胝）ができている．(B) 怒りっぽい人のたとえ

(N) (1) 四六時中怒りの表情が鼻の上に現れてこのようになっていると言う表現である (2) したがってこの諺は次と同じである．इनकी नाक पर गुस्सा रखा (रक्खा) ही रहता है (Fa., B.T.) (A) この人の鼻にはいつも怒りが用意されて載っている (B) 詰まらぬことで怒る人のたとえ．これはイディオムとしても用いられる (3) ヒンディー語では不快感を表す言葉としては नाक-भौं सिकोड़ना (चढ़ाना)，すなわち，「鼻と眉間にしわを寄せる」などのようにしばしば鼻と眉を表す語彙が表現に含まれる

〔503〕 **इनके हाँ तो चमड़े का जहाज़ चलता है** (Fa.1) **इनके यहाँ तो चमड़े का जहाज़ चलता है** (Fa.2, B.T.)

(A)(1) この連中は皮で作った舟で商いをしている (B)(1) 売春で稼ぐことのたとえ (Fa.1) (2) 売春婦のことを婉曲に言う表現 (Fa.2, B.T.)

(N) ヒンディー語で चमड़े का जहाज़ चलाना 皮の舟を走らせるとは女衒や女の紐になることを指す

〔504〕 **इनको भी लिखो**(Fa., B.T.)

(A) こいつ（の名前）も書き留めろ (B)(1) 他人同様自分も失敗をした際に自嘲的に言う言葉 (Fa.2) (2) 愚かな人を指して言う言葉 (B.T.)

(N) (1) これはアクバル王と曽呂利新左衛門とも言うべきビールバルとの間に交わされた多数の笑話，ないしは，頓知話の一つである．アクバル王が，この世には青眼の人と盲人とではどちらが多いかと問いかけたのに対してビールバルは盲人のほうが多いと答えた．王に問われてこれを実証するためにビールバルは書記を伴って人通りに出て行き石を拾い始めた．通行人が「何をしているのかと」問う度毎にビールバルはこの人の名前も（盲人の内に）書き留めろと命じた．何をしているのかを見ていながら問いかけるのは目が見えないからだと言う理屈であった (2) ヒンディー語では盲人には愚者の意味もある

〔505〕 **इन तिलों में तेल नहीं निकलता** (B.T.)

(A) このゴマの実からは油は採れない (B)(1) けちな人や抜け目のない人のことをたとえて言う (B.T., Fa.) (2) ここではなにかが手に入ると期待するな (Fa.2)

(N) (1) これとほぼ同義のものと思われるのは次のものである．इन तिलों में तेल नहीं(Fa.2) (A) このゴマの実には油が入っていない (B) 極度の吝嗇や狡猾な振る舞いをする人のたとえ (2)इन तिलों तेल नहीं (Fa.1) (A) このゴマの実には油が入っていない (B)You cannot draw blood from a stone (Fa.1) これは (You cannot) draw blood from stone (D.E.P.)「不可能なことをなそうとするたとえ」のことか (3)येह तिल में तेल नइखे (Kah.,चंपा॰1,2) (A) このゴマの実には油は入っていない (B) 何一つ期待できないようなけちな人を揶揄する表現=येह तिल से तेल ना निकली (Kah.,शाहा॰ 2).

〔506〕 **इन बिचारों ने हींग कहाँ पाई, जो बग़ल में लगाई**(B.T.) **इन बेचारों ने हींग कहाँ पाई, जो बग़ल में लगाई**(Fa.)

(A) こんな正直者がアギをどこから手に入れて脇の下につけたのだろうか (B) こんな正直者がそんなおぞましいことをするはずがない．正直者が濡れ衣を着せられたとしてその人を擁護する表現

(N) (1) アギ asafoetida (asafetida) はセリ科オオウイキョウ属の薬用植物の根から採れる樹脂で薬用の他インド料理に香味料の一つとして用いられるものだが，臭気が激しいので体につけようとする人はいないものだ (Fa.2)

〔507〕 **इनसान पानी का बुलबुल है** (Fa.)

(A) 人間は水の泡と同じ (B) 人命は儚いものだ

(N) (1)(Fa.) には同義の次の諺がある．इनसान में क्या रक्खा है ? (A) 人の体に一体何が備わっているというのか (B) 人はいとも簡単に息絶えるものだ

〔508〕 **इनसान ही तो है**(Fa.)

(A) 人間はやはり人間だ (B) 人間だから過ちを犯すものだ

〔509〕 **इश्क़ अंधा है**(B.T.)

(A) 恋は盲目なり (B) 恋に落ちると思慮分別を失うものだ

(N) (1)Love is blind (B.T., D.E.P.) (B)【恋路の闇】 (2)इसक री मार्यो फिरै ठिठकार्यो (Raj.) (B) (a) 恋をすると人は分別を失う (b) 恋路に迷うと恥も外聞もなくなるものだ (3)इसक री मारी कुत्ती कादे में लुटै(Raj.) (A) 恋に落ちた雌犬は泥の中を転げ回る (B)(a) 不道徳な人間には善悪の区別はない (b) 恋をすると人は分別を失うものだ (c) なにかに熱中すると世間体を気にしなくなるものだ (d) 恋をするとどのような損害も不名誉も気にしなくなるものだ (4) もっとも，(3) は同じ इसक (इश्क़) という言葉を用いてはいるのだが愛欲とか欲情と言ったような言葉に言い換えたほうが適切な表現であると言えよう

〔510〕 **इश्क़ छुपाने से नहीं छुपता** (Fa.) **इश्क़ छिपाए ना छिपे**(B.T.)

(A) 恋は隠しておけないものだ (B) 恋愛関係は当人たちが如何に秘めようとしても自ずと露になるものだ

(N) (1)इसक ने मुसक छिपायोड़ा नंह छिपै(Raj.) (A) 恋心と麝香は隠しても隠し果せないものだ (2) 同工のものは次の諺にも見られる इश्क़, मुश्क़, खाँसी, ख़ुश्क, ख़ून ख़राबा छिपता नहीं(B.T.) (B) 恋と麝香，空咳と人殺しは隠し果せないものだ (3) 次も同じことを述べる इश्क़ में शाह और गदा बराबर (B.T.) (B) 恋路では殿様も乞食も同じ

〔511〕 **इस कान सुनी, उस कान उड़ाई** (B.T.) **इस कान सुनी, उस कान उड़ा दी** (Fa.1) **इस कान सुनी, उस कान निकाल दी**(Fa.2) (A) こちらの耳で聞いたのをそちらの耳から捨て去った (B) 忠告や教訓など他人の言葉を馬耳東風と聞き流す人のたとえ

(N) (1) =इस कान सुनी उस कान निकाली (B.T.) (2) 日本語の諺【右の耳から左の耳】は単に聞いたことを次から次へと忘れてしまうことを指すようであるからこの諺とは意味が違うことになる．In at one ear and out at the other (D.E.P.) 聞き手に何の感銘も与えないことのたとえ (3) येह काने सुनीं ओह काने निकाल दीं (Kah.,शाहा॰ 2)

(A) こちらの耳で聞いたことをそちらの耳から取り出した (B) 告げ口や嫌な話を聞いたらすぐさま忘れるがよい (4) इण कांन सुणी, उण कां काढ़ी (Raj.) (A) 一方の耳で聞き他方の耳から取り出す (B) (a) 人の話を聞いても聞き捨てにする人のたとえ (b) 何事にも全く注意を向けない人のたとえ (c) 何事もいい加減にしか聞かない人のたとえ

〔512〕 **इसके पेट में दाढ़ी है** (B.T., Fa.)

(A) この人の腹にはひげが生えている　(B) まだ子供なのに才気走ったり知恵者であることのたとえ (B.T., Fa.2)

(N) (1) (Fa.1) の意味の説明には Old head on young shoulders とある．これが (You set)an old (man's) head on (a) young (man's) shoulders(D.E.P.) 「不調和や不条理のたとえ」と同義であれば (B.T.) や (Fa.2) のように単なる誉め言葉ではなかったのではないか．次の (b) を参照．　(2) इण रै पेट में डाढ़ी(Raj.)

(B) (a) まだ幼いのに極めて聡明なことのたとえ　(b) まだ子供なのに大人びた振る舞いをすることのたとえ

〔513〕　**इस पार या उस पार** (B.T.)

(A) こちらの岸かそれともあちらの岸か　(B) (1) 両方とうまく対応するか両方から利益を挙げようとするかの場合を言う　(2) 失敗か成功かを問わずなにかをやり通す決意を表す言葉．のるかそるか（伸るか反るか）．一か八か

(N) (1) ヒンディー語でこれと全く同じ表現がイディオムとして用いられる場合,「最終的な決定が下される」の意になる　(2)इण पार के उण पार (Raj.)　(B) (a) 命がけで試みる人のたとえ　(b) 大成功を収めるか大失敗になるかという状況のたとえ　(c) 結果を問わず目標に突き進む人のたとえ．のるかそるか

〔514〕　**इस हाथ दे उस हाथ ले** (B.T.)

(A) この手で与えその手で受け取る　(B) (1) 善悪の行為の結果は直ちに得られるものだ　(2) 現金取引のことを言う

(N) (1)इस हाथ देना उस हाथ लेना はイディオムで「即刻決済する」意を表す　(2)इण हाथ लीजे अर उण हाथ दीजे(Raj.) (A) この手で受け取りその手で与える=ई हाथ दे, ऊं हाथ ले(Raj.) (A) この手で与えその手で受け取る　(B) (a) 注意深く対処したり仕事をするたとえ　(b) 何事にも借りを作らない人のたとえ　(c) 少しも気を緩めることなく遅滞なく事を処理する人のたとえ

(ई)

〔515〕　**ईंट का जवाब पत्थर** (B.T.)

(A) れんがのお返しは石でする　(B) 相手の手法以上に厳しい方法で報復するたとえ

(N) (1)(Fa.) 及び (B.T.) はともに次の諺を掲げている．ईंट की लेनी, पत्थर की देनी (A) れんがの借りを石で返す　(B) しっぺい返し tit for tat(Fa.1)　(2)ईंट री देवै सो भाटा री खावै(Raj.) (A) れんがを食らわせる人は石を食らうに決まっている　(B) (a) れんがを投げつければ石を投げ返されるものだ　(b) いかなる代価を払っても報復をするたとえ　(c) 悪者に対しては即座に報復をすべきである．悪事を見逃すのは罪である

〔516〕　**ईंट की ख़ातिर मस्जिद ढाई** (B.T.)

(A) れんがを採るためにマスジド（モスク）を壊した　(B) (1) 僅かの利益を求めてかえって大損をするたとえ　(2) 僅かばかりの利益を得ようとして他人に大損害を与えるたとえ

〔517〕　**ईख के साथ डंठल भी पेरे जाते हैं**(B.T.)

(A) サトウキビの茎を搾る際にはそれと一緒に他の草の茎も搾られるものだ　(B) 一人に災難が及ぶとその人の親戚や縁者など周囲の人たちにまで累が及ぶたとえ

〔518〕　**ईद पीछे चाँद मुबारक** (Fa.,Wom., B.T.)

(A) イード（祭り）の過ぎた後でおめでとうの挨拶をする　(B) 時機を失して祝いの言葉を述べるたとえ

(N) (1)(Fa.1) は，これに女性の間に行われるものとの注を加えている

〔519〕　**ईद पीछे टर**(Fa., B.T.) (A) イードの明くる日はタル　(B)(1) 繁昌したり盛んであったりしたものが終わりになるたとえ (B.T.)　(2) 栄えれば衰えるのが理 (B.T.)　(3) 尊敬された後侮られることのたとえ (B.T.)　(4) なすべきことは然るべき時になさなくてはならないものだ (Fa.2)

(N) (1) (B.T.) はこれを ईद पीछे टर, बारात पीछे धौंसा とは異なるものとして説明している　(2)S.W. Fallon は A new Hindustani English Dictionary の中でタル (टर) とはイードの翌日と説明している．また，諺辞典の中ではこの諺は並んで掲げられている諺 ईद पीछे टर, बारात पीछे धौंसा「イードの明くる日，バーラート（結婚式で花嫁の家に向かう婿側の行列）の済んだ後での太鼓」と同義であるとしている　(3)J.T. Platts の A Dictionary of Urdu, Classical Hindi, and English によればタル (टर) には「叫び声」や「喚声」の意もあるのでこれは धौंसा（太鼓）と対になる語と考えるべきであろうか．そうすれば時機を失することのたとえとなろう

〔520〕　**ईद बाद रोज़ा**(B.T.)

(A) イード（断食明けの祭り）の後で断食をする　(B) イードに出費が嵩み後は断食をする羽目になるように楽しいことがあれば辛いことにも耐えなくてはならないものだ

(N) (1)ईद पछे रोज़ा(Raj.) (A) イードの後で断食をする　(B)(a) 贅沢三昧の後で断食をする　(b) 贅沢三昧をする人は後で苦しい目に遭うことになるものだ　(c) 人の一生には浮き沈みがあるものだ

〔521〕　**ईमान तो सब कुछ है** (B.T.)

(A) 信用がすべてだ　(B) (1) この世の一切のことは信用の上に成り立つものだ　(2) 他人を信頼して金目のものや財産を預けて行く際の挨拶の言葉

(N) (1) =ईमान है तो सब कुछ है (B.T.)　(2)ईमान है तो सब कुछ (Fa.1)　(B) 信用があれば一切のものが備わるものだ

〔522〕　**ईर्ष्या से क्रोध भला** (B.T.)

(A) 嫉妬（心）より怒りがまし　(B) 嫉妬はいつまでも続くものだが怒りは一時のものだ

〔523〕　**ईश्वर उन्हीं की सहायता करता है, जो अपनी सहायता आप करते हैं**(B.T.)

(A) 神は自ら助ける人を助ける　(B)【天は自ら助くる者を助く】

(N) (1) これはラテン語起源で英語の次の諺の翻訳である．God helps them that help themselves. (B.T., B.E.P.) Heaven helps them that help themselves. (D.E.P.)　(2)(Fa.) にはこれに類するものの記述はない

〔524〕　**ईश्वर की माया, कहीं धूप कहीं छाया**(B.T.)

(A) 神の幻力，日向もあれば日陰もある　(B) この世の中は神の支配するところ．一切のものが一様ではない

(N) (1)　ईश्वर की माया कहीं धूप कहीं छाया (Kah., मुँ° 1) भगवान के माया कहीं धूप कहीं छाया (Kah., शाहा° 2)
(B)　日の照るところもあれば日の陰るところもある．悲しみのあるところもあれば喜びのあるところもある．これはすべて神の幻力のなせるわざである

〔525〕　**ईश्वर के दरबार में देर है पर अंधेर नहीं है**(B.T.)
(A) 神の裁きの庭では遅くはあっても無法はない　(B) 人はその善行と悪行の果を必ずや受けるものだ【天網恢々疎にして漏らさず】
(N) (1)ईश्वर は ईस्वर や भगवान の形で用いられることがある　(2)भगवान कै घरै देर है, पण अंधेर कोनी(R.J.K.) (A) 神の館では遅れることがあっても無法はないものだ　(B) 悪人はいずれ悪行の果を受けねばならないものだ　(3)भगवान घर देर है, अंधेर नइ ए　(B) 神は悪者をいつかは必ず罰するものだ．無法者が贅沢三昧に耽っているのに対して発せられる言葉　(4)भगवान रे घरै देर है पण अंधेर कोनी(Raj.)　(B) これは (R.J.K.) と同じ表現であるが,「人の願いは必ずや叶えられるものだ」ということに強調がある

〔526〕　**ईश्वर के हाथ बहुत लंबे हैं** (B.T.)
(A) 神の手はとても長い　(B) 神は一切のものを守護する．一切のものを育むのは神である
(N) (1)ईसवर रा हाथ लांबा(Raj.) (A) 神の手は長い　(B)(a) 神の愛と正義に及ぼす力は強大である (b) 神は望めばだれでもどこででも助力することができる　(c) 神のなし得ないことはない

〔527〕　**ईश्वर जो करता है ठीक ही करता है**(B.T.)
(A)　(B) 神の為すことは正しい
(N) (1)(B.T.) には次の諺話がある.「指を怪我した殿様に大臣が,「神の為すことは正しい」と言ったので立腹した殿様が大臣を牢屋に閉じ込めた．狩に出かけて未開人たちに捕らえられた殿様は生け贄にされようとした．ところが未開人たちの祈祷師が殿様の指に傷があるのを見つけ生け贄としては不適として殿様を解放した．殿様は領地に戻り大臣に赦しを乞うた」　(2)हरी करी सो खरी (Raj.) (A) 神の為したことは正しいこと　(B)(a) 神の為すことはすべて正しい　(b) 神の望むところを退けることはだれにもできない　(c) この世に起こることはすべて神の為すことである

〔528〕　**ईश्वर देता है तो छप्पर फाड़कर देता है**(B.T.)
(A) 神は人に授けようと欲するならばたとえ屋根を破ってでも与えるものだ　(B) 神の慈悲があればどのような形でも手に入るものだ
(N) (1)खुदा देता है, तो छप्पर फाड़के देता है(Fa.1) खुदा देता है तो छप्पड़ फाड़कर देता है(Fa.2) (A) 神は授ける際には屋根を破ってでも与える　(B)(a) 神は人が予期せぬ方法で与えるものだ (Fa.1)　(b) 神は望めばいかなる方法でも人に授けるものだ (Fa.2)　(2)भगवान जकरा दैत छथिन्ह तेकरा चार फाड़ि कै दैत छतिन्ह (Kah., मुज° 2)　(B) 予期せぬものが手に入ったことを表すたとえ【棚から牡丹餅】=भगवान देलन तऽ छप्पर फार के देलन (Kah.,शाहा° 2; चंपा° 1).　(3)खुदा देसी तौ छप्पर फाड़नै देसी(Raj.)　(B) (a) 神は助力しようと思えば屋根を破ってでも出来るものだ　(B) 神に絶対的な信頼を寄せる人のたとえ　(c) 人の努力よりも運命や神に多くの信頼を寄せる人のたとえ　(4)भगवान देवै जद छप्पर फाड़कर देवै(R.J.K.) (A) 神が与えるつもりであれば屋根を破ってでも与える　(B) どうしても手に入る見込みがないと神はどのような形でも与えるものだ　(5)(R.J.K.) には次の諺話がある．　一人の貧しいバラモンは大変に信心深かった．妻が稼いでくるように言うとバラモンはいつもこの諺を口にした．ある日よその村へ行く途中，一本のインドボダイジュの根方に光るものがあったので掘ってみると宝石のいっぱい入った水瓶が出てきた．しかし，バラモンはそれを元通り土中に埋めて立ち去った．家に

戻ってその話をすると妻はなぜそれを持ち帰らなかったのかとなじったが，バラモンはやはりこの諺を言った．これを家の外で立ち聞きしていた盗賊たちは早速それを掘り出しに行った．出てきた水瓶には蛇とさそりがいっぱい入っていた．盗賊たちは腹が立ったのでバラモンの家の屋根の上からそれを投げ込んだ．ところが蛇とさそりは宝石に変わった

〔529〕 **ईस जाय पर टीस न जाय** (B.T.)

(A) ねたみはなくなっても痛みはなくならない (B) ねたみはなくなっても心に生じた痛みはなくならないものだ

(N) (1)इस जाय लेकिन टीस नै जाय (Kah., पू॰ पट॰) (2)(B.T.) は次も掲げている इस चल जाले बाकी टीस ना जाले (भोजपुरी) (3)इस は ईर्ष्या の意でこの地方には一般的に用いられる形か

〔530〕 **ईसाई भाई किसके, माल खाया खिसके** (B.T.)

(A) クリスチャンはだれの仲間か．ご馳走の食い逃げをする連中 (B) クリスチャンは甚だ身勝手なものだ

(N) (1) 特定のカーストの特性とか特徴とされるものについて述べる諺は多数あり必ずしも上位カーストが下位カーストを卑しめたり揶揄するような諺とは限らない．バラモンやクシャトリヤなどの上位カーストも揶揄される諺も少なからずある．しかし，インド社会の中で独自のコミュニティーを形成するクリスチャンに関してこれに類する諺は他に見当たらないようであり (B.T.) も他の言語の例を掲げていない

(उ)

〔531〕 **उँगली कटाके शहीदों में नाम** (B.T.)

(A) 指の切り傷で殉教者の仲間入り (B) ありきたりのことをしただけなのにそれを手柄に名を揚げようとする人を揶揄する言葉

〔532〕 **उँगली कटा नाम रख दिया** (B.T.)

(A)（自分のために怪我をした人を嘲って）「指切られ」と渾名をつけた (B) 恩義ある人を嘲笑するたとえ

〔533〕 **उँगली पकड़ते पहुँचा पकड़ना**(Fa.1) **उँगली पकड़ते पहुँचा पकड़ा** (B.T.)

(A) 指先をつかんだ後は手首を握る (B)(1) 人の行為や親切にここぞとばかりつけ込むたとえ (Fa.)

(2) 僅かなきっかけから始めて自分の大きな目的を達成するたとえ (B.T.)

(N) (1)अँगुरी धरते पहुँचा पकड़लन (Kah., शाहा॰ 2) (A) はじめは指先をつかんでついには手首をつかむ (B) わずかに得た便宜や権利を利用してついには全部を手に入れようとする人を揶揄する表現 (2)अँगळी पकड़तू पौंचा पकडे (K.L.) (B) ほんの僅かに得た便宜を利用して全部をわがものにしようとするたとえ

〔534〕 **उकताए काम नसाए, धीरज धरे सयाने** (B.T.)

(A) せくとしくじる．賢者は忍耐する (B) 急いでするととんでもないことをしでかすものだ．賢者は常に忍耐強くことを為すものだ.【急いては事を仕損じる】

(N) (1)उकताने से गूलर नहीं पकते(B.T.) (A) せくとウドンゲの実は熟さない (B) 物事にはその時があるものだ．然るべき時を待つべし

〔535〕 **उकतानी कुम्हारी नाखून से मट्टी खोदे**(Fa.1) **उकतानी कुम्हारी नाखून से मिट्टी खोदे** (B.T.)

(A)(1) 悲しみに沈んだ陶工の妻は爪で土を掘る (Fa.1) (2) せっかちな陶工の妻は爪で土を掘る (Fa.2) (3) せっかちな陶工の妻は爪で土を掘る (B.T.) (B) (1) 爪で地面を引っかくのは悲しみのしるしである (Fa.1) (2) あわててなにかおかしなことをするたとえ (B.T.) (3) 恥ずかしさのため，あるいは，悲しみのため土をひっかくことのたとえ．爪で土を引っかくのは不吉なこととされる (B.T.) (4) せっかちさのあらわれのたとえ (Fa.2)

(N) (1)उतावळी कूंभारी नखां सूं माटी खोदै(Raj.) は (Fa.) や (B.T.) と全く同じ表現のものである (2) その意味は (B.T.) と同じである (3)「なにごとも急いでは成し遂げられぬものだ」(Raj.) 従ってこれは〔553〕と同じ意味のものと考えるべきであろう

〔536〕 **उखली में सिर दिया तो मूसलों से क्या डरना**(B.T.) **उखली में सिर दिया，तो मूसलों का क्या डर** (Fa.)

(A) 臼に頭を突っ込んだからには杵を恐れることがあろうか (B) 行動を決めたからには困難を恐れたり危険に躊躇したりしてはならないものだ 【毒食わば皿まで】

(N) (1) これは ऊखली में…及び ओखली में…の形でも見られるものである．→〔602〕． (2)In for a penny, in for a pound (Fa.1, B.T., D.E.P.) (A) ペニーを手に入れる仕事を始めた以上はポンドも手に入れなければならない (B) 仕事を始めたからにはどのようなことがあろうとも最後までやり遂げなくてはいけないものだ (3)उखरी में देल माथ तऽ चोटक कौन गिनती(Kah., मुज॰ 2; चंपा॰ 1) (A) 臼の中に頭を突っ込んだ状況であればどれだけ打たれようかと数えられるはずがない (B) 余儀ない状況にあってはどれだけ不都合が生じるものかわかるものではない (4)उखली में मूड़ी देलाँ चोटे डरें कत्ते डरबो(Kah., मुं॰ 1) (A) 臼に頭を突っ込んだからには打たれることを恐れることがあろうか (B) 苦労を覚悟したからには恐れることはないものだ ओखल में मूड़ी देली तऽ मूसर के का डर (Kah., शाहा॰ 2) (B) 障害を覚悟の上で決断したのであれば何を恐れることがあろうか (5)उखली में सिर दिया तो मूसलों का क्या डर ?(B.K.S.) (B) 一旦行為を決断したからにはどのような困難にも立ち向かわなくてはならないものだ

〔537〕 **उगता सूरज तपता है** (B.T.)

(A) 昇る太陽は熱い (B)【栴檀は二葉より芳し】

(N) (1) この意味の諺として一般に用いられるものは次のものである．होनहार बिरवा के चिकने-चिकने पात (Fa.) होनिहार बिरवा के लुह लुह पात (Kah. चंपा॰ 1; 3, दर॰ 3; मुज॰ 2) (A) 見込みのある若木は二葉のうちからつやがある

〔538〕 **उगते को सब सर झुकाते हैं** (B.T.)

(A) 上昇するものには皆が頭を下げる (B)(1) 勢いのついているもの，あるいは，高い地位にあるものには皆が頭を下げるものだ (2) 勢いの失せたもの，あるいは，地位を失ったものは皆から侮られる

(N) (1) 同義のものに次がある．उगते को सब सर झुकाते हैं，डूबते को कोई नहीं(B.T.) (A) 上昇して行く人には皆が頭を下げ，沈んで行く人にはだれも頭を下げない

〔539〕 **उगले तो अंधा निगले तो कोढ़ी** (B.T.) **उगले तो अंधा，खावे तो कोढ़ी** (Fa.)

(A) 吐き出せば目が潰れ飲み込めばハンセン病に罹る　(B) 進退窮まった状況やにっちもさっちも行かなくなった状況のたとえ

(N) (1) この諺の背景には次の俗信がある．すなわち，ジャコウネズミをくわえた蛇は吐き出せば目が潰れ飲み込めばハンセン病に罹るという (B.T.)　(2)उगलल सँपरे ना लीलल जाय ना(Kah., शाहा॰ 2) (A) 吐き出すことも飲み込むことも出来ない蛇　(B) 全く動きの取れなくなった状況のたとえ (3) 次の諺にも上述のジャコウネズミと蛇にまつわる諺話がある．भइ गति साँप छुछुन्दर केरी, निगले अंधा उगले कोढ़ी(Kah., मुज॰ 2) (A) 蛇とジャコウネズミの陥った状況になった．飲み込めば目が潰れ吐き出せばハンセン病に罹る　(4) ヒンディー語では छछूंदर को निगलते बनना न छोड़ते बनना の形でイディオムとして用いる　(5) ジャコウネズミはその体から激しい悪臭を発する．不潔でおぞましい女性をたとえてジャコウネズミと呼ぶという．また，ラーマの妹のシャーンターがラーマの妃のシーターがラーヴァナの絵を描いているのを見つけ兄に言いつけたとされ，怒ったシーターがシャーンターに来世ではジャコウネズミになるようにと呪詛を発したという．告げ口をする女性のことをジャコウネズミと呼ぶ．डा॰ कृष्णदेव उपाध्याय, भारतीय लोकविश्वास , हिन्दुस्तानी एकेडमी, 1991

〔540〕　**उजड़े गाँव में अरंड ही पेड़** (B.T.)

(A) 寂れた村ではヒマが木の内（に数えられる）　(B)【鳥なき里の蝙蝠】

(N) (1)उजड़े गाँव में मुरार महतो (B.T.) (A) 寂れた村ではムラール（人名）如きが村長 उजड़े गाँव में सियार राजा(B.T.) (A) 寂れた村ではジャッカルが獣の王になる　(2)उजाड़ गाम में मुरार महतो (Kah., मुज॰ 2)

(3)ऊजार गाँव में सियार राजा (Kah.,शाहा॰ 2) (A) あれ果てて人の住まない村の主人はジャッカル　(4) अंधों में काना राजा (Fa.) (A) 盲人の中では片目の人が王様　(5)जहाँ रुख नहीं, तहाँ अरंड रुख(Fa.) (A) 木のないところではヒマが木に数えられる

〔541〕　**उजला उजला सभी दूध नहिं होता**(B.T.)

(A) 白く見えるものがすべて牛乳ではない (B) 見かけは似ていても性質はそれぞれ異なるものである

(N)(1)(B.T.) は All that glitters is not gold. と説明を補っているので,「外見で中身を判断してはいけない」の意としているものと思われる．　(2)ऊजलौ ऊजलौ सै दूध कोनी व्है(Raj.) (A) 白いものがすべて牛乳ではない　(B)(a) 人は見かけにはよらないものだ　(b) サードゥーの姿をした本物のサードゥーは滅多にいないものだ

〔542〕　**उजलो उजलो सब भलो, उजलो भलो न केस; नारी निवे न रिप डरे, न आदर करे नरेश**(Fa.1)
उजले उजले सब भले, उजले भले न केस। नारि नवे न रिपु दबे, न आदर करे नरेस॥ (Fa.2)　**उजले उजले सब भले उजले भले न केश; नारि नवे न रिपु दबे, आदर करे नरेश**(B.T.)

(A) 白く光るものはすべてよいものだが，髪の白いのだけはよくないものだ．老人とあれば女性も頭を下げず敵も恐れず王も敬意を示さぬものだ　(B) 老いは悲しいものだ

〔543〕　**उजाड़ू साँड भूखा मरे**(B.T.)

(A) 役立たずの牛は飢え死にする　(B)(1) (1) 働かずに報酬だけを期待する人は何も得ることが出来ないものだ　(2) 老人についても用いる

(N) (1)(B) 上記の (2) の意が「働かざるもの食うべからず」の意に一般的に用いられるものかどうかは確認できない

〔544〕　**उठाई छड़ी भी काम कर जाती है** (B.T.)

(A) 手に突いている杖でさえも役に立つものだ　(B) いざ喧嘩という時には手にしたものはなんでも武器として役に立つものだ

〔545〕　**उठाऊ का माल बटाऊ में जाय** (B.T.)

(A) 道端で拾ったものは道で失うものだ　(B) 苦労せずに手に入れたものは詰まらぬことに費やされるものだ

(N) (1) 本来の意味では【悪銭身につかず】の意味にはならないものと思われるが (B.T.) は次のように説明をしている．Ill gotten ill spent(B.T.) हराम की कमाई हराम में जाए.

〔546〕　**उड़ती चिड़िया परखते हैं** (B.T.)

(A)（あの人は）飛んでいる鳥を見分ける（ことが出来る）　(B) 人の表情を見ただけで心の中を見抜く人のこと

(N) (1)उडतौ पंछी मापै(Raj.)　(B)(a) 甚だ聡明で抜かりのない人のたとえ　(b) 直ちに物事の本質を見抜き結論に達する人のたとえ

〔547〕　**उड़ भंभीरी, सावन आया** (Fa., B.T.)

(A) 飛べ飛べトンボ，サーワン月がやってきた　(B)(1) 訪れた好機は逃がさぬようにせよ (Fa.1) Make hay while the sun shines(Fa.1) 日のあるうちに干し草を作れ．好機をを活用せよ (D.E.P.)　(2) 君が久しく待っていた時がやってきたぞ，大いに楽しめ (B.T.)

(N) (1)(Fa.2) には上記の　(B) の (2) の意味は記述されていない　(2) उड तितली बल सौंण भादों (Ga.) (A) 飛べ飛べ蝶よ、舞うのは今だ．サーワン月だバードン月だ　(B) 好機の訪れの兆しが見えたならその機を逃さず直ちに仕事（なすべきこと）をせよ　(3)उडौ ए चिड़ियां, सांवण आयौ(Raj.) (A) 飛べ飛べ鳥よ，サーワン月がやってきた　(B)(a) 娘たちにはサーワン月の訪れは待ち遠しいものだ（里帰りの季節の意か）　(b) 嬉しい時には人の指図はいらぬものだ．心はひとりでに浮き立つものだ

〔548〕　**उतने पाँव पसारिए, जितनी चादर होय**(B.T.)

(A) チャーダルの長さだけ足を伸ばすこと（が大切だ）　(B) 人は自分の力量（財力，あるいは，資力）や甲斐性に応じた暮らしをすべきである（そうしないと困ったことになるものだ）

(N) (1)Cut your coat according to your cloth. (B.T.)　(B) 自分の資力の範囲で生活せよ (D.E.P.) (2)उतरा पांव पसारज्यौ, तितरी लांबी सोड़(Raj.)　(B)(a) 手に入る手段に基づいて仕事をなすべきだ．そうでないと困ったことになる　(b) 人は自分の置かれた立場を考えて行動すべきだ　(c) 自分の財力に応じた行動を行うべきだ

〔549〕　**उतर गई लोई, तो क्या करेगा कोई**(B.T., Fa.)

(A) ローイー（毛布）が脱げ落ちたら他人がどうすることが出来ようか　(B) 恥をなくした人は手に負えぬものだ

(N) (1) ローイ (लोई) とはオーバーコートのように羽織って着用する毛布の一　(2)उतरी लोई त क्या कर लो कोई (Ga.)　(B) 名誉や若さを失った人はどうすることが出来ようか　(3)उतर गी लोई अत् के करैगा कोई (K.L.)　(B) 恥じらいを捨て去った人をどうすることが出来ようか　(4)उतार दीनो लोई तो के करैगो कोई (R.J.K.) (A) 人がローイーを脱ぎ捨てたなら他人がどうすることが出来よう　(B) 恥じらいを捨て去ったなら世間体が何恐ろしかろうか　(5)उतार दीवी लोई, कांई करैला कोई (Raj.) これも (R.J.K.) と同じく「脱げた」のではなく「脱ぎ捨てた」という表現になっている．さらに，लोई とは女性の名誉の象徴であるオールニーとの注が加わっていることが興味深い．これはこの諺の本来の

意味にもっとも近いものであろうか．説明は次の通りである．(A)（恥じらいの象徴である）オールニーを脱ぎ捨てた後その人をだれがどうすることが出来ようか (B)(a) 恥じらいを身につけている限り人は世間を恐れるものだ (b) 恥をかなぐり捨てた男と女をたとえていう

〔550〕 **उतरन पहने लाज बचावे** (B.T.)

(A) たとえ他人からもらった古着やお下がりを着てでも恥をかかないようにしなければならないものだ (B) 貧しく苦しい時には体面を保つためには他人の僅かな助力にも頼らざるを得ないものだ

〔551〕 **उतरा शहना, मर्दक नाम** (Fa.) **उतरा शहना (सहना), मर्दक नाम** (B.T.)

(A) 警視をやめたら奴さん呼ばわり (B) 人はその地位で尊厳を得るものだ (Fa.) 人は地位を失うとその影響力も失うものだ (B.T.)

(N) (1)उतर्यो हाकम ढेढ बरोबर (R.J.K.) (A) ハーカム（郡長など司法権を持つ行政長官．ハーキム）は退官すればデードと同じ (2) デード (ढेढ=ढेड) は死獣の皮の処理に当たるのを生業としてきたラージャスターン地方のいわゆる被差別民の一 (3)उतरियोड़ो हाकम गंडक बिरोबर (Raj.) (A) 退役した役人は犬と同じ（ように邪魔者扱いされるものだ） (B)(a) 地位が敬われるのであって人格ではない (b) 人は権力を握っている間だけちやほやされるものだ (c) 権力のもたらす地位を驕ってはならないものだ=उतर्यो हाकम इम बिरोबर ハーカムを退いたらドゥーム（もしくは，ドーム．被差別民の一）と同じ

〔552〕 **उतारन बेचने से ग़रीबी नहीं जाती** (B.T.)

(A) 古着を売っても貧しさはなくならないものだ (B)(1) 大きな問題はほんの少し手だてや工夫をしただけでは解決しないものだ (2) 僅かばかりの資金や投資で大金持ちになろうとする人を揶揄する言葉

(N) (1)दांतण बेच्यां ढाळिद्दर नी जावै(Raj.) (A) 楊枝を売っていては貧乏から抜け出せない (B)(a) 甚だ安価なものを売っていては暮らしは成り立たないものだ (b) ちっぽけなことをしていて大成することは出来ないものだ

〔553〕 **उतावला बावला**(B.T.) **उतावला सो बावला**(B.T.) **उतावला सो बावला, धीरा सो गंभीरा** (Fa.)

(A) あわてれば頭が混乱する (B.T.) せっかち者は頭がおかしい．ゆっくり者はしっかり者 (Fa.)

(B)【急いては事を仕損じる】

(A)(1) Marry in haste repent at leisure(B.T.; D.E.P.) (A) 急いで結婚すると後々悔やむことになるものだ (2)उतावळौ सो बावळौ (Raj.);उतावळौ सो बावळौ, धीरा सो गंभीरा(Raj.) (B) (a) あわて者は分別を失うものだ (b) あわてて仕事をすればしくじるものだ

〔554〕 **उत्तम खेती मध्यम बान, नीच नौकरी चाकरी भीख निदान**(B.T.) **उत्तम खेती मद्धम बान, निखद सेवा भीख निदान**(Fa.)

(A), (B) 生業で一番立派なのは農業，次は商い，雇われは下．下の下は物乞い

(N) (1)उत्तम खेती मद्धिम बान निरधिन सेवा भीख निदान(Kah.,मुज॰ 2; शाहा॰ 2; मुं॰ 1) (A) 上は百姓，中は商人，下は使用人．下の下は物乞い (2)उत्तम खेती मद्धिम बान, निखेद चाकरी भीख समान(Raj.) (A) 一番は農業，中は商い，下は雇われで乞食も同然 (B) 農業は商いよりも勝れている．農業は物を作り出すことだが商いはただ金儲けだけのものだ．人に雇われるのは物乞いにも劣ることだ (Raj.) (3)उत्तिम खेती मध्यम बान। निखिद चाकरी भीख निदान॥(A.V.) (B) 生業で一番良いのは農業，次に良いのが賃働き，

下は人に仕えること，一番下は物乞い　(4) बान を「商い」以外の意に解しているのは (A.V.) のみである．もっとも बान を商いと解するのにも難点がある．बान は बानी に発しているのか．निदान との押韻のため縮まったものか　(5)उत्तम खेती, मध्यम बान, निखिद चाकरी भीख निदान(Bhoj.) ただ (Bhoj.) は'खेती राज रजावे, खेती भीख मँगावे'「農業は殿様暮らし（もさせてくれるが），農業は乞食暮らし（もさせるもの）」を並べて掲げ，農業が一つ間違えば危険な仕事であることも忘れずに伝えている．करै न खेती परै न फन्द पर घर नाँचे मूसरचन्द(B.P.)「畑仕事なくばのほほんと居候」　これなども農業が常に危険と隣り合わせのものであることを強調する表現であろう

〔555〕　**उद्दम से दलिद्दर घटे** (Fa.1)　**उद्यम से दलिद्दर घटे**(Fa.2)　**उद्यम किए दलिद्दर भागे**(B.T.)

(A) 勤勉であれば貧しさは減る (Fa.) 勤勉であれば貧乏神は逃げ去る (B.T.)　(B)【稼ぐに追いつく貧乏なし】

(N) (1)Industry is the key to prosperity (Fa.1)

〔556〕　**उधार खाना, और फूँस का तापना बराबर है**(Fa.)　**उधार का खाना और फूस का तापना बराबर** (B.T.)

(A) 借金暮らしとわらで暖をとるのとは同じこと　(B) 借金暮らしは一時凌ぎであるから避けるべきである．借金は一時的な解決にはなっても長期の解決にはならないものだ

(N) (1) 次も同じく借金暮らしは真の解決策にはならないことを言う उधार का खाना आग खाने के बराबर(B.T.) (A) 借金して飯を食うのは火を食う（身を滅ぼす）のと同じこと　(B) 借金暮らしは一時凌ぎでしかないから避けるべきである　(2)उधार के खाइल आग खेला के बरोबर हऽ(Kah.,शाहा॰ 2) (A) 借金暮らしは火を食うのと同じ　(B) 借金をするのは身を滅ぼすことだ　(3) उधार के खवइ, औ भूर्री के तपइ(Chatt.) (A) 借金をするのはわらを燃やして暖をとるのと同じ　(B) 借金をするとそれが癖になるものだ　(4)उधार रौ खाणौ अर फूस रौ तापणौ(Raj.)　(B)(a) 簡単に手に入ったものは簡単に費やすものだ　(b) わらを燃やした火と同じく借金して食べた食事のぬくもりは続かないものだ　(c) 借金して食べても身につかないのはいつも借金の心配があるからだ　(5) 上記　(4)(B) の (a) については〔545〕を参照のこと

〔557〕　**उधार दिया, गाहक खोया** (Fa., B.T.)

(A) 掛け売りをして客を失った　(B)(1) 掛け売りをするとその客は払いが気になって次になかなか来ないようになるものだ (Fa., B.T.)　(2) 掛け売りをすると客との間がまずくなり客を失うことになるものだ (B.T.)

(N) (1)(Fa.) はこれを商人の間で行われている諺としている．次も同様に商人の間で行われてきた諺である　उधार दिया गाहक गया, सदका दीया रद बला(Fa.1) (A) 金を貸したら客を失った．お供えをしたら厄払いになった　(B) 金は貸すよりくれてやるがよいものだ　(2) 次は更に明確に述べるものである उधार देण से दान देणू भलू(Ga.)　(B) 金は貸すより差し上げたがよい　(3)उधार दियौ'र गिराक गमायौ (A) 掛け売りをして顧客を失った　(B)(a) 掛け売りをすると客が来なくなるので二重の損になる (b) 金を貸すと優しさを失うことになるものだ

〔558〕　**उधार दिया मित्र खोया** (B.T.)

(A) 金を貸して友を失った　(B) 金を貸すと友人との関係を悪くすることになるものだ

(N) (1)=उधार दीजे, दुश्मन कीजे(Fa.1) (A) 金を貸して敵を作れ　(B) 金を貸すものではない（商人の間に行われるもの）　(2)उधार देना बैर का बढ़ाना (B.T.) (A) 金を貸して憎しみを増せ उधार दो और बैर पालो(B.T.) 金を貸して憎しみを育てろ　(3) उधार देना, लड़ाई मोल लेना(Fa.) उधार देना लड़ाई मोल लेना है(B.T.)

(A) 金を貸すのは喧嘩を買うこと (4)उधार मित्रता की कैंची है (B.T.) (A) 金を貸すのは友情を断ち切る鋏=उधार स्नेह की कैंची है(B.T.) (5)उधार देणू, दुसमनी लेणू(Ga.) (A) 金を貸すと恨みを買う (B) 他人には金を貸さぬがよい (6)उधार दीजे, दुस्मी कीजे (Raj.) (B) これは上記の (1) と同じ表現であるが意味は次の通り (a) 貸したものを返せと求めるといさかいになるものだ (b) 物を失った上に友人を仇にすることにもなるものだ

〔559〕 **उधार में महँगा क्या** ?(B.T.)

(A) 掛けで買うのに値が高いがあるものか (B)(1) 借り手は条件を選べないものだ (2) 人生には余儀なく，あるいは，貧しいがために承知の上で損害を我慢しなければならないことがあるものだ

(N) (1) =उधार लेनेवाला पासंग नहीं देखता(B.T.) 掛けで買う人は秤の目盛りは見つめないものだ

〔560〕 **उनकी तूती बोलती है**(B.T.) **उसकी तूती बोल रही है**(Fa.)

(A) あの方のインコが鳴く (B.T.) あの人のインコが鳴いている (Fa.) (B)(1) 人を従わせる影響力とか勢力を持つたとえ (B.T.) (2) 勢力や勢いの盛んな人のたとえ (Fa.1) (3) あの人には威厳がある (Fa.2)

(N) (1) トゥーティーとは春の求愛時に雄が美声で鳴くとされるアトリ科マシコ属アカマシコ (गुलाबी तूती) (Carpodacus erythrinus) とかアトリ科キバラカワラヒワ (हरी तूती) (Cardus spinoides) のことであるが，ここでは飼育されていることを考えるとインコのことと考えられる

〔561〕 **उनके पेशाब में चिराग़ जलता है**(B.T., Fa.)

(A) あの人の小便には明かりが点る (B) 大いに威圧感のある人や傲慢な感じのする人のたとえ

〔562〕 **उपवास से पतोहू का जूठ भला** (B.T.)

(A) 何も食べないよりは嫁の食いさしを食べたがよい (B) ひもじい時にはどんな食べ物であれ食べたがよいものだ

(N) (1) 同義のものに次がある．उपास से पतोहू के जूठ भला (Kah.,शाहा॰ 2) (2) 次は嫁と妻が入れ替わっただけのものである．उपवास से बीबी का जूठा भला(B.T.) (A) ひもじさを堪えるよりは妻の食べ残しを食べるほうがよい (B) 飢え死にするような状況ではたとえ何であれ食べたがよいものだ (3) 表現としては次も嫁ではなくて妻であるが，意味は広いものとなる．उपास भला कि मेहरी के जूठे भला (Kah., चंपा॰ 2) (B) 必要なものが欠けている状況では本来は避けるべきものを代用しても構わない

〔563〕 **उलटा चोर कुतवाले डांडे** (Fa.1) **उलटा चोर कोतवाल डाँटे** (Fa.2) **उलटा चोर कोतवाल को डाँटे**(B.T.)

(A) 盗人が逆に警察署長を叱りつける (B)(1) 立場を逆にしたり形勢を逆転させるたとえ；主客を転倒させるたとえ Turning the tables. (Fa.1) (2)【盗人猛猛し】(Fa.2); B.T. (3)The pot calls the kettle black. 【目糞鼻糞を笑う】(B.T., D.E.P.)

(N) (1)उलटे चोर कोतवाल के डांटे (Kah.,चंपा॰ 2,3; शाहा॰ 2) (B) 悪事を働いておきながら相手を威圧するたとえ (2)उलटा चोर कोटवाळ ने डंडे (Raj.) (A) 盗人が逆に警察署長を処罰する (B)(a) 犯罪人が罪のない人を脅すたとえ (b) 自分の失敗を他人のせいにするたとえ (c)【盗人猛猛しい】(道理に反することのたとえ) (3)उलटा चोरु कोतवालु क डाँटे (A.V.) (A.V.) はこれを下品に言えば次の諺になるという．すなわち，राह माँ हगै ऊपर ते आँखी गुरैरै (A) 道端で糞を垂れた上に通行人に向かって目を剥く（もっともこの類の品のない諺が文字化されることは滅多にないようだ） (4)उलटा चोर कोतवाले दंडे (B.P.) (A) 反対に泥棒が警察を罰金にする (B) ものの道理が逆さまになっていることのたとえ

(5)डाटना（叱責する）と डँडना（罰金を科す，もしくは，処罰する）の二通りの表現が用いられてきているようだ

〔564〕 **उलटा चोर बैकुंठे जाय** (B.T.)

(A) 世の中が逆さまになって盗人が天国へ行く (B) 罪人が名誉を授けられる不条理のたとえ

(N) (1) 諺話あり．

盗賊が一人でいる女性からすべてを剥ぎ取った後，最後に残った指輪を奪おうとした時に女が指輪まで奪い取らなくてはならない理由は何かと問うた．盗賊はこの指輪を金にして四人のサードゥー（行者）たちにご馳走を振る舞うつもりだ，と答えた．するとヴィシュヌ神が自ら姿を現し盗賊を生身のまま天国へ連れて行かれた． (2) このような事例は世間では珍しくない出来事であろうが (B.T.) は他の言語の同類の諺は例示していない

〔565〕 **उलटा पुलटा भै संसारा, नाऊ के सिर को मूँड़े लोहारा**(B.T.)

(A) 世の中が逆さまになった．ナーウー（理髪師カースト）の髪をローハール（鍛冶屋カースト）が刈るとは (B) 世の中のしきたりが破られるたとえ

(N) (1)उलटा-पुलटा भइ संसारा, नाउ के मूँड़ ला मूँड़े लोहारा(Chatt.) (B) 習わしに反することが行われるのをたとえて言う

〔566〕 **उलटी गंगा पहाड़ को चली** (Fa., B.T.)

(A) ガンジス川が山へと流れる (B) あり得ないことや想像を絶するような出来事のたとえ

(N) (1) (Fa.1) は次をこの諺と同義とする．=उलटी गंगा बहना． (2) しかし，उलटी गंगा बेवे(Raj.) はこれと同じ表現ながら (Raj.) の説明する意味は異なるものである．すなわち， (B)(a) しきたりに反する行為をする人について言う (b) 社会通念に反する行為をする人について言う

〔567〕 **उलटी टाँगें गले पड़ीं** (Fa., B.T.)

(A) 逆に自分の足が自分の首に絡みついた (B) (1) 自ら不幸を招くたとえ (Fa.1) 人助けに行ったのに自らが虜になったり罠にはまったりして危険に陥るたとえ (Fa.2, B.T.)

(N) (1)उसकी टाँगें उसी के गले में (Fa.1) (2)उसकी टाँगें उसी के गले पड़ीं(Fa.2) (A) 自分の足が自分の首に巻き付いた (B)(a) 自分の行為の結果として厄介に巻き込まれるたとえ (b) 他人を陥れようとして出かけたところ逆に自らが罠にかかるたとえ

〔568〕 **उलटे बाँस बरेली को** (Fa.1, B.T.)

(A)（ウッタル・プラデーシュ州西北部の竹の産地である）バレーリーに竹を持って行く (B) 理に適わないこと，あるいは，無意味なことや常識に反するようなことをすることやそのような行為をする人のたとえ

(N) (1)Coals to Newcastle(Fa.1) (A)（石炭の積出港である）ニューカッスル港に石炭を運ぶが如し

(2)(B.T.) はガルワーリー（गढ़वाली）の諺である'पिस्यां' भारा घट्ट(Ga.)「ひいた粉をもう一度ひき臼に」を掲げている (3)उलटा बांस बरेली ने भरे (R.J.K.) 反対にバレーリーに向けて竹を積み込む

（ऊ）

〔569〕 ऊँघते को धक्के का बहाना (B.T.) ऊँघते को ठेलते का बहाना(Fa.)

(A) 居眠りをしている人がよろけたのは相手に押されたからだと非難する (B) ほとんどが自分の落ち度のせいなのにそれを棚に上げ一切の責任を他人の僅かの落ち度のせいにするたとえ

〔570〕 ऊँघ रहा था, बिस्तर पा गया (B.T.)

(A) まどろんでいたら寝台が見つかった (B)【渡りに船】

(N) (1) =ऊँघती हुई को पलंग मिल गया(B.T.) ; ऊँघती हुई को बिछौना मिल गया (B.T.) (2) ऊँघता नै बिछावणौ लाधौ(Raj.) (A) まどろんでいた人に寝床が見つかった (B)(a) 求めていたぴったりのものが手に入ったたとえ (b) 好機の得られるたとえ (c) 欲しいものが直ちに揃うたとえ (d) いい口実が見つかると直ちにそれを利用する人のたとえ

〔571〕 ऊँच निवास नीच करतूती, देखि न सकहिं पराई विभूति(B.T.)

(A) 高く聳えるお屋敷に住みながらあさましい行いをする．他人の繁栄を見ることが出来ない (B) 他人の出世や幸せを常に嫉妬する人のたとえ

(N) (1) これは तुलसीदास の作品である रामचरित मानस の अयोध्या काण्ड(2-12-3) の一節である．この作品の詩句にはこの他にも次のように人口に膾炙して諺として用いられるようになったものがある．

ईंधन पात किरात मिताई(2-251), बिधि प्रपंच गुन अवगुन नाना (1-6-2) कोऊ नृप होउ हमहिं का हानी। चेरि छाड़ि अब होब कि रानी।(2-16-3)

〔572〕 ऊँची दुकान फीका पकवान (Fa.1) ऊँची दूकान फीका पकवान(B.T., Fa.2) ऊँची दुकान की फीकी मिठाई(B.T.) (A) 立派な構えの店だが，料理はまずい (B) (1)Great boast little roast (Fa.1, B.T.) 大言壮語する人は大抵実践しないものだ (D.E.P.) A great cry and little wool(B.T.) 大きなことを言うばかりで実行の伴わないたとえ (D.E.P.) whited sepulchres(Fa.1) 白く塗った墓；偽善者のたとえ (D.E.P.)

(2) 有名店にはよい品はない (B.T.) (3) 有名人には信義が少ないものだ (B.T.) (4) 高名な人なのにすることはちっぽけなものだ (Fa.2)

(N) (1)ऊँच दुकान के फीका पकवान (Kah., सा॰ 1; शाहा॰ 2; पट॰ 1; चंपा॰) 名門の人や有名な人にあっては評判だけで実行は伴わないものだ (2)ऊँची दुकांन, फीका पकवांन (Raj.) (B)(a) 高名な人だが行いの悪い人のたとえ (b) だれの役にも立つことのない偉い人のたとえ (3)उन्ची दुकान, फिक्का पकवान् (Kaur.) (B) 見せかけばかりで中身はほんの僅かしかないことのたとえ (5)नाम बड़ा और दर्शन थोड़े (Fa.1) Great cry, little wool (Fa.1, D.E.P.) 大言壮語して実行の伴わないたとえ

〔573〕 ऊँचे चढ़के देखा, तो घर घर यही लेखा(Fa.) ऊँचे चढ़के देखा तो घर घर येही लेखा (B.T.)

(A) 高みから眺めて見るとどの家も同じ高さ（に見える） (B) どの家や家庭にも（何らかの）悩み（や問題）があるものだ

(N) (1)All trees are of one height, when you look down from the moon(Fa.1) 月から見ればどの木も同じ高さ (2)ऊँचा चढ़के देखा घर घर एके लेखा(Kah.,चंपा॰ 1; शाहा॰ 2) (B) どの家庭も似た状況にあるものだ

(3)ऊँचा चढ़नै देखौ, घर-घर औ ई लेखौ(Raj.) (B)(a) 何らかの問題が世の中全体に一様に広がっているたとえ (b) どの家庭にも問題や悩みがあるものだ (c) どの家庭にも何か弱点があるものだ

〔574〕 ऊँचे पर्वत, तारों से नीचे (B.T.)

(A)（どんなに）高い山も星の下にある（山は高くても星には届かず） (B) 身分の低い人や卑しい人は如何に努力しても身分の高い人や立派な品格の人には及ばないものだ

〔575〕 ऊँचे बोल का मुँह नीचा (B.T.)

(A) 大口をたたけば恥をかく (B) 傲慢な人は恥をかく羽目になるものだ

(N) (1)Pride goeth before a fall (B.T.) これは次と同じ意味のものであろう. Pride goes before destruction (and shame comes after) 傲慢は破滅に先立ち, 恥辱がその後に従う.【驕る平家は久しからず】(D.E.P.)

〔576〕 ऊँचे से गिरा सँभल सकता है, नज़रों से गिरा नहीं सँभलता(B.T.)

(A) 高いところから落ちた人は元へ戻れるが, 人の尊敬の眼差しから落ちた人は元へ戻れないものだ (B) 財産を失った人は立ち直れるが恥をかいた人は立ち直れないものだ

〔577〕 ऊँट का ओंठ कब गिरे और कब खाऊँ(B.T.)

(A) (垂れ下がって今にも落ちそうに見える) ラクダの唇はいつ落ちるのか, いつ食べようか (B) 全く可能性のないことを期待する様子を揶揄する言葉

〔578〕 ऊँट का पाद न आसमान का, न ज़मीन का(B.T.) ऊँट का पाद न ज़मीन का न आसमान का (B.T., Fa.)

(A) ラクダの屁は天上に届くものでも地面に落下するものでもない (B) (1) 能なしの人のなすことと無駄話はなんの役にも立たないものだ (B.T.) (2) だれの為にも役立たない人のたとえ (B.T.) (3) 常に中途半端で不完全なものや徹底しないもののたとえ Always hanging half-way; imperfect(Fa.1)

(N) (1)ऊँट रौ पाद नीं धरती रौ, नीं कोई आसमान रौ(Raj.) (A) ラクダの屁は地上のものでも大空のものでもない (B)(a) なんの取り柄もないもののたとえ (b) どっちつかずの宙釣り状態のたとえ (c) だれの役にも立たない人のたとえ (2)(B.K.S.) はどっちつかずの宙釣り状態の惨めな状態のたとえとする. =इधर के रहे न उधर के.

〔579〕 ऊँट का मुँह ऊँट चूमे (B.T.)

(A) ラクダの口に口づけするのはラクダ (B) 大仕事は大人物にしか出来ないものだ

〔580〕 (देखिए,)ऊँट किस कल बैठता है (Fa.1) ऊँट किस कल बैठे ?(Fa.2) ऊँट किस करवट बैठता है (B.T.)

(A) ラクダはどちらの脇腹を下にして伏すか (B) (1) 終わりに気をつけろ. 勝負は最後までわからぬものだ (Fa.1) Mark the end - spoken when two persons are contending and the victory is yet uncertain. (2) 結果が出る前に自分に都合のよいことばかり計算してはならないものだ (Fa.1) Don't count your chickens before they are hatched. 【捕らぬ狸の皮算用】 (3) どのような結果になるかわからないことのたとえ (B.T.)

(N) (1) 諺話あり. 家畜の飼料の草を売る男 ((Fa.1) では八百屋) と陶工が二人で一頭のラクダを借り, それぞれの荷をラクダの背に振り分けにして載せた. 途中でラクダが片方の背に載った草を食べたのを見て陶工が笑った. 目的地に着くとラクダは瀬戸物の載っていたほうの脇腹を下に下ろしたので瀬戸物は粉々に砕けた (B.T., Fa.1) (2)ऊँट कौनी करवट बैठी ? (A.V.) (B) 運勢の不確かなことをたとえて言う表現 (陶器の反対側に載っているのは穀物である) (3)ऊँट कवना करे बैठी (Kah.,चंपा॰ 1; शाहा॰ 2) (B) どういう結末になるのか, だれが勝利者になるのかはわからないものだ (4)(Kah.) にも (B.T.) と同じ諺話がある (5)ऊँट किसी कड़ बैसे (Raj.) (B) (a) どのような結末になるかはわからないものだ (b) 結末をよく知らずして決断を下すのはよくないことだ (c) 将来どのような展開になるかは前もってはわからないものだ (6) これにも諺話があるが, ラクダの荷の片

方は (Fa.) と同じく八百屋のものである (7)कौना करे तो ऊँट बैठेला (B.P.) (B)(B.P.) は (Fa.) 及び (Raj.) と同じくラクダを雇い入れたのは八百屋と壷売りの男とする諺話を伝えているが，その意味は次の通り He laughs best who laughs last. 最後に笑う者がもっともよく笑う．勝負は最後までわからないものだ (D.E.P.)

〔581〕 **ऊँट की चोरी और झुके-झुके** (B.T., Fa.)

(A) ラクダ泥棒が腰をかがめて行く (B) 大仕事は内緒では出来ないものだ

(N) (1) =ऊँट की चोरी निहुरे-निहुरे (B.T.) (2)ऊँट के चोरी निहुरे निहुरे (AV.) (A) 腰をかがめてラクダ泥棒 (B) 本人は気の利いたことをしているつもりが傍目には愚かしかったり滑稽でしかないことを行うたとえ (3)ऊँट के चोरी औ सूपा के ओघा (Chatt.) (A) 箕をかざしてラクダ泥棒 (B) 大仕事は内緒には出来ないものだ（人の見ている前で気付かれずにやってみせるという人に対して用いられる表現）

(4)ऊँट चोराई खले खले जाई (A) ラクダを盗んで低いところを通って進む (B) 隠し果せないことを隠そうとするたとえ (5)ऊँट री चोरी अर छानै-मानै !(Raj.) (A) ラクダ泥棒こそこそと (B)(a) 大きな仕事や危険な仕事は内緒には出来ないものだ (b) 大仕事には大きな危険も付随してくるものだ (c) 大きな仕事はその大きさに比例して自ずと人に知られるものだ (6)ऊँट की चोरी अर निमि-निमीक (Ga.) (A) ラクダ泥棒忍び足 (B) はっきりと目に見える悪事は隠しようがないものだ (7)〔589〕を参照のこと

〔582〕 **ऊँट के गले में बिल्ली** (B.T., Fa.)

(A) ラクダの首に猫をつないだ (B)(1) 不似合いなものや不釣り合いなもののたとえ (2) 無理な条件をつけて物事の進行を妨害するたとえ

(N) (1)(B.T.) 及び (Fa.) に次の諺話あり.「ラクダを失った男がラクダが見つかったら見つけてくれた人に 2 パイサー（安値）で売ると約束した．ラクダが見つかると男はラクダの首に猫をつないでラクダを買う人はラクダと猫の値を合わせた金額を払わなくてはならないと言う条件をつけたのでラクダは売れずに男の手元に残った」(B.T.) (2) この諺話は次の諺にまつわるものとして伝えられているのと全く同じである．ऊँट के सागै बिल्ली बेचै(R.J.K.) ラクダと一緒に猫を売る (3)ऊँट रै सगै मिन्नी (Raj.) 上と同じような諺話があるが，猫の値はラクダの値以上に高額のものであった．なお，(Raj.) の (B) は次の通り (a) 言行が全く一致しない人のたとえ (b) 狡猾な人を信用するといつもだまされることになるものだ (4) 次は ऊँट के गले में बिल्ली の (B) の (1) の限定的な意味に用いられた例と言うことになろう．ऊँट के गले में घंटी(B.T.) (A) ラクダの首に鈴 (B)(1) 偉い人にちっぽけな贈り物をするのを揶揄する言葉 (2) 長身の夫と小柄な妻の組み合わせのたとえ (5) 不調和なもののたとえとしては次もある ऊँट के गले में बैल(B.T.) (A) ラクダの首に牛をつなぐ (B) 不調和なものや不似合いなもののたとえ

〔583〕 **ऊँट के मुँह में ज़ीरा** (Fa.,B.T.)

(A) ラクダの口にクミン（を入れる） (B)(1) 大食漢にほんの僅かの食べ物を供するたとえ (B.T.) (2) 大量なものが必要なところにほんの僅かのものを与えるたとえ (B.T.) (3) とても空腹になっている人にほんの僅かなものを与えるたとえ (B.T.)

(N) (1)ऊँट के मुँह में ज़ीरा, चमार के मुँह में खीरा(Kah.,शाहा॰ 2; B.T.) (A) ラクダの口にクミン，チャマールの口にきゅうり (B)(a) なんの役にも立たないほど少量のものを与えるたとえ (Kah.) (b) 人は適切な食事を得てこそ満足してきちんと仕事をするものだ (B.T.) (c) 人は自分の求める物を適切な分量手に入れてこそ納得するものだ (B.T.) (2)ऊँट के मुँह में ज़ीरा का फोरन(B.T.; Kah. शाहा॰ 2; चंपा॰ 1, 2, 3) ऊँट के मुँह में जीरा के फ़ोरन (Kah.,मुज॰ 2; सा॰ 1) (A) ラクダの口にクミンの薬味 (B) 肉食する

人が菜食では満足が得られないたとえ (3)(B.T.) はマイティリー語の上記の (2) の諺を ऊँट के मुँह में जीरा と同義のものとしているが，(B.T.) の ऊँट के मुँह में जीरे का फोरन の項では， (B)(a) 小さな人物には大人物の仕事や大きな仕事は出来ないものだ (b) 僅かなものでは大きなもののひもじさは癒されない，もしくは，大きなものの必要は満たされない，としている．これに対して (Kah.) は体格に応じた食べ物が得られないのを揶揄して用いるとしている (4)ऊँट के मुँह का जीरा (A.V.) (A) ラクダの口の中のクミン (B) 特に食べ物がだれかにとってあまりにも少量であることのたとえ．(A.V.) はラクダが本来クミンを食べるものなのかと考えるとこの諺の元々の意味は別のものであった可能性もあるとする (5)ऊँट के मूँ में जीरा (Kaur.) (B) 偉い人は少食なものだ (6)ऊँट का मुँह में जीरा (B.P.) (B.P.) は次の説明を加えるのみである． (B) A drop in the ocean. 【大海の一滴】【九牛の一毛】 (7)ऊँट री जाड़ में जीरा रौ कांई पतौ पड़े !(Raj.) (A) ラクダの口にクミンが入ってもわかるものか (B)(a) 大食いの人に少量の食べ物が供されるたとえ (b) 賄賂を取る人が少々の賄賂に満足しないたとえ (8) 供される食べ物があまりにも少量なことのたとえ (M.L.K.)

〔584〕 **ऊँट के विवाह में गधा गवैया** (B.T.)

(A) ラクダの結婚式ではロバが歌い手 (B) 似たもの同士の出合いのたとえ

(N) (1) 一般にロバは愚か者の代名詞として用いられるが，けたたましく調子外れで且つ悲しく哀れに聞こえるその鳴き声から歌の下手なことのたとえに用いられる． (2)ऊंटा रै ब्याव में गधेड़ा गीत गावै(Raj.) (A) ラクダの結婚式ではロバが（祝いの）歌を歌う (B)(a) 愚か者の集まりでは田舎者が立派に見えるものだ (b) 人はその能力に応じて尊敬を受けるものだ (c) 田舎者には自ずと田舎者の仲間が見つかるものだ (3)(B.T.) によると将にこの諺そのままの表現がサンスクリット語にある．
उष्ट्राणां विवाहोस्ति गर्दभा: गीतगायका:

〔585〕 **ऊँट को गुड़-घी से क्या ?** (B.T.)

(A) ラクダにとって黒砂糖もギーもあるものか (B)(1) 大食する者にとっては味覚よりも分量のほうが大切なものだ (2) 貧しい人は粗食でも満足するものだ

(N) (1) ऊंटा रै गळवांणी सूं कांई व्है ! (Raj.) (A) ラクダにとってガルワーニーがどうした（ガルワーニーとはギーを加えて煎った小麦粉に黒砂糖の溶液を加え煮てこしらえる飲み物の一．アーカーティージュ祭にラージャスターン地方でこしらえられる祝いの食品でバラモンなどに贈られる．アーカーティージュ祭はインド暦の第二月バイサーク月，すなわち，陽暦の 4〜5 月の白半 3 日に断食を伴って行われるヒンドゥー教の祭礼でこの日に世界周期の第一であるサティヤ・ユガ／クリタ・ユガが始まったとされる） (B) (a) 大食の人にほんの僅かのもの（雀の涙ほどのもの）が供されるたとえ (b) 僅かばかりの援助ではなんの役にも立たないものだ (c) 強欲な人は僅かなものでは喜ばないものだ (2) ガルワーニーはおいしいものではあるが，その贈られる，あるいは，与えられる分量が問題なのである．たとえいいものでも，それが意味をなさなければいけないのだ，ということに強調があるのであろう

〔586〕 **ऊँट खड़ा होते ही नहीं भागता** (B.T.)

(A) ラクダは立ち上がりざまに走り出しはしないものだ (B)(1) 何事をするにも最初は慣れたり準備をしたりする時間や期間が必要である (2) 商いは初めから順調に儲かるものではない

〔587〕 **ऊँट गए सींग माँगने कान भी खो आए**(B.T.)

(A) ラクダは（神様のところへ）角を貰いに行って耳までも失って戻った (B) 欲張ったために自分が本来持っていたものまでも失ってしまうたとえ

〔588〕 **ऊँट चढ़े कुत्ता काटे** (B.T., Fa.)

(A) ラクダに乗っていて犬に噛まれる (B)(1) 災厄は避けようとしても避けられないことのたとえ (B.T.) (2) 運命は避けようにも避けられないものだ (B.T.) (3) 不運な人には災難は避けられないものだ (Fa.)

(N) (1)ऊँट चढ़या ने कुत्तौ खाय, अणहोणी रौ कांई उपाय(Raj.) (A) ラクダに乗っていながら犬に噛まれる．あり得ないことが起こるのはどうすることも出来ないものだ (B)(a) 不運に見舞われるとあり得ないような事故が起きるものだ (b) 用心や警戒を重ねた上でも不慮の災難が起こるたとえ (2)ऊँट चढ़े पै कूकुर काटे (A.V.) (A) ラクダに乗っているのに犬に噛まれる (B)(a) ラクダに乗っていれば犬に噛まれないものなのに犬に噛まれると騒ぎ立てる．すなわち，恐れる必要もないことを怖がる人を揶揄する言葉 (b) 財力も力もあって何ら怖がる必要のない人が詰まらぬことを怖がるのを揶揄する言葉 (c) あれやこれやと口実を設けて期待されていることをしようとしない人を揶揄する言葉

(3)ऊंट चढ़े नै कुत्तो खाय, अण होणी को के उपाय(R.J.K.) (A) ラクダに乗っているのに犬が噛みつく．あり得ないことが起これば対処の仕方がないものだ (B) 不慮の災難は避けようがないものだ (4)ऊँट चढ़या नै कुत्ता खाय (R.K.) (B) 不慮の災難に遭った際の諦めや慰めの言葉 (5)करम फूटे पर हाथियो पर कुत्ता काटऽ हे(Kah., पट॰ 1) (A) 運に見放されると象に乗っていても犬に噛まれるものだ (B) 運に見放されると思いもかけないような災難に見舞われるものだ (ビハールではラクダよりも象のほうが馴染み深いということか．なお，कुत्ता काटना「犬が噛みつく」というイディオムには「頭がおかしくなる」，という意味の他に (Kah.) によれば,「不運に見舞われる」という意味があるようだ)

〔589〕 **ऊँट चरावे निहुरे-निहुरे** (B.T.)

(A) 腰をかがめて（背中を丸めて）ラクダにこっそり草をはませる (B) 内緒では出来ないようなことをこっそり行おうとすることのたとえ

(N) (1)ऊँट चराना「ラクダに草をはませる」と ऊँट चुराना「ラクダを盗む」の両方の表現があるが，言わんとする意味は同じである．→〔581〕 (2)हिंदी शब्द सागर によれば次のイディオムがある．निहुरे निहुरे ऊँट की चोरी「腰をかがめてラクダ泥棒」((a) 不可能なこと (b) 皆に知られるような狡猾なこと) (3)ऊँट चरावे खाल्हे-खाल्हे (Chhatt.) (A) 人に見つからぬように（禁じられた）低地でラクダに草をはませる (B) 大がかりなことは人目につかぬようにこっそり出来るものではない

〔590〕 **ऊँट जब तक पहाड़ के नीचे नहीं जाता, तब ही तक जानता है, मुझसे ऊँचा कोई नहीं**(B.T., Fa.)

(A) ラクダは山の麓に行くまでは自分が一番背が高いと思っている (B) 自惚れ深い人は自分より偉い人の前ではじめて慢心を砕かれるものだ

(N) (1)A giant amongst dwarfs(Fa.1) (2)ऊँट के आपन ऊँचाई के गेयान पहाड़ पर गइला पर बुझाला(Kah., शाहा॰ 2) (A) ラクダは自分の背丈を山の麓に行って知る (B) 人は皆自分より上のものに出会ってはじめて自分の力量を知るものだ (3)ऊँट से बड़ो पाड़ (Ga.) (A) 山はラクダより大きい (B) だれにも自分より勝れた人がいるものだ．人は自分以上の力量の人を見てはじめて自分の力量を認識するものだ

〔591〕 **ऊँट जब भागे तब पश्चिम को** (B.T.) **ऊँट जब भागे जब पच्छम को** (Fa.1) **ऊँट जब भागे तब पच्छम को** (Fa.2)

(A) ラクダが走り出すときには決まって西に（故郷のアラビアの砂漠に）向かうものだ (B)(1) だれにも故郷はなつかしいものだ (B.T.) (2) 愚かな人がいつも同じような愚行をすることを揶揄する言葉 (B.T.) (3) 愚か者や強情者が同じことを繰り返すことを揶揄する言葉 (Fa.2)

(N) (1)(Fa.1) はアラビアが故郷だから西に向かうとするだけで意味は記していない (2)ऊँट के पराह

पच्छिम में (Kah., चंपा॰ 1) (A) ラクダはいつも西へ走る=ऊँट जब भागी तब पच्छिमे ओर (Kah., शाहा॰ 2); ऊँट बउराले तऽ पच्छिमे जाले(Kah., चंपा॰ 2) (B) いつも同じことをする人を揶揄する表現 (2)ऊँट मक्के को भागता है (B.T.) (A) ラクダはメッカに向かって走る (B) メッカは西の方角にあり,(インドの) ラクダの生まれ故郷も西方のラージャスターンにある. だれしも自分の生まれ故郷はなつかしいものだ

〔592〕 **ऊँट डूबे खच्चर थाह ले** (B.T.) **ऊँट डूबें खच्चर था माँगे** (Fa.1) **ऊँट डूबे, खच्चर थाह मांगे** (Fa.2)

(A) ラクダが溺れる深みをラバが測る (渉ろうとする) (B) 有能な人に出来なかったことを能力の劣る人が試みてみようとするのを揶揄する言葉

(N) (1)He would bend the bow of Ulysses: he would rush where angels fear to tread(Fa.1) オデュッセウス(ユリシーズ) の弓を曲げようとする. エンジェルが踏み入ろうとしないところに突進しようとする (2)ऊँट डूबे जठै गाडर रौ कांई थाग !(Raj.) (A) ラクダが溺れるようなところで羊に何が出来ようか (B)(a) 力のある人が試みて出来なかったことを全く無力な人がなそうとすることのたとえ (b) ちっぽけな人が大仕事をすると大口をたたくことのたとえ (c) 身分不相応な野心を抱くことのたとえ

(3) =ऊँट डूबे, खच्चर था माँगे(B.K.S.), ऊँट बहे गदहा थाह ले(B.K.S.).

〔593〕 **ऊँट तो बुड़बुड़ाते हुए ही लादे जाते हैं** (B.T.) **ऊँट बड़ड़ाता ही लदता है** (Fa.)

(A) ラクダは荷を積まれる時にはブルブルとかバルバルと鳴き声をあげるものだ (B)(1) 我慢強い人は忍耐強く一生懸命に努力するものだ (2) 怠け者はいつも不平を言いながら仕事をするものだ (B.T., Fa.2) (3) いつも不平を鳴らしても厳しい主人から無視される人のたとえ (Fa.1) (4) いつも不平を鳴らしながら仕事をする使用人のたとえ (Fa.1)

(N) (1)ऊँट तै अरडावते ए लद्द्या करै(Har.) (A) ラクダは荷を積まれる時に唸る (B) 忍耐強く勇気ある人は毀誉褒貶を全く気にしないものだ

〔594〕 **ऊँट दूल्हा गधा पुरोहित** (B.T.)

(A) ラクダが花婿 (の結婚式では) ロバが司祭 (B) 卑しい人を誉めるのは卑しい人

〔595〕 **"ऊँट बलैयाँ ले गई" " हाँ जी हाँ जी" कीजे**(Fa.1) **ऊँट बिलाई ले गई, हाँ जी हाँ जी कहना** (B.T.) **ऊँट बिलाई ले गई, 'हाँ जी, हाँ जी' कीजे**(Fa.2)

(A)「ラクダが猫を連れていった」「その通りその通り」と言いなさい (B.T., Fa.2) 「猫がラクダを連れていった」と皆が言えば, あんたは「そうだそうだ」と言わなくてはならないものだ (Fa.1)

(B) (1) 意に反して皆と同じことをするたとえ (B.T.) (2) へつらうために間違ったことにも賛同するたとえ (B.T.) (3) 目上の人に相槌を打つために間違ったことにも賛同するたとえ (Fa.2) (4) 馬鹿げた話に対して,「いかにも仰せの通り」(皮肉) very like a whale(Fa.1) (シェクスピア『ハムレット』III,ii, 399)

(N) (1)ऊँट बिलाई ले गई, हांजी-हांजी कैणौ(Raj.) (B)(a) 弱い者は強い者の言う通りに従わなければならないものだ (b) 暮らしを立てるためには妥協はいずれも正しいものだ (c) 目上の人の言うことには正しかろうが間違っていようが賛同するたとえ (2) これには前の句がある. 次の通り जिण गांव में रैणौ, उण परवांणे वैणौ ।(Raj.) 暮らしを立てる村の通りに歩め (しきたりを守れ) (3)ऊँट बिलाई ले गई, हां जी-हां जी कहणो(R.J.K.) これには次のような諺話がある.「一人のジャートの男のラクダが盗まれた. この村の長が盗人たちと結託していた. ジャートの訴えに対して村の長は猫がそのラクダを連れ去ったのだと結論づけた. 男は馬鹿げたことだとは思ったが, その村に住まなくてはならない身であったので妻にこう言った. 妻よ聞け, この村に住まねばならぬ身じゃ, ラクダは猫が連れ

去った．仰せの通りと申せ」【長いものには巻かれろ】

〔596〕 **ऊँट बुड्ढा हुआ, पर मूतना न आया**(B.T., Fa.)
(A) ラクダは老いても小便の仕方が身につかない (B) 年配になっても愚かしいことをするたとえ

〔597〕 **ऊँट भैंस का क्या मेल** (B.T.)
(A) ラクダと水牛との間がうまく行くものか (B) (1) 不似合いなもの同士の関係についてのたとえ (2) 性格の異なる人同士の関係についてのたとえ
(N) (1) たとえば，ラクダと水牛とを並べて犂を引かせることは出来ないということか

〔598〕 **ऊँट मक्खी को भी हाँकता है** (B.T., Fa.)
(A) ラクダは蝿さえ追い払う (B) たとえどのように小さな相手であれ敵を侮ってはいけない
(N) (1) Never despise your enemy(Fa.1)

〔599〕 **ऊँट मरे तब मुख पश्चिम को** (B.T.)
(A) ラクダは西の方角を向いて死ぬ (B)(1) 人は死ぬ間際には故郷を思い出すものだ (2) 人は死に際には神様を思うものだ（イスラム教徒）

〔600〕 **ऊँट रे ऊँट, तेरी कौन कल सीधी** (Fa., B.T.)
(A) ラクダよラクダ，お前の体に平らなところはあるのかい (B) (1) 全く取り柄のない人のたとえ (Fa.1) (2) 悪辣さに満ちた人のたとえ (Fa.2) (3) 醜い人のたとえ (B.T., Fa.2)
(N) (1)ऊँट री किसी कळ सीधी ? (Raj.) (A) ラクダのどの部分が平らなのか (B)(a) ひねくれ者のすることには真っ当なものは何一つないものだ (b) 何一つ取り柄のない人のたとえ (2)ऊँट रे ऊँट, तोर कवन खाल सीधा बा(Bhoj.) ラクダよラクダ，お前の体のどの部分が平らだ (3) 煮ても焼いても食えないという意味の世故に長けているのではなく悪辣さに満ち満ちている人のたとえと考えるべきで，用いるとすれば極めて親密な間柄でなければ面と向かった相手には使えないと考えるがよい

〔601〕 **ऊँट लंबा पूँछ छोटी** (B.T.)
(A) 図体の大きいラクダは尻尾が短い (B)(1) ほぼ全体が出来上がっているのにほんの一部がうまく行かないたとえ (2) どんなものも完璧とは行かぬものだ
(N) (1)ऊँट लांबौ तौ पूँछ छोटी(Raj.) (A) ラクダの図体は大きいが尻尾は短い (B) (a) 完全無欠な人はいないものだ (b) どのような金満家にも何か不足のものがあるものだ (c) 人の願望がすべて叶えられるわけではない (d) 自然界は自ら調和を保っているものだ

〔602〕 **ऊखली में सिर दिया तो मूसलों का क्या डर ?**(Fa.1) **ऊखली में सिर दिया तो चोटों को क्या गिनना**(B.T.) **उखली में सिर दिया, तो मूसलों का क्या डरना** (Fa.2)
(A) 臼に頭を突っ込んだからには怪我もなんのその (B) (1) 辛いことをやり遂げたからにはこの先なんの辛いことがあろうか (B.T.) (2) 損害を被ることが決まっているのにいまさら悩むことがあろうか (B.T.) (3) やりかけたからには最後までやり遂げなくてはならない In for a penny, in for a pound (Fa.1, D.E.P.)【毒食わば皿まで】 (4) 困難なことを始めたからには困難を恐れることがあろうか (Fa.2)
(N) (1) これは उखली 及び ओखली の形でも見られる．→〔536〕． (2) =ऊखली में सिर दिया तो मूसल का क्या डर ?(B.T.) (3)ऊखळ में माथौ दियौ तौ धमकां सूं कांई डरणौ(Raj.) (A) 臼に頭を突っ込んだからには杵

を恐れることがあろうか (B) (a) 困難な仕事をやり始めたからにはその結果を恐れることがあろうか (b) 自ら危難に立ち向かうのであればそれから生じる危険から進むべき道を避けることがあろうか (c) わざと困難に首を突っ込む人のたとえ (4)उखली में सिर दे जिको धमकां सें क्यूं डरै ?(R.J.K.)

(B) 覚悟の上で危険に身を投じる人にとって恐れるものがあるものか (5)उखली में मूड़ी देलाँ चोटें डरें कत्ते डरबो(Kah.,पुं॰ 1) (B) 覚悟を決めたからには危険を恐れることがあろうか ओखर में मूँड़ी देली तऽ मूसर के का डर (Kah.,शाहा॰ 2) (B) 覚悟を決めたからには危険を恐れることがあろうか (6)ओखळी में सिर दिया, तो मूसळों का के डर(Kaur.) (B) 覚悟して危険なことを始めたからには恐れをなして退くことはない 【毒食わば皿まで】

〔603〕 **ऊधो को लेना न माधो को देना**(B.T.) **ऊधो को लेन, न माधो का देन**(Fa.2) **ऊधो का लेन, न माधो का देन** (Fa.1, Hin.)

(A) (1) 私はウードーに借りはないしマードーに貸しはない (Fa.1) (2) ウードーに貸しはなくマードーに借りはない (B.T., Fa.2) (B) 他人との交渉や関わりを一切持たない人のたとえ

(N) (1) ウードー ऊधो とは उद्धव のこと．ウッダヴァはプラーナ聖典の伝えるところではクリシュナの友人，理解者，相談役，あるいは，親戚とも伝えられる人物．マードー माधो とは माधव，すなわち，クリシュナ（神）のこと．いずれもヒンドゥー教徒のごく普通の名として用いられるものでもあるが，下記の (8) の説明のように関連づけて考えることも出来る (2)ऊधौ रौ लेणौ नीं माधौ रौ देणौ(Raj.) (A) ウードーに借りがあるわけでもマードーに貸しがあるわけでもない．どちらかの味方になるわけではない (B)(a) だれとも何の貸し借りもない (b) 全く独立の人のたとえ (c) 賢明な人は常に中立を保つのを旨とするものだ (3)ऊधो को लेणो न माधो को देणो (R.J.K.) (A) ウードーに貸しがあるわけでもマードーに借りがあるわけでもない (4)माधो के लेबे माँ ना माधो के देबे माँ(A.V.) (A) マードーに貸しがあるわけでもマードーに借りがあるわけでもない (B) 他人との関わりを持とうとしないことを言う表現．中立の立場を採ることについて言う．賢明な人はどちらかの立場を採って人の恨みを買うことを避けようと願うものだ (5)उधो के लेना न माधो का देना (Kah., चंपा॰ 2; शाहा॰ 2) (A) ウードーに貸しもなくマードーに借りもない (B) 他人となんの関わりも持たず気兼ねや心配のない自由な身の上であることのたとえ (6)ऊधो का लैण, न माधो का दैण (Kaur.) (B) だれとも一切の関わりを断つたとえ (7) まとめて言えば，人間関係の煩わしさから逃れている意味での自由な立場がこの諺の中心にあるものか (8)कृष्णचंद्र शर्मा (Kaur.) はこの諺はヒンドゥー教聖典バーガヴァタ・プラーナ श्रीभागवत पुराण の第 10 章におけるクリシュナの友人であるウッダヴァとクリシュナに信愛を寄せるゴーピー（牧女）たちとの間で交わされた無属性の神の信仰と有属性の神の信仰とを巡るやりとりに基づくものである，とする

〔604〕 **ऊधो मन माने की बात** (B.T.)

(A)（ウードーよ）気持ち次第のことだ (B) 他人の意見を受け入れるか否かは相手の人の気持ちや志向次第である．気にいれば受け入れるが，気に入らねば受け入れないものだ

(N) (1)ऊधो मन माने की बात (Kah., शाहा॰ 2) (A) 気に入るか否かの問題だ (B) 人が気に入ったものがその人の好きなものなのだ（これはスールダース सूरदास の有名な句の冒頭部分 'सूरसागर' (10-4022/4640) である） (2)ऊधौ जी बण आयां री बात (Raj.) (A) 説教をしようが説得をしようが相手の気に入るか入らないかの問題だ (B) 腑に落ちなければ話はそこまでのものとなる．意味のないものとなる．知識は知識のままに留まるものだ．無意味なものだ (3)ऊधौ जी मन मान्यां री बात (Raj.) (B)(a) 話が納得されてこそ受け入れられるものだ (b) 納得されてこそ話はだれからも受け入れられるものだ．納得されねば知識は無駄なものとなる (4)ऊधो, बन आये की बात (Fa., Hin.) (A) ウードーよ、これは運によるものさ．好機に恵まれるか否かということだ (B) 実力以上に成功を収めた人について言

う (5)ऊधो बतिआये की बात (B.T.) (A) ウードー，これは話をすべきことだ (B) 予期以上に利益を得たり成功を収めた人について言う

〔605〕 **ऊपर माला भीतर भाला** (B.T.)

(A) 目に見えるところでは手に数珠を（繰り）胸の内（衣の下）には槍を（持つ） (B) 表面は優しく内面は邪悪な人のたとえ

(N) (1) これと全く同じものが見られるが (Kah.मुज॰ 2)，その他の同趣のものは各地に見られる ऊपर ऊपर जापूमाला मन में छत्तीसो कला (Kah., मुज॰ 2) 目に見えるところ（手）には念珠，心の内には手練手管 ऊपर ऊपर बाबी तर में दशाबाज़ी (Kah.,मुज॰ 2) 見えるところでは（優しい）おばあさん（祖母），見えないところではペテン婆さん (2)ऊपर माला, मांय कुदाला (Raj.) (A) 外には数珠，内には踏み鋤 (B)(a) 外見は信心深い人，心の内はひどい悪党 (b) 全くの偽善者のたとえ

〔606〕 **ऊपर राम राम भीतर कसाई का काम** (B.T.) **ऊपर से 'राम राम', भीतर कसाई का काम** (Fa.,B.T.)

(A) 外に向かってはラームラームと神の名を唱え心の内では屠畜人の仕事（をする） (B) 信心深く見せかけながら邪悪な行動をする人のたとえ

(N) (1) =ऊपर से राम राम भीतर कसाई का काम(B.T.). (2)Fair without and foul within (Fa.1) 外面は美しいが内面は醜い． これは次と同じであろう．Fair without but (or and) foul within(D.E.P.) (3)〔605〕を参照のこと (4)ऊपर राम राम भीतर कसाई काम (Kah., मुज॰ 2; शाहा॰ 2) ऊपर से राम राम भीतर कटारी घाव (Kah., पट॰ 1) (A) 口先では名号を唱え胸の内には刀傷を負わせる ऊपर माँ राम राम, भीतर माँ कसइ काम (Chatt.) (B) 偽善者に対して用いられる表現

〔607〕 **ऊसर खेत में केसर** (B.T., Fa.2) **उस्सर खेती में केसर ?** (Fa.1)

(A) 痩せ地にサフラン（を育てる） (B)(1) 甚だ愚かしいことをするたとえ (B.T., Fa.2) (2) 偶然に幸運に恵まれるたとえ (Fa.1) (3) 無能な親から有能な子の生まれるたとえ (Fa.1)【鳶が鷹を生む】

(N) (1) なお，S.W.Fallon は New Hindustani-English Dictionary の中では उस्सर खेत में केसर ? 「痩せ地にサフランは育てられない」をビハール地方の諺として掲げている

〔608〕 **ऊसर पर क्या बिजली पड़े ?** (B.T.)

(A) 荒れ地に雷が落ちようか (B)(1) 持っているものがあれば失う心配があるものだ (2) 悪者は何も失うものがない

〔609〕 **ऊसर बरसई तृन नहिं जामा** (B.T.)

(A) 不毛の地に雨が降ろうとも草は生えないものだ (B)(1) 無駄な努力や無益な試みをするたとえ (2) 愚かな人を教え諭しても無駄である

(N) (1) =ऊसर बरसे तृण नहिं जामा. (B.T.) (2)ऊसर खेती करम के नास (Kah.,चंपा॰ 1) (A) 不毛の地で畑作りは運の尽き (B) 手立てがよくないと努力が無駄になるたとえ

〔610〕 **ऊसर में खाद, फूल न पात** (B.T.)

(A) 荒れ地に肥やしを入れても葉も花もつかない (B)(1) 愚かな人をどれほど教え諭しても少しも身につかないことのたとえ (2) 大変な努力をしても何一つ得るもののないことのたとえ

(ए)

〔611〕 **एक अंडा वह भी गंदा** (B.T., Fa.)

(A) 卵は一つ，それも汚い（腐ったもの）

(B)(1) 一人っ子の上に出来損ないのたとえ (Fa., B.T.) (2) たった一つしか持っていないものが役に立たないことのたとえ

〔612〕 **एक अकेला दो का मेला** (B.T., Fa.)

(A) 一人は淋しく二人は賑わう (B)(1) 二人になると賑やかになるものだ (B.T.) (2) 一人でいるより二人でいるほうがいいものだ (B.T.)

(N) (1)The more the merrier (B.T., E.E.P.) (B)(a) 多いほど楽しい (E.E.P.) (b) 一人でいるよりは二人でいるのがいい (B.T.) (2)The more the merrier, the fewer the better cheer (or fare)(D.E.P.) (A) 大勢になればなるほど陽気になり，少数になればなるほどたくさん食べられる (B)【おいしいものは少人数で食べ，仕事は大勢でせよ】 (3)एक अकेलू, द्वी को मेलो (Ga.) (A) 一人は淋しいが二人ではメーラー（祭礼市）になる

〔613〕 **एक अकेला, दो से ग्यारह** (B.T., Fa.)

(A)1 つは 1 つ，1 + 1 は 11 になる (B) 団結は力を生む

(N) (1)एक से एक, द्वी से ग्यारह (Ga.) (A) 一つは一つのまま，1 と 1 が合わさると 11 になる (2) → 〔622〕 एक और एक ग्यारह होते हैं (B.T.) एक और एक ग्यारह(Fa.1) (3)एक सूं एक अनेक (Raj.) (A) 一つと一つでたくさんになる (B) ものの多いことは大切なことだ (4)एक अर एक तो दो होवै, पण एकै-एकै ग्यारा होज्या(R.J.K.) (A)1 足す 1 は 2 になるが，1 と 1 が一つになれば 11 になる

〔614〕 **एक अनार सौ बीमार** (Fa., B.T.)

(A) ザクロ一つに病人百人 (B) 望まれるものや求められるものに対して希望者や求める人が甚だ多いことをたとえる表現【娘一人に婿八人】

(N) (1) 望まれる物と望む人との数の不均衡を述べるものは多種多様である (2) 次もその一つ. एक असामी सौ अरज़ियाँ (B.T.) (A) 一つの口に百人の申込み (3)एक अनार सौ बीमार (Kah.,मुज॰ 2) (A) ザクロ一つに病人百人 (B) 少量の物に求めの多いたとえ (4)एक अनार, सैंस बीमार (Raj.) (A) ザクロ一つに病人百人 (B)(a) 一人の女性に恋人の大勢いるたとえ【娘一人に婿八人】 (b) 求められる物が僅かしかないのに求める人が大変多いたとえ (5)एक नौनी, मँगत्यों कू लैंजू (Ga.) (A) 娘一人に婿の行列 (6)एक ठन हर्रा गाँव भर खोखी(Chatt.) (A) ミロバランの木（シクンシ科落葉高木．その果に薬効あり）一本に村中が咳をする (B) 一つしかない物を多数の人が欲しがるたとえ

〔615〕 **एक आँख आँख नहीं, एक पूत पूत नहीं** (B.T.)

(A) 片目は目にあらず，ひとり息子は息子にあらず (B)(1) いずれも失えば取り返しのつかない大切なものだ (2) 僅かなものしか持たない場合には余り楽観視するものではない

(N) (1)एक आंख में आंख नीं, एक पूत में पूत नीं(Raj.) (A) 片方の目には目はない．ひとり息子の中には息子はいない (B)(a) 一つしかないものは常になくなりはしないかと不安なものだ (b) 人間社会ではものは多いほどいいものだ 【多々益々弁ず】 (2)एक आंख्य का के सुलाक्खा, एक पूत का के सपूता ? (A) 片方の目しかない人が吉祥の人であろうか，一人の息子しかいない人を息子のいる人と呼べよ

うか (B) 常に不安のある状況のたとえ (3)एक आंख को के मीचे के खोले (R.K.) (A) 片目の人が目を開けようが閉じようが同じこと（開けたとしても片目であるし閉じれば盲目だ） (B) 息子一人では息子を持ったことにならない．いつ失うかも知れないので安心は出来ないものだ (4) → 〔667〕

〔616〕 **एक आवे के बर्तन हैं**(Fa.) **एक आवें के बरतन हैं**(B.T.)

(A)（それらは）同じ窯で焼かれたものだ (B) (1) 似たものの集まり (B.T.) (2) 性質の似たものの集まりについて言う（悪者たちについて言うのが普通）【同じ穴の狢】(B.T.) (3) 息子が父親生き写しであることのたとえ (Fa.2)

(N) (1) これは एक आँवे के बर्तन है とも記される (2)Chips of the same block (D.E.P.) (A) 同じ木片の切れ端；古木塊の一切れ【父親生き写しの息子】 (3) どれもこれも似たようなもの（よくないもの，あるいは，ろくでもないもの）の集まりの意で負の意味が伴う (4) =एक तरकश के तीर 同じ箙に入っている矢 (B.K.S.)

〔617〕 **"एक आने का दूध लिया उसमें भी मक्खी ?" "साहब इतने थोड़े दूध में मक्खी नहीं तो क्या हाथी मिलेगा ?**(B.T.)

(A)「1 アンナの牛乳を買ったらハエまで入っているのかい」「旦那さん，それっぽっちの牛乳ではハエではなくて象が手に入りますかね」 (B) 吝嗇な人を揶揄する言葉

〔618〕 **एक आम की दो फाँकें** (B.T., Fa.)

(A) 同じマンゴーの二切れ (B)(1) 人や物が大変似通っていることのたとえ【瓜二つ】(B.T., Fa.1) (2) 別個にはなっているが元が同じもののたとえ (B.T.) (3) とても仲の良い血を分けた兄弟のたとえ (Fa.2)

(N) (1) एक आमे दी फाँक (Ga.) (B) 父親を同じくする二人の兄弟 (2)एक आंम री दो फांकां(Raj.)
(B)(a) 同じような徳を備えた二人の人物をたとえる表現 (b) 情愛の深い２人の実の兄弟のたとえ (c) ２人の親友の親愛の情を表す言葉

〔619〕 **एक आँख से रोवे, एक आँख से हँसे** (B.T.) **एक आँख से रोवे, एक से हँसे**(Fa.)

(A) 片方の目で泣き，もう片方で笑う (B)(1) 悲喜こもごもの状態のたとえ (B.T.) (2) 世の中は悲喜こもごもである (B.T.) (3) 悪賢い人や狡猾な人のたとえ (Fa.1, B.T.) (4) 嘘泣きをする人のたとえ（一般に子供について言う）(Fa.2)

(N) (1) 嘘なきのたとえに発する諺であろう एका आँखन रोऊ हेकन हेंसू (Ga.) (B)(a) 嘘泣きをするたとえ (b) 裏表のある振る舞いをするたとえ

〔620〕 **एक इनकार सौ दुःख दूर** (B.T.)

(A) 一度の断りで百の悩みがなくなる (B)(1) 相手の求めに応じてたくさん厄介を抱え込むよりも一度きっぱり断ったほうがいいものだ (2) 厄介なことが生じないように貸し借りはしないがいい

(N) (1)एक नन्नौ सौ लफड़ा टाळे (Raj.) (A) 一度の断りが百度の厄介を遠ざける (B)(a) 何事にせよきっぱりと断る以外に良い方法はないものだ (b) 何かのことで賛同すれば厄介なことになるが，断ればあらゆる面倒はなくなるものだ

〔621〕 **एक एक पैसे से लाख होते हैं**(B.T.)

(A)1 パイサーを積み重ねたものが十万の金になる (B) だれしも少しずつためて行けば金持ちになるものだ

(N) (1) =एक एक बूँद से सागर भरता है(B.T.) (A) 一滴一滴で海が満ちる【塵も積もれば山となる】 (2)एक एक छांट सूं समंदर भरीजै(Raj.) (B) 浪費する人に貯蓄の重要性を理解させるために言う言葉

〔622〕 **एक और एक ग्यारह होते हैं**(B.T.) **एक और एक ग्यारह**(Fa.)

(A)1 足す 1 は 11 (B) 団結は力なり．協力することにより大きな利益のあげられることを述べる表現

(N) (1)Union is strength (B.T., D.E.P.)【団結は力なり】 →〔613〕एक अकेला, दो से ग्यारह (2)एकै-एकै इग्यारा (Raj.) (A)1 足す 1 は 11 (B)(a) 一人の人が加わることで 2 倍の力になるのではなく 11 倍になるものだ (b) 協力や団結は無限の力を秘めている (3) →〔613〕

〔623〕 **एक कन्या सहस्र वर**(B.T.)

(A) 一人の娘に千人の婿 (B)(1) 神は一人の娘に千人の婿を創り出すが結婚できるのは一人でしかない (2) 夫婦の縁は宿世の縁

(N) (1)एक कन्या, सहसर बर (Har.) (A) 神は一人の娘に千人の婿を創り出すが，娘は前世での縁がある人としか結婚できない (B) 宿世の縁で夫婦は結ばれるものだ

〔624〕 **एक कहो न दस सुनो** (Fa., B.T.)

(A) 一つを言わず十を聞くな (B) たとえ一言でも人を罵るな．他人の罵りを十聞くな．そうすれば人に罵られることがないものだ（人の悪口を言わなければ自分が悪口を言われることはないものだ）

(N) (1) これと同じ意味ではあるが別の表現がある．एक कहो दस सुनो (A)（悪口を）一言言ってその十倍（の悪口）を聞け (M.L.K.)

〔625〕 **एक कान सुनी, दूसरी कान उड़ा दी** (Fa.) **एक कान सुनी दूसरे कान उड़ाई** (B.T.)

(A) 片方の耳で聞き他方の耳から捨て去った (B) 他人の話を注意深く聞こうとしなかったり他人の意見に耳を傾けようとしなかったり他人の批評を意に介さなかったりするたとえ 【馬耳東風】

(N) (1)एक कांन सुणी अर दूजे कांन काढ़ी(Raj.) (B)(a) 注意深く相手の話を聞かない人のたとえ (b) 無頓着な人のたとえ

〔626〕 **एक का मुँह शक्कर से भरा जाता है और सौ का मुँह ख़ाक से भी नहीं भरा जाता** (Fa., B.T.)

(A) 一人の人の口に砂糖を満たすことは出来るが，百人の口は土埃ですら満たすことは出来ないものだ (B)(a) 少数の人には親切に接することが出来ても大勢の人に対しては何一つ出来ないことのたとえ (b) 少数の人なら援助することが出来るが思いもかけず大勢の人を援助することを求められた人のたとえ (Fa.1) (c) 少数の人のほうが丁重にもてなしが出来るものだ (Fa.2)

〔627〕 **एक की दस सुनाता है** (B.T.)

(A) 一言言えば十倍返す (B) 猛烈に口やかましい人のたとえ

(N) (1) =एक की सौ सुनाता है (B.T.). (A) 一言言えば百倍返す

〔628〕 **एक की सैर, दो का तमाशा। तीन का पिटना, चार का स्यापा॥** (Fa.) **एक की सैर, दो का तमाशा, तीन का मेला, चार का झमेला।** (B.T.)

(A) 一人では旅，二人では旅の楽しみ，三人では喧嘩を始め四人では死人が出る (B) (1) 大勢では旅をするな (Fa.1) (2) 一人でいるのが一番良いものだ．せいぜい二人まで．それ以上になると

混乱やいざこざが起きるものだ (B.T.)　(3) 旅はひとりでするのが良い．見物は二人でするのが良い．三人ではいさかいが起こる心配があり四人になると葬列が出来る (Fa.2)

(N) (1) =एक की सैर, दो का तमाशा, तीन की फिटफिट चार का स्यापा(B.T.)　(2)【三人旅の一人乞食】には三人以上は含まれないものか

〔629〕　**एक के दूना से सौ के सवाई भल** (Fa.)　**एक के दूने से सौ के सवाये भले** (B.T.)

(A)1 が 2 倍になるよりも 100 が 1.25 倍になるのがよい　(B)(1) 薄利多売が良いものだ．(Fa.1, 2; B.T.)　(2) 高利の投資よりも低利の投資が安全だ (Fa.1)

(N) (1)(Fa.) には商業界に行われるものとの注がある

〔630〕　**एक घड़ी की ना, सारे दिन का उद्धार** (Fa.)　**एक घड़ी की ना, दिन भर का उद्धार** (B.T.)

(A) 半時の半分の間「いや」と言えば一日中楽になる　(B) 一度きっぱり断れば幾度も同じことを求められて苦しむことがなくなるものだ

(N) (1)〔620〕 **एक इनकार सौ दुःख दूर** を参照のこと　(2) 次はこれとよく似た表現の諺であるが，表現するものは全く別のものである．एक घड़ी नगटाई, सेंस घड़ी आराम (Raj.) (A) 半時の半分恥をさらして四十五日の左団扇　(B) 破廉恥な人を揶揄する言葉

〔631〕　**एक घर तो डायन भी छोड़ देती है** (B.T.)

(A) ダキニー（／ダーイン）でさえも一軒ぐらいは見逃すものだ　(B) どんな悪者や非情な人でさえ血縁や地縁の配慮はするものなのに（あいつは／お前は）それさえしないひどい奴だ

(N) (1) =एक घर तो डाइन टाले (B.T.)　(2) ダキニー（／ダーイン）とはその邪視の目で睨んだ子供を殺したり苦しめたりするという俗信がある (Kah., शाहा॰ 1)　(3)एक घर डाइनियो बकसेले (Kah., शाहा॰ 1) (A) ダーインでさえ一軒ぐらいは見逃してくれるものだ　(B) どんな悪党にも哀れみの心はあるものだ　(4)एक घर तौ डाकण ई टाळै (Raj.)　(B)(a) 自分の家族，友人，仲間などに（だれかれなしに）迷惑をかけることをたとえる表現　(b) 身近な人の女性にまで手を出すような好色な人のたとえ (c) 甚だ無慈悲な人のたとえ　(5)एक घर तै डाण्य बी टालै (Har.)　(B) どれほどの悪党も近親者など身近な人には同情の気持ちを抱くものだ

〔632〕　**एक घर ब्याह, एक घर मातम**(B.T.)

(A) 一方に結婚式をする家もあれば他方には葬式をする家もある　(B) 悲喜こもごもがこの世の習いと知るべし

〔633〕　**एक चना दो दाल** (Fa., B.T.)

(A) ヒヨコマメは二つに割れる（ヒヨコマメは二つにしか割れないものだ）　(B)(1) 簡単な仕事は簡単になせ (Fa.1)　(2) 決まり切ったことや確定的なことのたとえ (B.T.)

(N) (1)Two bites at a cherry (Fa.1) サクランボを二口で食べる Never make two bites of a cherry (D.E.P.) (A) サクランボを二口で食べるな　(B) 一度にやれる仕事を二度に分けるな　(2) 本来これは童謡の一節である (Fa.2) एक चना दो दाल, मोरी सावन आई…　(3)एक चिणौ दो दाळ (Raj.)　(B)(a) ヒヨコマメをほめそやす人に対して，結局ヒヨコマメはヒヨコマメにしか過ぎないから二つにしか割れないものだ．それ以上のものではない．それと同じように何かを褒め称えようとも大したものではない (b) ヒヨコマメを二つに割ってしまえば芽は出ない　(c) まとまっていれば大きくなるが，ばらばらになればなくなってしまうものだ　(d) 二人の兄弟を公平に見る人の立場のたとえ　(4)S.W. Fallon

はその辞書には एक चने की दो दाल を次のように説明している．(a) 同じものをちょうど半分にしたもの　(b) 血を分けた二人の兄弟 (A New Hindustani English Dictionary, reprint, New Delhi, 1989)

〔634〕　**एक चना बहुतेरी दाल**(Fa., B.T.)

(A) ヒヨコマメの完全な一粒は沢山のひき割りに匹敵する　(B)(1) 多数の兵卒の命よりも一人の将軍の安全のほうが重要であるように重要なもののみが守護に値する (Fa.1)　(2) 一つのものから沢山のものが生じるものだ (B.T.)　(3) 一家の主人が生き延びれば家族は増えるものだ (B.T.)

〔635〕　**एक चना भाड़ नहीं फोड़ सकता** (B.T.)

(A) 一粒のヒヨコマメはかまどを砕くことが出来ない　(B) 一人では何もなし得ないものだ

(N) (1) → 〔47〕 अकेला चना भाड़ नहीं फोड़ सकता.

〔636〕　**एक चुप सौ को हराए**(Fa.)　**एक चुप हज़ार चुप**(Fa.)　**एक चुप हज़ार को हराये**(B.T.)　**एक चुप सत्तर बला टाले**(B.T.)

(A) (1) 一人の沈黙が百人の人を負かす (Fa.)　(2) 一人の沈黙が千人を黙らせる (Fa., B.T.)　(3) 一つの沈黙は七十の災厄を取り除く (B.T.)　(B) 沈黙は金なり (Fa.)

(N) (1) =एक चुप हज़ार बला टाले. (B.T.)　(2) =एक चुप सौ सुख (B.T.)　(3)एक चुप्प सौ लपरां नै हरावै(Raj.)
(A) 一つの沈黙が百のおしゃべりを負かす　(B) 無駄口は慎むべきだ

〔637〕　**एक जंगल में दो शेर नहीं रहते** (B.T.)

(A) 一つの森に 2 頭の獅子は棲まない　(B)【両雄並び立たず】

〔638〕　**एक जने से दो भले**(B.T.)

(A) 一人よりは二人がよい　(B) 旅は一人でするより二人連れがよい．旅は道連れがあるのがよいものだ

(N) (1)〔628〕を参照のこと

〔639〕　**एक जान दो क़ालिब**(Fa., B.T.)

(A) 二つの身体に一つの命　(B)(a) 一心同体；大変親密な間柄や友人関係のたとえ (B.T.)　(b) 親密な友人関係や仲の良い血を分けた兄弟のたとえ (Fa.2)

〔640〕　**एक जान हज़ार अरमान** (B.T., Fa.)

(A) 一つの命に千の熱き願い　(B) 寿命に比べて人の願いは多すぎるものだ．人間の欲は多すぎるものだ

〔641〕　**एक झूठ के सबूत में, सत्तर झूठ बोलने पड़ते हैं**(B.T.)

(A) 一つの嘘を取り繕うために七十の嘘を吐かねばならないものだ　(B)(1) 一つの罪を犯すと更に多数の罪を犯すことになるものだ　(2) 嘘を吐けば嘘を重ねて言うことになる；嘘を繕うために嘘を重ねることになるものだ

(N) (1) =एक झूठ में सौ झूठ (B.T.)　(2)एक झूठ सौ झूठ केवटै (Raj.) (A) 一つの嘘が百の嘘をはびこらせる　(B)(a) 一度嘘を言えば幾度も嘘を言わなくてはならなくなるものだ　(b) 嘘を言えば事態は悪くなるばかりだ　(c) 真実は一つしかないが，嘘は様々な姿をとる．だから人は真実を語らなくてはならない

〔642〕 एक तंदुरुस्ती हज़ार नियामत (B.T.) एक तन्दुरुस्ती हज़ार नेमत(Fa.1) एक तन्दुरुस्ती हज़ार न्यामत(Fa.2)

(A) 健康一つは一千の恵みに等しい (B) 人には何にも増して健康が大切なものだ

〔643〕 एक तरफ़ की बात गुड़ से भी मीठी (B.T.)

(A) 一方が語る話は（黒）砂糖よりもうまい (B) 当事者の一方だけの話に引き込まれてはならない．正しい判断が出来なくなる

〔644〕 एक तवे की रोटी, क्या छोटी क्या मोटी ? (Fa., B.T.)

(A) 同じ鍋で焼いたローティーに大きいも小さいもないものだ (B)(1) 同じ家族や同じ出自の人を区別しようとする人に対して用いられる言葉．皆同じようなものだ (Fa.1) (2) 同じようなものをあれこれ区別することはない (Fa.2) (3) 同じ部類の人たちにいろいろと違いがあるわけはない (B.T.)

(N) (1)एक तवा री रोटी, कांई छोटी अर कांई मोटी !(Raj.) (B)(a) 同じ鍋で焼いたローティーはどれもほぼ同じ大きさのものだ．大小を気にすべきではない (b) 詰まらぬことで嘆いたり文句を言ったりしてはならない (2) 仮に違いがあるとしても大したものではないのをとやかく言うべきではない，ということに本意があるのであろう

〔645〕 एक तवे की रोटी, क्या पतली क्या मोटी ? (B.T.)

(A) 同じ鍋で焼いたローティーにも薄いものもあれば厚いものもある (B)(1) 同じ家族の人は姿形は異なっても性格や性分は似通っているものだ (2) 同じものの二つの部分は大小があろうとも性質は似ているものだ

〔646〕 एक तिनका भी भारी होता है (B.T.)

(A) わら一本でも重いものだ (B)(1) 虚弱な人や体力の衰えた人にはほんの僅かの物でも重く感じられるものだ (2) 暮らし向きが悪くなると僅かの負担も耐えられなくなるものだ

(N) (1)(B.T.) は It is the last straw that breaks the camel's back「ラクダの背骨を折るのは最後に積んだ一本のわら」を参照しているが，これは It is the last feather that breaks the horse's back(D.E.P.) と同じと思われる． (2) したがって英語のこの諺の本意は何物にも守るべき限度がある，ということか

〔647〕 एक तीर दो निशाने(B.T.)

(A) 一つの矢で二つの的を射る (B)【一石二鳥】

(N) (1)To kill two birds with one stone (B.T., D.E.P.) (2) =एक तीर से दो निशाने (B.T.) (3) → 〔663〕

〔648〕 एक तो अपने डाइन दूजे हाथे लुकाठा (B.T.) एक तो डाइन दूसरे हाथे लुकाठ (B.T.) एक तो डाइन, दूसरे हाथ लुआठ(Fa.)

(A) 自らはダーインである上に手には松明を持っている (B)(1) そもそも物騒な人間である上に恐ろしい手段や道具まで手に入れたので一段と恐ろしいものとなっている (B.T.) (2) 甚だ危険な人物のたとえ (Fa.1) (3)【鬼に金棒】とは違う

(N) (1)डाइन については〔631〕を参照のこと (2)एकु ते डाइन दुसरे हाथ लुकाठा(A.V.) (B) 元々が恐ろしいものが一段と恐ろしいものになっていることをたとえて言う (3)एक तऽ अपने डाइन दुसरे ओझा से बिआह(Kah., चंपा॰ 2) (4)एक तऽ अपने डाइन दुसरे ओझा से बिआह(Kah., चंपा॰ 2) (A) 元々がダーインの女が

オージャーの妻となった (B) 元々問題のある者が似たような者との仲間になることをたとえて言う (5) オージャーとは黒魔術を行う人や呪術師のこと

〔649〕 **एक तो अमृत, दूसरे कुंडा भर** (B.T.)

(A) アムリタが，それも大鉢に一杯の分量 (B)(1) 最上等のものがそれもたっぷり手に入るたとえ (2) 他人に高価な物をそれも大量に求める厚かましさを揶揄する言葉

(N) (1) アムリタとはインド神話で不死をもたらすとされるもので霊水とか甘露と訳される．神話の中では神々と魔族アスラとが行った乳海の撹拌によって得られたとされる

〔650〕 **एक तो करेला कड़वा, दूसरे नीम चढ़ा**(Fa., B.T.)

(A) もともとが苦いニガウリ（ツルレイシ），それもニーム（インドセンダン）の木に這いあがったもの (B) 元々が性質のよくない人が悪い人との付き合いで更に悪くなるたとえ

(N) (1) =एक तो कड़वी लौकी दूसरे नीम चढ़ी(B.T.) (2)(Fa.1) はルカ伝 xi-26 を引用している．Then goeth he, and taketh to him seven other spirits more wicked than himself ... and the last state of that man is worse than the first, (Then goeth he, and taketh to him seven other spirits more evil than himself; and they enter in and dwell there; and the last state of that man becometh worse than the first) Luke xi, 26 （そこでまた出て行き自分以上に悪い他の七つの霊を連れてきて中に入り，そこに住み込む．そうするとその人のその後の状態は以前よりももっと悪くなる） (3)एक तो करेल्ला दूसरे नीम चढ़या(K.L.) (B) もともと悪くなっていたのが，悪い仲間との付き合いが出来た (4)एक तो गडेरिन ऊपर से लहसुन खाए(B.T.) एक तो गडेरन, दूसरे लहसुन खाए (Fa., E.) (A) 羊飼いの女，それがおまけにニンニクを食べている (B)(a) 極めて不潔な人のたとえ (Fa.) (b) 汚らしい人や悪党が一段と汚らしくなったり悪辣になったりするたとえ (B.T.) (5)एक तौ गडेरिन दूजे पियाज खाए (A.V.) (A)（常に動物と一緒にいるために悪臭を放つ）羊飼いの女が玉ねぎまで食べている (B) もともとよくなかったものが更に悪くなるたとえ (6)एक तो गड़रनिन, तौन माँ लसुन खाय(Ch.) एक तो गड़रनीन, तिस पर लहसुन खाई (Chatt.) (B)(a) 不潔な度合いが一段と増すたとえ (Ch.) (b) 低いカーストの人があさましいことをするのをたとえる言葉 (Chatt.)

(7) この諺の分布は (Fa.1) が E. と記していることからもヒンディー語地域の東部を中心に行われてきたものか (7)एक तो कड़वी गिलोय, और नीम पै चढ़गी(Kaur.) (A) 苦いギローイ，それもインドセンダンに這ったもの (B) ギローイとはツヅラフジ科蔓木 [*Tinospora sinensis*] で苦味のある熱冷まし用の薬草になるから गडेरिन などの例示されるものとは違い苦味そのものに負の意味はない．苦味の度合いが強調されるだけである (8)एक तो करइला अपने करुई दूसरे चढ़ली नीम(B.P.) (B) 本来よくないものがさらに悪くなるたとえ (9)एक तऽ करइला दोसरे चढ़ल नीम पर(Kah., चंपा॰ 1, 2) (B) 質の悪い人が悪い仲間とつきあうたとえ

〔651〕 **एक तो चोरी दूसरे सीनाजोरी** (Fa., B.T.)

(A) 盗みを働いた上にふんぞり返る (B)【盗人猛々し】

(N) (1) =चोरी और सीनाजोरी; एक तो चोरी ऊपर से सीनाजोरी(Fa., B.T.) (2)एक तऽ करे चोरी दोसरे सीनाजोरी (Kah., शाहा॰ 2; मुज॰ 2) (B) 過ちを犯したのに逆に威張った物言いをすることを揶揄する言葉

〔652〕 **एक थैली के चट्टे बट्टे** (B.T.)

(A) 同じ袋に入ったがらがらの玉 (B) 相似たもの；似たもの同士；似たり寄ったりのもの

(N) (1) =एक ही थैली के चट्टे बट्टे (B.T.) (2)Tweedledum and Tweedledee (B.T.) 似たり寄ったりの二人；瓜二つの人 (3) これの使用される対象は常に負の意味を持つものであろう．すなわち，【同じ穴の狢】(M.L.K.)

〔653〕 **एक दर बंद, हज़ार दर खुले**(Fa., B.T.)

(A) 一軒の戸が閉まっていても千軒の戸は開いている (B)(1) 希望はまだある (Fa.1) (2) 解雇された人の強がりの言葉 (B.T.) (3) だれか特定の人にすがるのではなく自分の力量で何とかしてみせる (Fa.2)

(N) (1)एक दरवाज़ा बंद बा हज़ार दरवाज़ा खुलल बा(Kah.,चंपा॰ 1) (A) 一軒は閉ざされていても千軒は開いているものだ (B) 期待した人から何も得られなかった際に発せられる言葉.「他にもあるさ（あんたのお世話にならなくてもいいのだ）」

〔654〕 **एक दिन का काम, सब दिन का आराम**(B.T.)

(A) 1日の働き，毎日の安楽 (B) 若い時に真剣に努力をすれば一生安楽に過ごせるものだ．苦労は若い時分にせよ

〔655〕 **एक दिन पाहुना, दूसरे दिन ठेहुना, तीसरे दिन कोई ना**(B.T.)

(A) 初日は客人，二日目は膝扱い，三日目はだれも相手にせず (B.T.) (B) 親戚の家には長期に滞在してはならない (B.T.)

(N) (1)एक दिन का पाहुना, दूसरे दिन अन्न खावना(Fa.1) एक दिन का पावना, दूसरे दिन अनखावना (Fa.2) एक दिन का पाहुना, दूसरे दिन अनखावना(B.T.) (2) अनखावना とはうっとうしいものや苛立たせるもの，もしくは，食事をするな，の意に解される (Fa.2) (A) 初日は客人，翌日は食客 (Fa.1)，(A) 初日は客，翌日は面倒がられるものだ (Fa.2., B.T.)，(A) 初日は客人，翌日は食事をするな (Fa.2) (3)एक दिन पहुना दूसरे दिन ठेहुना तीसर दिन केहूना(Kah., चंपा॰ 1) (A) 客扱いは初日だけ，二日目はありきたりの扱い，三日目には（親類の）数の内に入れられずただの人に扱われる (B) 親類の家に長く泊まるものではない なお，(Kah.) は ठेहुना は本来「膝」の意であるが，ここでは重きをなさない，の意であるとする．次はこれと同一のものと思われる．Fish and guests stink after three days(B.T., E.E.P.)(A) 魚と客は三日後に臭ってくる (E.E.P.) 「親戚の家には長逗留をするな」(B.T.) Fresh fish and newcome guests smell by (that time) they be three days old (/ smell in three days) (A) 生の魚と新来の客人は三日の内に悪臭を放つものだ (4)एक दिन रौ पावणौ, दूजे दिन अळखावणौ(Raj.) (A) 初日は客，翌日は不快な思い (B)(a) よそに幾日も泊まるとぞんざいな扱いを受けるものだ (b) あまり会わないようにすると丁重な扱いを受けるものだ (5)एक दिन पावणूं, दूजै दिन अनखावणो, तीजै दिन बाप को मुंधावणूं (K.S.R.) =एक दिन मेहमान, दो दिन मेहमान, तीसरे दिन बला-ए जान(B.T.) एक दिन मेहमान, दो दिन मेहमान, तीसरे दिन बलाए जान(Fa.1, Mah., B.T.) (A) 一日，二日は客人（扱いされるが,）三日過ぎれば厄介者（扱いされる）

〔656〕 **एक दिन सब को मरना है** (Fa., B.T.)

(A) だれしもいつかは死ななければならない (B) 不死の人はいない

〔657〕 **एक दिन सात रोटी बासी एक दिन उपवास**(B.T.)

(A) ある日には7枚のローティーが残りある日には全くの断食 (B) 段取りの悪さや計画や見通しのなさのたとえ

(N) (1)एक दिन सात रोटी बासी एक दिन ठक दउ उपास(Kah., दर॰ 1) (B)(a) 仕事の段取りの悪さのたとえ (b) 大変丁重にもてなすかと思えば突然に無礼なもてなしをするたとえ

〔658〕 **एक नकटा सौ को नकटा कर देता है** (B.T.)

(A) 一人の鼻欠け男が百人の人を鼻欠けにする　(B) 一人の悪人が多数の人を悪に染まらせることのたとえ

(N) (1) 諺話あり.「ある王様が命じて刑罰に盗人の鼻を削ぎ落とさせた．盗人は鼻を削がれた途端激しく踊りだし鼻を削がれたら神様が目に見えるようになったと言い始めた．男を真似て他の人たちも鼻を削いで貰った．盗人はその人たちに,『自分にも神様が見えるようになったと言え．さもないと皆から嘲られ鼻欠け者と呼ばれるぞ』と言った．こうして鼻欠けたちの数が増えその話が王様にも伝わった．盗人の鼻欠けは王様から問われると鼻を削いでもらうようにと告げた．王様はその気になったが，大臣が代わりに削いで貰うことになった．盗人の鼻欠けが大臣に同じ言葉をささやいたが，大臣は鼻欠けたちを皆捕らえさせ王様が鼻欠けになるのを防いだ」　(2) 鼻欠け नकटा とは，鼻 (नाक) を削がれた (कटा) から成る語であるが，鼻を削ぎ落とされた人のことである．この行為は古代インドから犯罪人に刑罰として，あるいは，人に恥辱を与えるために行われてきたようであり，今日もいわゆるダコイト（群盗・強盗団）が実行することで知られる　(3)नाक，すなわち，鼻は人の尊厳や名誉の象徴であるからこれを用いたイディオムは甚だ多数に上る．自ずと鼻がない人とは不名誉な人，恥知らずの人，厚顔無恥な人などの意にもなる

〔659〕　एक 'नहीं' सत्तर बला टाले (B.T., Fa.)

(A) 一度の「いや」が 70 回の厄介を取り除く　(B) 一度きっぱりと断れば幾度も口実を設ける必要がなくなる

(N) (1) =एक 'ना' सौ दुख हरे (Fa.) (A) 一つの「否」が百の苦しみを取り除く　(B) 一度きっぱりと断ればいつまでも苦しんだり悩むことはないものだ　(2) =एक नाँ छत्तीस रोग टाले(B.T.)　(3)एक नन्नौ सौ लफड़ा टाळे (Raj.) (A) 一度の断りが百の面倒を遠ざける　(B) 曖昧な断りの返事をするものではない

(4)〔630〕を参照のこと

〔660〕　एक नाक दो छींक काम बने बहुत ठीक (B.T.)

(A) 二度のくしゃみは首尾が良い　(B) 同じ人が続けざまに二度くしゃみをすれば事はうまく進む

(N) (1) 鳥獣の鳴き声ばかりでなく自然界や星辰の動き，動植物の動きや変化，瞬きやくしゃみなどの人体の様々な生理現象，あるいは，夢などが前兆として捉えられるのは万国に共通のものであろう　(2) インドではくしゃみはだれが，どのように，どの方角で，どの時刻に，何曜日に生じるかなど実に様々な解釈がなされているが，出掛けに生じるくしゃみは縁起が悪いとされる

〔661〕　एक नीम सब घर शीतल (B.T.,Fa.1)　एक नीम सब घर सितलहा(Fa.2)

(A)(1) 一本のニームの木（インドセンダン）で家全体が涼しい (B.T., Fa.1)　(2) インドセンダンの木は一本，家族全員が天然痘に罹っている (Fa.2)　(B)(1) 一人でも孝行息子がいれば家中が幸せに成るものだ (B.T.)　(2) インドセンダンの木は一本生えていれば家中が涼しくなるものだ (Fa.1)

(3) 家族全員が天然痘に罹ったのであればインドセンダンの木が一本あるだけでは到底足りない (Fa.2)

(N) (1)(Fa.2) はこの諺を एक अनार सौ बीमार の部類に入れる Fallon の解釈を誤っているとする　(2) インドセンダンは俗信では天然痘患者に薬効があるとされ，小枝で患者を扇いだりする．(Fa.2) もこの木の葉が患者の枕元に置かれることには言及している．そのために一本の木では足りないのだと言う．　(3)एकु नीम्बि सब गाँव सितलहा (A.V.)　(B) 物が少なく欲しがる人の多いたとえ．(A.V.) の著者であるパーンデーヤは天然痘の流行期に行われる痘瘡神シータラーを祀るために依代の水瓶に差されるインドセンダンの小枝を皆が欲しがることをこの諺の起源であると説明する　(4) 痘瘡神シータラーは俗信によればインドセンダンの木に依るものとされ，患者をその小枝で扇ぎその葉を

寝床に敷くと薬効があるとして用いられる．その世話をするのはマーリー・カースト（庭師カースト）とされる．कृष्णदेव उपाध्याय, भारतीय लोकविश्वास, हिन्दुस्तानी एकेडमी, इलाहाबाद, 1991, पृ॰ 296-297

〔662〕 **एक नूर आदमी, हज़ार नूर कपड़ा**(B.T., Fa.)

(A) 一人の人の放つ美しさは一つ，着る着物の放つ美しさは千 (B) 人は着る衣裳で随分立派に見えるものだ

(N) (1) (Fa.1) は God makes and apparel shapes をこの諺に対応する英語の諺としているが，これは (D.E.P.) によるとさらに次のように続く．すなわち，but money makes the man (or but it's money that finishes the man)「神は人体を創り衣服は身なりを整えるが，金は人物を作る」 そして (D.E.P.) はこれに「金があれば馬鹿も旦那」の説明を加えている．なお，英語では 'Apparel makes the man' が，【馬子にも衣装】に相当するようだ (D.E.P.) (2)एक नूर आदमी, सौ नूर कपड़ौ, हज़ार नूर गैणौ-गांठौ लाख नूर नखरौ (Raj.) (A) 女性の美しさは体の美しさが一で，美しい着物を着ると百倍になり装身具の輝きで一千倍になり，さらにそのしな（科／姿態）で 10 万倍になる (B) 生来の美しさは洗練という飾りで数倍増えるものだ． なお，これについては〔687〕を参照のこと

〔663〕 **एक पंथ दो काज** (B.T.,Fa.)

(A) 一本の道，二つの用事 (B)(1) 何かをする際についでにもう一つのことまで済ませることが出来るたとえ (2) 何かをする際に付随的な利益まで得られることのたとえ【一石二鳥】To kill two birds with one stone(Fa., B.T.) To catch two pigeons with one bean(B.T.)

(N) (1)एक पंथ दो काज (Raj.) (B) 一つの仕事をして二重の利益があるたとえ (2)एक पंथ दु काज (Kah., चंपा॰ 1; शाहा॰ 2) (B) 一つのことをして二つの用事をするたとえ (3)एक पंथ दो काज सँवारे हगण गई अर डाँगर थाम्मे(K.L.) (A) 一つの道を行くのに二つの用事をすませる．(野原での）用足しのついでに家畜に草をはませる (B) 一石二鳥のたとえであるが，これには諺話がある．口うるさい姑であったが嫁もしたたかであった．監視も厳しかったが，嫁は用足しに出かけると言っては間男と会っていた．ある時事が露見したため嫁はさんざん打ち叩かれてとうとう絶命した (4)एक पंथ द्वौ काज (Ga.) (5) एक पंथ दो काज सवारे, हगन गई और डींगर मारे(Kaur.) (A) 一つの道を行き二つの用事を済ませる．用足しに行って虱を潰す (B) 抜け目のなさ過ぎるのを揶揄する表現．なお，(Kaur.) は डींगर をブラジ地方の言葉だとする．(K.L.) と同じ地域の諺であることが興味深い (6) → 〔647〕

〔664〕 **एक पड़ौसी न सौ रिश्तेदार**(B.T.)

(A) 一人の良き隣人は百人の親類を凌ぐ (B)(1) 良い隣人は得難いものだ（隣人に感謝する言葉）

(2) 親類は幸せな時には喜びを分かち合うが，隣人は苦しい時にも助けてくれる有り難い存在だ【遠くの親類より近くの他人】

(N) (1) 隣人とのつきあいの重要性を示すものとしては別の表現もある पड़ौस छोड़ पीत करे (Fa.) (A) 隣人を無視して赤の他人と親しむ (2)जो नेड़ू सो पेड़ू(Ga.) (B) 近くにいる人が親類だ

〔665〕 **एक परहेज़ लाख दवा**(B.T.)

(A) 節制一つが十万の薬に匹敵する (B) 節食すれば薬はいらないものだ

(N) (1) =एक परहेज़ सौ इलाज(B.T.) (2) = Diet cures more than doctors(B.T.) 【腹八分に医者いらず】

〔666〕 **एक पाख दो गहना, राजा मरे कि सेना** (B.T.)

(A) 半月の間に 2 度蝕が起これば王が死ぬか大戦争が起こる (B) 俗信である

(N) (1)एक पाख दुई गहना। राजा मरै कि सहना॥(A.V.) 半月の間に 2 度蝕が起こると王が死ぬか豪商が死ぬ (B) 月蝕と日蝕とが半月の間に起こるのは世の中の大混乱の兆しである (2)एक पाख में दो गहना, राजा मरैं या सैंना(K.L.) (B) 半月のうちに月蝕と日蝕とが起これば王が死ぬか軍隊が全滅する (3) これは घाघ(18 世紀) の警句である

〔667〕 **एक पूत पूत नहीं, एक आँख आँख नहीं**(B.T.)

(A) 一人息子は息子にあらず片方の目は目にあらず (B) 一人息子の親は片目の人と同じく常に心細い思いで過ごすものだ．失いはせぬかと不安を感じるものだ

(N) (1) これは〔615〕の前半と後半の順序が入れ替わったものである (2) एक पूत से निपूत भला(B.T.)「一人息子ならいないがましだ」とは甚だ贅沢な話だが，病気や事故による不安の大きさを表す言い回しであろう．もっとも次の (3) の (B) の (b) はさらに贅沢な心配であろうか (3)एक पूत से निपूत भला (Kah., शाहा॰ 2) (B)(a) 一人息子はしないがよい．失ったら耐え難い悲しみを感じることになるものだから (b) 一人息子は溺愛から不出来になるものだからそうなればやはり耐え難い悲しみを感じることになるものだ (3)एकौनिय पूत अढ़ाय हाथ करेज(Kah.,मुँ॰ 1) एक पुत्र ढाई हाथ कलेजा(B.T.) (A) 息子を一人授かると肝っ玉が途方もなく大きくなるものだ (B) これは息子を一人授かると大喜びしたり自慢をしたりすることに対して揶揄する言葉であるから同じことを言っていることになろうか

〔668〕 **एक पैसे की खोज में चवन्नी का तेल जलावें** (B.T.)

(A)1 パイサー硬貨を探すのに 4 アンナの油を費やす (B)(1) 僅かばかりの利益を得るために大きな損害を被ったり負担をするたとえ (2) 帳尻を合わせるために長時間かけて計算をし直す商人を揶揄する言葉 (3) 原則を貫くためには損害も覚悟する人のたとえ

(N) (1) =दमड़ी की गुड़िया, टका डोली का(Fa.1, Wom.) (A)1 ダムリーの値しかない娘を運ぶのに 1 タカーの金を駕籠代に費やす (B) 値打ちのないものにそれ以上の費用を投じるのを揶揄するたとえ

〔669〕 **एक फूल से माला नहीं बनती** (B.T.)

(A) 花一輪では花輪は作れない (B) 大きなことをなそうとするのであればそれなりの負担を覚悟しなければならないものだ．僅かな出費で大仕事をしようとするのを揶揄する言葉

(N) (1)एक फूल सूं माळा नीं गूंथीजे(Raj.) (A) 一輪の花では花輪は編めないものだ (B)(a) この世の中はお互いの協力で事が成るものだ (b) どれほど有能な人であろうとも世の中のすべてのことを処理することは出来ないものだ (c) 個人は社会の前ではとるに足らない存在なのだ

〔670〕 **एक बनिये से बाज़ार नहीं बसता**(B.T.)

(A) バニヤー（商人）一人では市場は出来ない (B) (1) 何事も協力作業でなすべきことは一人では出来ないものだ (2) 人は一人では何事もなし得ないものだ

(N) (1)एक बनिआ से बाजार बसेला (Kah., चंपा॰ 1) (A) バニヤー一人で市場が成り立つものか (B) 社会全体にかかわる仕事は一人の人の働きで出来るものではない

〔671〕 **एक बार पिए तो मतवाला, दो बार पिए तो मतवाला**(B.T.)

(A) 一度飲んでも酒飲み，二度飲んでも酒飲み (B) 悪事は悪事の多寡が問題なのではない．悪事は悪事でしかない

(N) (1)एक छाक पिइस त मतवार, दू छाक पिइस त मतवार(Chatt.) (A) 酒は一口飲んでも酒飲み，二口飲んでも酒飲み (B) 悪事はたとえ一度であろうとも悪事を働いたことには変わりがないものだ

〔672〕 एक मछली सारे तालाब को गंदा कर देती है(B.T.) एक मछली सारे जल को गंदा करती है (Fa.)

(A)(1) 一匹の魚が池全体を汚す (B.T.) (2) 一匹の魚が全部の水を汚す (B)(1) 一人のよからぬ人間が周囲の人全部を汚すものだ (B.T.) (2) 一人が不名誉なことをすればその人の属する集団全体の名を汚すことになる (B.T.)

(N) (1)(B.T.) はこれに相当する英語の諺として次を掲げている. One fish infects the whole water (2)(Fa.) は英語の説明を次のようにしている. The dead fly maketh the ointment of the apothecary to stink 「死んだ蝿は薬屋の軟膏を腐らせる」 これは次と同じ意味のものか. Dead flies corrupt the most precious ointments. A fly in the ointment.(D.E.P.) すなわち,「蝿の死骸は貴重な軟膏をも腐らせる」【小事を軽んずるなかれ】(D.E.P.) (3)एक मछली आखौ समंद गिंधावे (Raj.) (A) 一匹の魚が海全体を汚す (B)(a) 一人の悪人が社会全体を汚す (b) 一人のよからぬ人間から世の中全体に悪事が広まるものだ

〔673〕 एक म्यान में दो तलवारें नहीं रहतीं(B.T.) एक म्यान में दो तलवारें नहीं समा सकतीं(B.T.) एक म्यान में दो छुरी(Fa.)

(A)(1) 二振りの刀は同じ鞘には収まらないものだ (B.T.) (2) 一つの鞘に二本の刀 (Fa.) (B)(1) 一つのものを二人の人が所有することは出来ない (B.T.) (2) 同じ女性と暮らす二人の男 (Fa.1) (3) 同じ女性を自分の恋人とする二人の男 (Fa.2) (4)Two kings in Brentford(Fa.1) ブレントフォードの二人の王様（対立する二人） (5)Two of a trade seldom agree. (B.T.)【職がたき】【商売いみがたき】(D.E.P.) (3)एक मेआन में दु तेरुआर (Kah., चंपा° 1; शाहा° 2) (B)【両雄並び立たず】 (4)एक म्यान में दो तरवारां नीं खटै(Raj.) (B)(a) どのような分野でも拮抗する二人の間はうまく行かぬものだ (b) 対等な力を持った二人の間には嫉妬心が生じるのは自然なことだ. もしくは, 同じ欲望を持つ者同士は仲良く出来ないものだ (c) 同じ娘に恋をする二人がいがみ合うのは自然なことだ (d) 偽善と友情とは並び立つことは出来ないものだ (5)एक म्यान में दो तलवार कोनी खटावै(R.K.) (6)एक मियान माँ दुइ तरवारी नहीं रहि सकतीं(A.V.) (B) これは一人の女性を恋する二人の恋敵について用いられるが, それ以外にも用いられることがある

〔674〕 एक लकड़ी से सब को हाँकना (B.T.) एक ही लकड़ी सब को हाँकता है (Fa.1) एक ही लकड़ी से सब को हाँकना(Fa.2)

(A) 同じ一つの棒で皆を逐う (B) 相手に配慮せずだれも彼も同じように扱うたとえ (B.T.)

(N) (1)एके लाठी सब ना हँकाय (Kah., शाहा° 1) (A) 同じ棒で皆を逐ってはならない (B) 相手に配慮なく一様に扱ってはいけない (2)एक लाठी सब को हाँकता है (Fa.1) (B) 相手の身分や地位に配慮しない人のたとえ (3)एक ही लकड़ी से सब को हाँकना (M.L.K.) (B) 相手の地位や身分に関係なくぞんざいに応対する人のたとえ

〔675〕 एक लड़का अपना और सौ लड़की के (B.T.)

(A) 自分の息子ならば一人が外孫の百人に勝る (B) 自分の世継ぎは外孫ではなくわが息子以外にはいないものだ. 父親の名誉も幸せも一切は息子の力量次第である

(N) (1)सौ धौती का अर यक गोती का (Ga.) (A) 百人の外孫はわが（父系）血統を継ぐ者一人分にも及ばず

〔676〕 एक लाख पूत सवा लाख नाती, ता रावण घर दिया न बाती(B.T., Fa.1, Hin.) → 〔489〕

〔677〕 एक सवार दो घोड़ों पर सवारी नहीं कर पाता(B.T.)

(A) 一人の人が同時に二頭の馬に乗ることは出来ないものだ (B)(1) 人は同時に二つの仕事をすることは出来ない (2) 二つの仕事を同時になそうとする人に対して発せられる言葉

(N) (1)एक सवार बे घोड़ा नी बेहे(Raj.) (B)(a) 同時に始めることが出来ない仕事があるものだ (b) 同時に二つの大仕事をなそうとする野心家のたとえ (c) 二つの欲を持った人はいずれ破滅するものだ

〔678〕 **एक साधे सब सधे, सब साधे सब जायँ**(B.T.)

(A) 一つのことに励めば全てが達成され全てに励めば全てが失われるものだ (B)(1) 最高神を拝めば一切の神々は嘉するが，諸々の神を拝めばいずれの神も嘉せず (2) 一人の立派な人に与すれば万事が順調に進む (3) 一つのことに励む人は成功を収めるが同時に幾つものことをなそうとする人は失敗するものだ

(N) (1) =एकहिं साधे सब सधे, सब साधे सब जाय(B.T.) (2) =एकै साधे सै सधे, सै साधे सै जाय(Raj.) (B)(a) 一つの目標に執着すれば万事が達成されるが，逆に多くのことを追いかける人は一つのことも成し遂げることが出来ないものだ (b) 人生の目標は一つにするがよい (3) =एकै साधे सब सधे सब साधे सब जाय(M.L.K.) (4)एकै साधे सब सधे सब साधे सब जाय(Kah., शाहा॰ 2) (B) 人は一事にのみ熟達するがよい．そうすれば何事も成るものだ．何もかも追えば何一つ成らないものだ

〔679〕 **एक से अच्छा, दो से चार**(B.T.)

(A) 一人でいるよりは二人でいるがよい．二人でいるよりは四人でいるがよいものだ (B) 一人では半分だが二人になると二倍になる．人は一人では何も出来ないものだ

〔680〕 **एक से दो भले**(Fa., B.T.)

(A) 一人よりも二人がよい (B)(1) 人は一人でいるよりも二人になるがよい (B.T.) (2) 旅には道連れがあるのがよい (Fa.,B.T.)

(N) (1)एक सूं दो सदा ई भला (Raj.) (A) 一人でいるよりも二人でいるほうが常にいいものだ (B)(a) 人間社会は全くの相互依存によるものだ (b) 二人が力を合わせたらうまく行くものだ

〔681〕 **एक हम्माम में सब नंगे** (Fa. Mah., B.T.)

(A) 同じ風呂場では皆が裸 (B)(1) だれにでも何らかの欠陥があるものだ (Fa.2) (2) 人に区別はなし，皆同じだ (3) だれしものなすことを非難することがあればその非難する人に対していう言葉 (B.T.)

(N) (1)We are all in the same boat. We all do the same thing.(Fa.1) (A) 人はみな同じボートに乗っている．人はみな同じことをするものだ

〔682〕 **एक हाड़ दो कुत्ते**(B.T.)

(A) 骨一本に犬二匹 (B) 人が多く物が少なければ争いは必定

(N) (1)एकु हाड़, दुई कूकुर (A.V.) (A) 二頭の犬に骨一本 (B) 二人が一つの物を奪い合うたとえ (2)एक हाड अर दोय कूतरा(Raj.) (B)(a) 二頭の犬が争うには骨が一本あれば十分だ (b) 親切めかして二人の人に一つしかない物を見せて誘えば必ずや争いを始める．恋敵もこの部類に入る

〔683〕 **एक हाथ की ककड़ी, नौ हाथ का बीज**(B.T.)

(A) 腕尺一つの長さのヘビウリの種が腕尺九つの長さある (B) 大げさな表現をたとえる言葉

(N) (1) एक हाथ लुखरी नौ हाथ पूँछ(B.T.) (A) 三尺の狐の尻尾が二間七尺 (2)एक हाँथ के कँकड़ी नव हाँथ ए बीआ(Kah., सा॰ 1) (B) 大げさな物言いを揶揄する言葉 (3)एक हाँत खीरा के नौ हाँत बीजा(Chatt.) (A)3尺のきゅうりの種の長さが2間7尺 (B) 大げさな物言いを揶揄する言葉

〔684〕 **एक हाथ लेना, एक हाथ देना** (B.T., Fa.)

(A) 片方の手で受け取り片方の手で手渡す (B) (1) 対等な取引のたとえ (2) 現金での取引；即金払い (Fa., B.T.)

(N) (1)(Fa.1) にはこれは商人の間で行われるものとある (2)एक हाथ से देना, दूसरे हाथ से लेना(B.T.) (A) 片方の手で手渡し片方の手で受け取る (B)(a) 因果応報 (b) 現金での取引のこと (3)एक हाथे दे एक हाथे ले (Kah., शाहा॰ 2) (A) 片方の手で与え片方の手で受け取る (B) 親切な行いをすればその果は必ず得られるものだ

〔685〕 **एक हाथ से ताली नहीं बजती**(B.T., B.K.S.) **एक हाथ ताली नहीं बजती**(Fa.)

(A) 片手では拍手は出来ない (B)【喧嘩両成敗】

(N) (1)It takes to make a quarrel (Fa.1, D.E.P., E.E.P.) (B) 相手のいない喧嘩は出来ない (D.E.P.)【喧嘩両成敗】(E.E.P.) (2)एक हाथे ताली ना बाजे (Kah.,चंपा॰ 3) (B) 喧嘩やいさかいは双方に非があるから起こるのだ (3)एकु हाथे तारी नहीं बाजति (A.V.) (B) 敵対関係も友愛関係も一方的なものはないものだ (4)एक हाथ सूं ताळी नीं बाजै(Raj.) (B)(a) 喧嘩は一人では出来ないものだ (b) 両親が望まなければことは成らないものだ (c) 両者が等しく責任を負うたとえ (5)एक हाँत माँ रोटी नै पोवाय (Chatt.) (A) 片手ではパンは作れない (B) 喧嘩は両方があってこそ始まるものだ

〔686〕 **एक हाथ से देना, दूसरे हाथ से लेना** (B.T.)

(A) 片方の手で手渡し片方の手で受け取る (B)(1) 悪事の報いが現れるたとえ (2) 現金取引のたとえ

(N) (1) → 〔681〕 (2)एक हाथे दे एक हाथे ले (Kah., शाहा॰ 2) (A) 片方の手で与え片方の手で受け取れ (B) 行った親切の報いは必ずあるものだ

〔687〕 **एक हुस्न आदमी, हज़ार कपड़ा। लाख हुस्न ज़ेवर, करोड़ हुस्न नख़रा॥**(B.T., Fa.)

(A) それぞれの人自身に備わる美しさを1とすれば，衣服に備わる美しさはその千倍，装身具の持つ美しさは10万倍，女性の持つ妖艶さは一千万倍になる (B)(1) あだっぽい仕草をする女性や派手に着飾る女性や娼婦のことを言う表現 (B.T.) (2) 各人の持つ美しさとは別に衣服や装身具などで美しさは大いに増すものだ (B.T.) (3) 人は着用する衣服や身につける装身具や宝飾品，それに身のこなしで非常に美しくなるものだ (Fa.)

(N) (1) → 〔662〕 एक नूर आदमी, हज़ार नूर कपड़ा.

ऐ

〔688〕 **ऐंठन दो दिन ही रहती है** (B.T.)

(A) 反り返りは二日間しか続かないものだ (B) 自慢や威張り，驕りはいつまでも続けられないものだ．高慢な人を揶揄する言葉

〔689〕 ऐब करने को भी हुनर चाहिए (Fa., B.T.)

(A) 悪さをするにも技がいる (B)(1) 悪さをして隠しおおせた人の言う言葉 (B.T.) (2) 悪さをして暴かれた人の言う言葉 (B.T.) (3)No royal road to learning. (Fa.1)【学問に近道なし】(D.E.P.) (4) 何事をなすにも注意深くなければいけないものだ．たとえ悪事であろうとも (Fa.2)

〔690〕 ऐसी कहो न बात कि सबका हिले हाथ (B.T.)

(A) 皆が後ろ指を指すようなことを言うものではない (B) いい加減なことを言う人をたしなめる言葉

〔691〕 ऐसे गये जैसे गदहे के सिर से सींग(B.T., Fa.)

(A) まるでロバの頭から角がなくなったようにいなくなった (B) にわかに，あるいは，こっそり跡形もなく姿をくらますたとえ

〔692〕 ऐसे चूतिए शिकारपुर में रहते होंगे (B.T.) ऐसे चूतिया शिकारपुर में रहते हैं (Fa.)

(A)(1) そんな愚か者はシカールプルに住んでいるだろう (B.T.) (2) そんな愚か者はシカールプルに住んでいる (B) あんたにダマされるような愚か者はここにはいない (B.T.,Fa.)【その手は桑名の焼き蛤】

(N) (1)इसा बरगू सिकारपुर में लाधसी(Raj.) (A) このような愚か者はシカールプルにいるだろう (B)(a) ここにはシカールプルのような愚か者はいないのだからお前の企みは一つも通用しないぞ (b) ここにはほら吹きにだまされるような者は一人もいない (c) 他人を全くの愚か者と考えて扱おうとする人に対して発せられる言葉 (2)(Raj.) によれば，このシカールプルと言う地名は架空の地名とされる (3)ऐसे सिकारपुर बसैं(Kaur.) (A) そんな奴はシカールプルに住んでいるだろう（ここにはいない） (B) お前にはだまされないぞ (4)(Kaur.) によるとシカールプルとはウッタルプラデーシュ州のブランドシャハル県内にあるとされる．(Fa.1) はシカールプルでの不合理さについて当てつけとしているのに対し (Fa.2) はなぜか मौगांव と शिकारपुर は愚か者で有名であるとする

〔693〕 ऐसे जंगल में चावल(B.T.)

(A) こんな森の中に米粒とは（如何に） (B)(1) 本来起こり得ないようなことが現出している状況でつぶやく言葉．このようなことがあろうはずがない．何か臭いぞ． (2) あり得ないことが生じたら疑ってかかるべし

(N) (1) これには『パンチャタントラ』(II (मित्रसम्प्राप्ति)) にあるものと同じ鳩が仲間を救った話が諺話として伝えられている

〔694〕 ऐसे बूढ़े बैल को कौन बाँध भुस दे ?(Fa.) ऐसे बूढ़े बैल को कौन बाँध भुस दे(B.T.)

(A) こんなおいぼれ牛をだれが繋いで餌を食わせようか (B)(1) 年老いた人や身体に障害のある人にだれが飯を食わせようか (2) 自分が得るものがなければだれも何も与えないものだ (B.T.) (3) 老人や能なしをたとえて言う表現 (Fa.)

(N) (1)ऐसे बूढ़े बैल को कौन बाँध भुस देय(M.L.K.) (B) なんとも寒々とした表現であるが，老人で働きのない人はだれからも疎まれるものだ，ということにつきるようだ

〔695〕 ऐसे रहे जैसे आटे में नमक (B.T.)

(A) 小麦粉に混ざった塩のように分かち得ぬように過ごすべし (B)(1) 人とは親密な関係を保たなくてはならないものだ．そうすれば幸せと利益を得るものだ (2) 嘘もほどほどのものを言うよ

うにしなくてはならない

(N) (1)आटे में नमक 小麦粉と塩との関係では आटे में नमक के बराबर हो॰ 小麦粉に入れる塩ほど，という表現があるが，これは極めて少量の意である

(ओ)

〔696〕 **ओखली में सिर दिया तब मूसलों से क्या डर ?**(B.T., Fa.) **उखली में सिर दिया, तो मूसलों का क्या डर ?**(Fa.1)

(A) 臼に頭を突っ込んだからには杵は恐ろしくはないものだ (B)(1) 一旦困難な仕事を始めたからにはなにものも恐れてはならない (2) 困難なことを始めるからには困難を恐れることがあろうか (Fa.)

(N) (1) → 〔536〕 (2)In for a penny, in for a pound (B.T., D.E.P.) (A) ペニーを手に入れる仕事を始めたからにはポンドも手に入れなければならない (B) 事を始めたからにはどんな事態になろうとも最後までやり遂げなくてはならない【毒食わば皿まで】 (3)He who would catch fish must not mind getting wet(B.T.) (A) 魚を捕らえようとすれば濡れるのを気にしてはならない (4)ओखळी में सिर दिया, तो मूसळों का के डर(Kaur.) (B) 損害や危険を覚悟の上で始めたからにはひるんではならない (5)ऊखळ में माथौ दियौ तौ धमकां सूं कांई डरणौ(Raj.) (A) 臼に頭を入れたからには怪我を恐れることがあろうか (B)(a) 困難なことを始めたからにはその結果を恐れることがあろうか (b) 自ら危難を受け入れたからにはその打撃から逃げることがあろうか (c) わざわざ厄介を招き寄せる人のたとえ

〔697〕 **ओछा घट छलके सदा**(B.T.) **ओछा पात्र उबलता है**(Fa.)

(A) (1) 一杯に入っていない水がめの水はいつもはねる (B.T.) (2) 水が少ししか入っていない器はすぐに吹き上がるものだ (Fa.) (B) 中身のない人や備えるべきものが備わっていない人は人一倍目立つものだ

(N) (1)Empty vessels make much noise (B.T.) Empty vessels make the most sound(E.E.P.) (A) 空の容器は大きな音を立てる (B)【空樽は音が高い】 (2)They are still waters that run deep (Fa.1) これは次の諺と同じく思われる Still waters run deep(D.E.P.) 音を立てないで流れる川は深い【浅瀬に徒浪】Water runs smoothest where it is deepest (D.E.P.) 水は一番深いところでは一番静かに流れる

〔698〕 **ओछी पूँजी खसमों खाय**(B.T., Fa.)

(A) 少ない元手は主人を滅ぼす (B) 小資本では損するばかりだ．資本が少ないと破産しやすいものだ

(N) (1)ओछी पूंजी खसम नै खाय (Raj.) (B)(a) 資本が足りないと破産に至るものだ (b) 何事でも成功を収めるには然るべき手段が欠かせないものだ

〔699〕 **ओछे की प्रीत, बालू की भीत** (B.T.) **ओछे की पीत जैसे बालू की भीत** (Fa.)

(A) 品性卑しい者の情けは砂でこしらえた塀（壁）も同然 (B) それは永続しないものである

(N) (1)ओछा री प्रीत, वेकळू भींत (Raj.) (A) 品性卑しい人の情けは砂の塀と同じ (B) 品性卑しい人の情けは永続しないものだ (2)ओछ से पिरीत बालू के भीत(Kah., सा॰ 1) (A) 品性卑しい人と親しむことは砂の塀の如きもの (B) 品性卑しい人と親しくなっても永続しないものだ ओछे की प्रीत, बालू की भीत (Har.) (B) 常に危険の伴うもののたとえ

〔700〕 **ओट के पेट में बात नहीं पचती** (B.T.)

(A) 愚か者や品性卑しい人の腹の中では話はこなれない (B) 大事な話は愚か者や品性卑しい人の腹には納まらない（だれかに話さずにはいられないものだ）

(N) (1)Children and fools tell the truth (B.T.) 子供と愚か者は本当のことを言う Children and fools cannot lie(Fa.,D.E.P.) 子供と愚か者は嘘が言えない

〔701〕 **ओठ के चाटे प्यास नहीं बुझती**(B.T.)

(A) 唇を舐めてのどの渇きがおさまることはない (B) 必要性が甚だ高いのにそれがほとんど充足されないたとえ

(N) (1)ओठ चटला से पियास बुझाई(Kah., शाहा॰ 2) (A) 唇をなめてのどの渇きが止まるものか (B)(a) 大きな仕事をするのに安っぽい手段や方法で臨むことを揶揄するたとえ (b) なお，ओठ の代わりに ओस（露）が用いられることが多い（露を嘗めて）．このほうが適切である．(Kah., शाहा॰) (2)ओसन के चाँटे पियास नहीं बुझाति(Av.) (A) 露を舐めてのどの渇きが取れることはない (B) 必要なものが十分になく充足されないたとえ (3)ओसों प्यास नहीं बुझती (Fa.) (B)(a) 必要なものが全く足りないたとえ (Fa.1) (b) 物惜しみがなされるのを揶揄する表現 (Fa.2) (4)ओस तें क्या प्यास बुझे (Kaur.) (B) 手段や方法が不十分であれば満足は全く得られないものだ

〔702〕 **ओरी का भूत सात पीढ़ी का नाम जानता है**(B.T.) **ओलती तले का भूत सत्तर पुरुखों का नाम जानता है**(Fa., Wom.) (A)(1) 軒下のブートは 7 代前の先祖の名前を知っている (B.T.) (2) 軒下のブートは 70 代前の先祖の名を知っている (Fa., E., Wom.) (B)(1) 隣人は互いに相手の家の内情に詳しいものだ (B.T.) (2) 家族は家の中の一切の秘密を知っているものだ (Fa.2)

(N) (1)(B.T.) には 7 代前の他に 9 代前という表現も記録されている (2)(Fa.1) には迷信との記述があるがそれ以上の説明はない (2) ブートとは〔501〕で言及したように不慮の死を遂げた人，怨念や未練を残して死んだ人，刑死した人，世継ぎのないままにこの世を去った人など解脱の得られない，浮かばれない人たちの霊とされ一般に危害を加えたり人にとりついたりする危険な存在とされる。この諺の脈絡では隣人の代名詞として用いられている． (3)ओरियानी के भूत नौ पुस्त के नांव जाने(Kah.,चंपा॰ 2,3; शाहा॰ 2) (A) 軒下のブートは 9 代前の先祖の名を知っている (B) 隣人はお互いの家の弱点を詳しく知っているものだ

〔703〕 **ओलती का पानी बलेंडी नहीं जाता**(Fa., B.T.)

(A) 軒の水は棟木には上らない (B) 理に反することのたとえ；あり得ないことのたとえ

(N) (1)Water does not run up hill.(Fa.1) (A) 水は丘には上らない

〔704〕 **ओस के चाटे प्यास नहीं बुझती** (B.T.) **ओसों प्यास नहीं बुझती**(Fa.1, B.K.S.

(A) 露をなめて渇きが癒されることはない (B)(1) 到底満足の行かないほどのものしか手に入らないたとえ (B.T.) (2) ほんの僅かの費用で大きな利益を得ようとすることや大仕事をなそうと試みるたとえ (B.T.) (3) 求められるものや必要とされるものが全く満たされないたとえ (Fa.1)

(N) (1)〔670〕を参照のこと (2) =ऊँट के मुँह में जीरा (B.K.S.) (3)औस तै के पियास बुझ्या करै (K.L.) (B) 僅かばかりのもので腹が満ちるはずがない

（औ）

〔705〕 **औंधे गिरे तो सूर्य को दंडवत**(B.T.)

(A) ばったり倒れたらお日様を拝む（振りをする） (B) 抜け目のない人が自分の失敗や弱みを隠そうとするのを揶揄する表現

〔706〕 **औंधे मुँह चिराग़ पाँव** (Fa., B.T.)

(A)（お前は）まっ逆さまに落ちるがよい (B)（お前は）酷い目に遭うがよい（呪詛）

(N) (1)'औंधा मुँह' とはうつ向けに，まっ逆さまに，逆さまになどの意に用いられる表現である (2)S.W. Fallon によれば，औंधे मुँह，चिराग़ पा とは「馬が竿立ちし人が馬の背に乗っている状態」のことである (3)(Fa.1) によれば औंधे मुँह も चिराग़ पा もいずれもまっ逆さまになってひっくり返ることで人を呪う言葉である (4)(B.T.) によれば औंधे मुँह गिरना と पाँव के नीचे चिराग़ (का होना) はいずれも一種の呪詛の言葉である

〔707〕 **औंधे मुँह दूध पीता है** (B.T., Fa.)

(A) うつ向けに乳を飲む (B)(1) 未だ幼さが残っている．まだ餓鬼のままだ (2) 愚か者をたとえる言葉

〔708〕 **और का लड़का पाऊँ तो बिल में हाथ डलाऊँ**(B.T.)

(A) 他人の子を見つけたら蛇の穴に手を入れさせる (B) 人は他人の痛みや利害には冷淡なものだ

〔709〕 **और की फूली देखते हैं, अपना टेंटर नहीं निहारते**(B.T.) **और की फुल्ली देखते हैं, अपना टेंटर नहीं** (Fa.)

(A) 他人の目の星は見えても自分の目の傷跡は見えない (B) 他人の弱点や弱みをあげつらうたとえ

(N) (1)〔174〕अपना ढेंढर ना निहारे दूसरे की फुल्ली निहारे (2)(Fa.1) の訳は，他人の目の小さな点を見るが自分の目のかすみを見ない，とある (3)(Fa.1) は新約聖書マタイ伝を引用している Why beholdest thou the mote that is in thy brother's eye. but considerest not the beam that is in thine own eye. Math. vii, 3「なにゆえに兄弟の目にある塵を見ておのが目にある梁木を認めぬか」

〔710〕 **और की बुराई अपने आगे आई** (B.T., Fa.)

(A) 他人に向かって言った悪口が自分の前に返ってきた (B)(1) 人を謗ればわが身に及ぶ (B.T.) (2) 他人を非難すればその果を受けなければならない (Fa.)

〔711〕 **और की भूक न जाने, अपनी भूक आटा साने**(Fa.1, Wom., B.T.) **और की भूक न जानें, अपनी भूक आटा सनें**(Fa.2)

(A) 他人のひもじさは知らず，自分のひもじさには小麦粉をこねる（食事の用意にとりかかる）

(B) 他人のことには全く冷淡で自分のことばかり気にかける人のたとえ

(N) (1)(Fa.1) も (Fa.2) もこれを主に女性の用いるものとしている

〔712〕 **औरत और ककड़ी की बेल जल्दी बढ़ती है** (Fa., B.T.)

(A) 女性とヘビウリの蔓は急速に成長する (B) 女の子は成長が早い

〔713〕 **औरत और घोड़ा रान तले का**(B.T.,Fa.)

(A) 女と馬は腿の下にある時だけのもの (B)(1) 女性と馬はしっかりと支配するがよい (2) 支配下にあるものだけが自分のものと心得よ (B.T.) (3) 女性と馬はしっかり管理しないと手がつけられなくなるものだ (Fa.2)

〔714〕 **औरत किसकी जो पास रखे उसकी** (B.T.)

(A) 女はだれのもの，側に置くその人のもの (B) 女は自分のそばにいてこそ自分の女．そうでないと信用ならないものだ（別居は好ましくないものだ）

(N) (1) → 〔713〕 (2) औरत किसकी जो पास रखे उसकी (Kah.शाहा॰ 1) (A) 女性は常にそばに置いておくべきものだ

〔715〕 **औरत की अक़्ल गुद्दी पीछे होती है** (B.T., Fa.)

(A) 女性の知恵は頭の後ろにある (B)(1) 女性は後知恵だ．女性は頭の働きが鈍い．すぐには頭が働かないものだ (2) 女性は叩かれないと知恵が出ないものだ (Fa.2)

(N) (1) =औरत की बुद्धि चोटी के पीछे (B.T.) (2) このような一方的な見解の諺があるかたわら次のような男女の関係を述べるものもある．औरत मर्द का जोड़ा है(B.T., Fa.) (a) 女性と男性とは互いに相手があってのものだ (Fa.) (b) 女性と男性とは切っても切れない関係にある (B.T.) (c) 大変親密な関係にある人たちのたとえ (B.T.) (3)ओरतां की चुटिया पिच्छै अकळ (Kaur.) (A) 女性の知恵は後頭部にある (B) 女性は自分の行為の結果を想像することが出来ないものだ．女性は後知恵だ

〔716〕 **औरत की जात, केला के पात**(B.T.)

(A) 女性はバナナの葉なり (B)(1) 女性は繊細なものだから少しのことで傷つきやすい (2) 女性の心はうつろいやすいものだ

(N) (1)औरत के जात केरा के पात (Kah.शाहा॰ 2) (B)(a) 女性の心はバナナの葉のように少しの風で揺れ傷つきやすい (b) 女性は移り気なものだ．信用ならないものだ

〔717〕 **औरत को मारे तो अपनी नाक कटे** (B.T.)

(A) 女性を叩けば自分が恥をかく (B)(1) 女性に暴力を振るうのは男には恥ずべきことである (2) 女性に暴力を振るうと男は自分が恥をかいたり困ったりする結果になるものだ

〔718〕 **औरत, गाय और ब्राह्मण इनसे भागना भला**(B.T.)

(A) 女と（雌）牛とバラモンからは逃げるが勝ち (2) 相手にして勝ったとしても名誉にならず負ければ恥をかく

(N) (1)(B.T.) は次を参照しているが，相手の三者には相違がある．गायां, भायां, बांमणां भाग्यां ई परवांण(Raj.) (A)（雌）牛，兄弟，それにバラモンからは逃げるが勝ち (B) この三者を苦しめることは危険であり恥ずべきことである

〔719〕 **औसर का चूका आदमी और डाल का चूका बंदर नहीं संभलता**(Fa.) **औसर का चूका आदमी और डाल का चूका बंदर भी नहीं सँभलता**(B.T.)

(A) 好機を逃した人と木の枝から落ちた猿は立ち直れない (B) 好機は見逃してはならないものだ

(N) =अवसर का चूका आदमी और डाल का चूका बंदर नहीं संभलता.

(क)

〔720〕 कंगाल का दिल कंगाल(B.T.)

(A) 貧しい人の心は貧しい (B) 人は貧しいと気力まで乏しくなるものだ

(N) (1)कंगाल री काळजौ पोलै (Raj.) (A) 貧しい人の肝は弱々しい (B)(a) 貧しい人には気力がない (b) 貧しい人は気が弱い (c) 手立てのない人は無力だ (2)कंगाल से जवाल भला (Kah., शाहा॰ 2; मुज॰ 2) (A) 貧しく暮らすより苦労があるほうがよい (B) 貧窮がいいはずはないのだが，その中で困難に立ち向かうべく過ごす気概が大切なのだ

〔721〕 कंगाली में आटा गीला(B.T.)

(A) 貧しい暮らしをしていると小麦粉が湿気る (B)(1) 不幸や不運が重なって襲うことのたとえ (2) 貧しい上に経済的な打撃を被ることのたとえ

(N) (1)कंगाली में आटौ गीलौ (Raj.) (B) 困窮している人に追い打ちをかけるように不運や災難が重なるたとえ

〔722〕 कंधे पर छोरा, गाँव में ढिंढोरा(B.T.)

(A) 子供を肩車に乗せ村中に触れ太鼓を打つ（肩に乗せた子を忘れその子の行方を探すといって大騒ぎをする） (B) 身近にあるものを見つけられないうっかり者のたとえ

〔723〕 कई बरतन होंगे तो टकराएँगे ही (B.T.)

(A)（同じところに）食器が幾つもあればぶつかるものだ (B) 人が多く集まれば衝突が起こるものだ

〔724〕 कई मामा का भांजा भूखा रहे (B.T.)

(A) 幾人も（母方の）おじがある子供はひもじい思いをする (B)(a) 決まった方針のない人は当てにならないものだ（責任感のない人を頼ると困ったことになる） (b) だれもが利用する物は（皆がぞんざいに扱うので）傷みやすいものだ

(N)(1) おじはマーマー मामा とあるので，ひもじい思いをするのは母親が里帰りに連れて帰った子供のことと考えるべきであろう．だれもがだれかが世話をしているだろうと思い他人任せになるので行き届かなくなるからだ

〔725〕 ककड़ी के चोर की गर्दन नहीं मारी जाती (B.T.) ककड़ी के चोर की गर्दन नहीं मारते (Fa.)

(A) カクリー泥棒の首を刎ねてはいけない (B) 小さい犯罪を厳しく処罰してはいけない

(N) (1) カクリーとはウリ科の植物でキュウリに似るが実はキュウリの数倍も長く色もキュウリよりも浅い．廉価な野菜の一である (2) =ककड़ी के चोर को फाँसी नहीं दी जाती(B.T.) (A) カクリー泥棒を絞首刑にしてはいけない (3)कँकरी के चोर के कनइठिए बहुत बा(Kah., चंपा॰ 1) (A) カクリー泥棒は耳を捻って放してやるだけでよい (B) 大した犯罪でないものは余り咎めてはいけない．罰は罪の大きさに応じて下すべきだ

〔726〕 कचौड़ी की बू अभी तक नहीं गई (B.T.) कचौड़ी की बू अब तक नहीं गई(Fa.1)

(A) カチョーリーの臭いがまだ抜けない　(B)(1) 出世はしたが以前の卑しさが残っている人を評する言葉 (B.T., Fa.1)　(2) 今は落ちぶれているが資産家だった頃の癖をまだ残している人をたとえる言葉 (B.T.)　(2) 落ちぶれても以前の癖が抜けない人を評する言葉

(N) カチョーリーはケツルアズキの豆粉などを小麦粉の衣に包んで油で揚げた食品でお茶請けや子供の間食などになる．従って (Fa.) は (1) の解釈しか採らないのであろう

〔727〕　कच्चा काम दो दिन तक(B.T.)

(A) 紛い物は二日間しかもたない（メッキはすぐ剥げる）　(B)(1) 仕事をいい加減な態度でするたとえ　(2) 知識や学問をてらう人について言う

〔728〕　कच्चा दूध सबने पिया है (Fa.,B.T.)

(A) 人はだれしも生の乳を飲んだことがある　(B) 人は皆過ちを犯すものだ

(N) (1)(Fa.1) の注によるとインド人は加熱した牛乳は生のものより栄養があると考えている (2)(Fa.2) は生の乳とは母乳を指すとする

〔729〕　कच्चा बाँस जिधर नवाओ नव जाए, पक्का कभी न टेढ़ा हो चाहे टूट जाए(B.T.)　कच्चे बाँस को जिधर निवाओ निव जाए, और पक्का कभी न टेढ़ा होए(Fa.1)　कच्चे बाँस को जिधर से नवाओ नव जाय पक्का कभी न टेढ़ा होय(Fa.2)

(A) 若い竹は思うように曲げることが出来るが，古い竹はたとえ折れようとも決して曲がらない

(B) 子供は幼い間に授けられる教育に従って育つものだ (B.T.) 子供には早期に進むべき道を教えよ (Fa.1) 子供時分なら性格はどのようにでも変えることが出来るものだ (Fa.2)

〔730〕　कटी उंगली पर भी नहीं मूतता(B.T.)

(A) 怪我をした指にさえ小便をかけない　(B) (1) いざという時に人助けをしないことのたとえ (2) 何一つ人助けをしないことのたとえ

(N) (1) 指に怪我をしたら小便をかけると痛みが和らぎ傷がよくなると伝えられている (B.T.) (2)कटी अँगुरी माँ मूतब (A.V.) (A) 傷をした指に小便をかける　(B) 自分には無用のものであり自分が損をするわけでもないのに人助けを全くしない人のたとえ．甚だ吝嗇な人のたとえ　(3) 一般に切り傷に小便をかけると化膿せず早く癒えるものと考えられている (A.V.)

〔731〕　कटी नाक पर भी मक्खी नहीं बैठने देता(B.T.)

(A) 欠けた（ように醜い）鼻なのにハエさえもとまらせない　(B) 極度に用心深く狡猾な人のたとえ

〔732〕　कटे अहीर का, सीखे नाऊ का (B.T.)　कटेगा बटाऊ का, सीखेगा नाऊँ का(Fa.)

(A)(1)（稽古台になった）アヒールは髪が刈られる際に怪我をする．ナーウー（の息子）がそれで（技術を）習い覚える (B.T.)　(2) 道行く人が怪我をして床屋の息子が（技術を）会得する (Fa.1)

(3) 他人に迷惑をかけて自分の利益を図るたとえ (Fa.2)　(B)(1) 他人を犠牲にして自分の利益を図るたとえ　(2) 床屋は愚か者を稽古台にして腕を磨く (Fa.1)

(N) (1) アヒールとは主に酪農に従事してきたカーストの一で低いカーストの一ではあるが，ここでは理髪業の客の一として名が挙げられているだけで特別の意味はないように思えるが，(Fa.1) の注を見ると選ばれたカーストと考えるべきか　(2) ナーウーとはナーイーとも呼ばれるが，理髪業を主な生業としてきたカーストの人である．カースト間の交換役務として客の散髪，ひげそり，

爪切り，あるいは，客の結婚式などの人生儀礼などで特別の役目を果たしてきた (3)कटे जजमान के सीखे नउआ (Kah.,पट॰ 1) (A) ジャジマーン（顧客）が怪我をしてナウアー（ナーウー／ナーイー）が仕事を習う (B) 一方が損をすることで他方が得をすることをたとえる表現 (4)कटे तौ काऊ रा, सीखै तौ नाऊ रा(Raj.) (A) だれかが怪我をしてナーウーの息子が習い覚える (B) (a) 他人の犠牲の上に自分の目的を果たす人のたとえ (b) 他人の経験から利益をあげる人のたとえ

〔733〕 **कड़वी बेल से मीठे फल**(B.T.)

(A) 苦味のある蔓に甘い実がなるものか (B) 悪者がいいことをすることはなく，悪い家系から立派な人が出ることはない

〔734〕 **कड़ुए से मिलिए, मीठे से डरिए** (Fa., B.T.)

(A) 苦味のある人に親しみ甘味のある人を恐れなさい (B) 苦言を呈する人に親しみ甘言を語る人を警戒しなさい

(N) (1)All is not gold that glitters (Fa.1) All that glitters is not gold (E.E.P.) (A) 輝くものが全て黄金とは限らない (B) 外見だけで人を判断するな

〔735〕 **कढ़ी में कोयला** (B.T., Fa.2) **कढ़ी में कोएला**(Fa.1)

(A) カリーに炭（のかけら） (B)(1) 良いものと良くないものとがまじるたとえ (B.T., Fa.2) (2) 物と物や人間関係が不釣り合いなことのたとえ (Fa.1)

(N) (1) カリーとはウコン，アギ，ギーなどを混ぜた物を加熱した後バターミルクにヒヨコマメの粉を溶いたものに塩や香辛料，カラシナの実などを加えて調理した料理．出来上がったものは鮮やかな黄色をしている． (2)कबाब में हड्डी (B.T.) (A) 焼き肉の中に骨 खीर में नमक की डली(B.T.) (A)（甘い）キール（乳粥）の中に塩の塊 (3)कढ़ी में कोयला (Raj.) (A) 邪視よけのためカリー（やヨーグルト）に炭（のかけら）を入れる (B)(a) いい物によくない物が混じるたとえ (b) いい人とよくない人が出会うたとえ (c) 順調だったものの調子が狂うたとえ (4)कढ़ी में कोयला はヒンディー語のイディオムとしては (a) すぐれた物に小さな欠陥のあること（玉に瑕）のたとえ (b) なにか秘密が隠されていて怪しいことのたとえでもある

〔736〕 **कद्दू के फूल**(B.T.)

(A) 夕顔の花 (B)（夕顔の花のように）とてもきゃしゃな人や繊細な人をたとえたり皮肉る表現

(N) (1) =छुई-मुई का पेड़. (A) オジギソウ (2) ユウガオの花は人が指さすだけでも萎れるとされるほど繊細なものだ (B.T.)

〔737〕 **कब के बनिया, कब के सेठ** (Fa., B.T.)

(A) いつぞやの小商人が今や大旦那 (B)(1) 成り上がり者のたとえ (Fa.) (2) にわかに大出世をした人のたとえ (B.T.)

(N) (1) → 〔790〕 कल का बनिया, आज का सेठ.

〔738〕 **कब मरी बूढ़, कब आया आँसू** (B.T.)

(A) ばあさんが亡くなったのはいつ，涙が出たのはいつ (B) 同情を装うのを揶揄する表現

(N) (1) =कब मरी सासू, कब आये आँसू(B.T.) (2)कद्य मरी सास्सू, कद्य आई आंस्सू ?(Har.) (A) 姑が亡くなったのはいつのこと，涙が出たのはいつのこと (B) 時ならぬ時に過ぎ去ったことを思い出すのは全く意味のないことだ (3)कद मरी सासू अर कद आया आंसू !(Raj.) (A) 姑が亡くなったのはいつ，そして

涙が出たのはいつ　(B)(a) 親愛の情や同情をわざとらしく見せる人を揶揄する表現　(b) 深い悲しみは時間を待たずに表に出るものだ　(4)(Raj.) は次も掲げている．कद मरैला सासू अर कद आवैला आंसू (A) 姑はいつ死ぬだろうか（姑の権限を受け継ぐ嫁は姑の死に際し）いつうれし涙を流すだろうか

(B)(a) 心にもない同情心を見せる人を揶揄する表現　(b) なにか仮定の条件をあてにしてやりかけのことを先に引き延ばすことはできないものだ

〔739〕　**कब से राजा ईश्वर भए, कोदों के दिन बिसर गए**(B.T.)

(A) あんたはいつからお殿さまや神様になったのか．ヒエ飯を食うていた頃をとんとお忘れか (B) にわか分限者が昔を忘れたかのように自慢をするのを揶揄する言葉

〔740〕　**कबहूँ भगे न स्यार पर, बरु भूखे मृगराज**(B.T.)

(A) 百獣の王は如何に飢えようともジャッカルを襲わず　(B) 立派な人は困窮しても沽券を損なうようなことは決してしないものだ　【鷹は飢えても穂を摘まず】【武士は食わねど高楊枝】

〔741〕　**कबीरदास की उलटी बानी, कम्बल भीजे पानी**(Fa., B.T.)

(A) カビールダースの逆さま言葉，毛布が水を濡らす　(B) 世の中は善人が苦労し悪人が栄えるのが慣わしだ

(N) (1) カビールダースは 15〜16 世紀の北インド（バナーラス）に暮らした人で宗教の根元に迫ろうとした宗教家で多数の宗教詩を遺しているが，その一部にこのような逆説的，あるいは，寓話的な表現のものが伝えられてきている　(2) 似たような表現のものが他にもよく知られている．कबीरदास की उलटी बानी, आँगन सूखा, घर में पानी(Fa., B.T.) (A) カビールダースの逆さま言葉，庭が乾いて家の中には水がある　(B)(a) 賢者はこの世で楽しみを享受せず来世のために蓄える　(b) 人は快楽に溺れているが，心は神への熱い想いに渇しているのだ　(3)कबीरदास के उलटाबानी बरसे कम्मर भीजे पानी(Kah., चंपा॰ 1, 2…) कम्मर は毛布の意ではなく蓮の花のような美しい目の意で पानी は水ではなく手 पाणि の意とされる．「蓮の花のような目から涙が流れ手が濡れる」謎めいた会話をするのをたとえて言う表現

〔742〕　**कबूतरख़ाना है एक आता है एक जाता है** (B.T.)　**कबूतरख़ाने का सा हाल है, एक आता है एक जाता है**(Fa.)

(A)（この世は）鳩小屋なり，一羽飛び来たりては一羽飛び去る (B.T.) 鳩小屋に似たるなり．一羽飛び来たりては一羽飛び去るなり (Fa.)　(B)(1) 人の生き死にするこの世は鳩小屋なり．この世の儚さをたとえて言う　(2) 沢山の使用人のいる大所帯のたとえ (Fa.1)　(3) 大勢の人が出入りする特定の場所のたとえ (Fa.2)

〔743〕　**क़ब्र पर क़ब्र नहीं बनती** (B.T.)　**क़ब्र पर क़ब्र नहीं होती**(Fa.)

(A) 墓の上に墓を築いてはならない　(B) (1) 借金をしている相手に自分の方から重ねて借金を認めてやることは出来ないものだ (Fa., B.T.)　(2) 未亡人の再婚を咎める言葉 (Fa., B.T.)　(3) 無駄遣いを咎める言葉 (Fa.)　(4) 家の中では二人の意見が一致することはないものだ (Fa.)

〔744〕　**क़ब्र में भी तीन दिन भारी होते हैं** (Fa., B.T.)

(A)（イスラム教徒にとっては）土葬された墓の中でも 3 日間は苦しいものだ　(B)（イスラム教徒にとっては）死後も 3 日間は生前の行為の審判が行われるので厳しいものだ　(2) 人は死後も生前の行為の責任を負わなくてはならない (B.T.)

〔745〕 **कभी काग़ज़ की नाव भी चलती है** (B.T.)

(A) 紙でこしらえた舟が水に浮かんだためしがあるか (B)(1) 嘘や偽りでものごとが長続きするはずがない (2) 嘘や非道はいつまでも通用しないしそれからもたらされる結果はよくないものだ

〔746〕 **कभी के दिन बड़े और कभी की रात बड़ी** (B.T.) **कभी के दिन बड़े, कभी की रात** (Fa.)

(A) (一年には) 昼間が長い時もあれば夜間が長い時もある (B)(1) 人生は悲喜こもごもだ (B.T.) (2) 自分が勝つこともあれば相手が勝つこともあるものだ (B.T.)

(N) (1) =कभी दिन बड़े तो कभी रात(B.T.) (2)कदै ई दिन मोटा तौ कदै ई रात मोटी(Raj.) (A) 昼間の長い日もあれば夜間の長い日もある (B)(a) 自然界と同様に人生にも社会にも変化は避けられないものだ (b) 人の運勢は常に一様ではない (c) 人は勝つこともあれば負けることもある．勝って驕るべきでもなければ負けて泣くべきでもない．確かなものや定かなものは何もないからだ

〔747〕 **कभी गाड़ी नाव पर, कभी नाव गाड़ी पर** (B.T.) **कभी नाव गाड़ी पर, कभी गाड़ी नाव पर** (Fa.)

(A)(1) 車が舟に積まれることもあれば舟が車に積まれることもある (B.T.) (2) 舟が車に積まれることもあれば車が舟に積まれることもある (Fa.) (B)(1) この世は定めなきもの．有為転変の世の中である．貧者が富者に富者が貧者になる (B.T.) (2) この世は色々な身分や地位，性質の人が互いに相手の世話になり力になるものだ (Fa.)

(N) (1) =कभी नाव गाड़ी पर, कभी गाड़ी नाव पर(B.T.) (2)कधी गाड़डी नाँ पै, कधी नाँ गाड़डी पै(K.L.) (A) 車が舟に積まれることもあれば舟が車に積まれることもある (B) この世の中は常に一方が優勢であるとは決まっていない (3)कबहीं गाड़ी पर नाव कबहीं नाव पर गाड़ी(Kah., शाहा॰ 2, चंपा॰ 1) 時に応じて人は他人の世話にならなければならないものだ (4)कदै ई गाडी माथे नाव, कदै ई नाव माथे गाड़ी(Raj.) (B)(a) 人は状況に応じて身を処さねばならない (b) 人生には浮き沈みがあるものだ．人は状況に応じて暮らしを立てなくてはいけないものだ (5)कहूँ गाड़ी पर नाव, नाव पर कबहूँ गाड़ी(A.V.) (A) 車に舟が載せられることもあれば舟に車が載せられることもある (B) 人も物もどのような状況でも万能ではない．状況に応じてそれぞれの力を発揮するものだ

〔748〕 **कभी घी घना, कभी मुट्ठी चना, कभी वह भी मना**(B.T., Fa.)

(A) ギーたっぷりの料理を食べることもあれば (煎った) ヒヨコマメの一握りで食事を済ませることもあり時にはそれすらないこともある (B) 人の一生には浮き沈みがあるものだ

(N) (1) 最後の कभी वह भी मना の部分は省略されることがある (2)कदै ई घी घणा तौ कदै मूठी चिणा(Raj.) (A) 時にはギーをたっぷり，時にはヒヨコマメを一握り， (B) 人生には浮き沈みがあるものだ．状況に合わせて暮らしを立てよ (3)कभू घी घना, कभू मुट्ठी भर चना, कभू उहू मना(Chatt.) (A) 時にはギーをたっぷり，時にはヒヨコマメを一握り，時にはそれすらなし (B) 人生は波風立たずに一様に過ぎるものではない．不遇の時にも満足を知らなくてはならない．逆境にある人に対して用いられる言葉 (4)कबहूँ घृत घना कबहू मुट्ठी भर चना कबहूँ वह भी मना(Kah.,गुं॰ 1) कबहीं घनघना कबहीं मुट्ठी भर चना कबहीं ऊहो मना (Kah., शाहा॰ 2; चंपा॰ 1) (A) 時にはギーをたっぷり (のご馳走)，時には一握りのヒヨコマメ，時には絶食 (B) 無計画に出費したりだらしない暮らしをするのをたとえる言葉

〔749〕 **कभी न कभी टेसू फूले** (B.T., Fa. 2) **कभू न कभू टेसू फूला**(Fa. 1)

(A) テースーの花もいつかは咲く (B)(1) 行いのよくない人がたまにいいことをしたのをたとえる表現 (B.T.) (2) 滅多にいいことをしない人のたとえ (Fa.1) (3) 思いもかけず立派なことをする

人のたとえ (Fa.2)　(4) 不幸な人にも良い日が巡って来るものだ (B.T.)

(N) (1) テースーとはマメ科のツルハナモツヤクノキ (Butea frondosa)　(2) =घूरे के भी दिन फिरते हैं (B.T.)　(3)Every dog has his day(B.T.)　(B) だれにでも一生に一度は幸運が訪れるものだ．どんな人にも得意な時期があるというたとえ (E.E.P.)

〔750〕　**कम कम खाय तो बहुत मिले**(B.T.)

(A) 少しずつ食べればたくさん手に入る　(B)(1) 口銭を少なくすればたくさん売れる．そして儲けが多い．薄利多売.【商いは数でこなせ】Small profits quick returns(B.T., D.E.P.)　(2)【腹八分に医者要らず】

〔751〕　**कम क़ुवत, गुस्सा बहुत**(B.T.)

(A) 弱い者ほど腹立ち多し　(B) 無力な者ほどよく立腹するものだ

(N) (1) =कमज़ोर को गुस्सा बहुत (B.T.)　(2) この諺に対して次の諺がある．कमज़ोर पर ही गुस्सा आता है (B.T.) (A) 弱い相手には腹を立てるものだ　(B) 力のある人や金持ちが弱い者や貧しい人を苦しめることがある時にこれを用いる　(3)कमज़ोर नै गुस्सौ भारी, भार खावण री धारी(Raj.) (A) 弱き人は怒り多し，打たれる覚悟を　(B) 弱い人は腹を立てることが多い．打たれてて酷い目に遭わされてしかその怒りは鎮まらないものだ

〔752〕　**कम खाना, ग़म खाना और किनारे से चलना**(B.T.)

(A) 大食いせぬこと，我慢すること、道の端を歩くこと　(B) これを守れば健康で人との争いがなく身の危険がないものだ

(N) (1)कम खाणौ, गम खाणौ (Raj.) (A) 少食と我慢　(B) それを守れば心に安らぎを得る

〔753〕　**कमज़ोर की बीवी सब की भाभी** (B.T.)

(A) 無力な男の妻は皆のバービー（兄嫁）　(B)(1) 無力な男の妻は夫の無力さ故にだれからもなれなれしい声をかけられるものだ　(2) 無力な人はだれからも侮られ苦しめられるものだ

(N) (1) → 〔298〕 अबरा की जोरू सब की भौजाई.　(2) バービー（兄嫁भाभी）とはヒンドゥー社会の厳格な男女間の関係の中で制限の緩い自由な関係を保つことの出来る兄嫁と義弟との関係を表す言葉である．この言葉を用いて声をかけると言うことは本来なら声をかけることの出来ない他人の妻なのに弱い立場の夫を軽んじたり侮ってその妻になれなれしい態度をとることを指す．=कमज़ोर की लुगाई सब की भाभी (B.T.)　(2) バービーと同じような関係はサルハジ（सरहज/सलहज），すなわち，妻の兄弟の妻との間にも持つことが出来るので同様の表現がある．कमज़ोर की जोरू सब की सरहज　(3)कमजोर री जोरू सगळां री भाभी(Raj.)　(B)(a) 弱い者はだれからも利用されるものだ　(b) 弱いものはだれからも侮られる=कमजोर री लुगाई, सब री भौजाई (Raj.)　(4)कमज़ोर की लुगाई सभी की भाभी(Har.)

〔754〕　**कमज़ोर लकड़ी को कीड़ा खाय** (B.T.)

(A) 弱い木を虫が食う（弱い木は虫に食われる）　(B) 弱い人はだれからも苦しめられるものだ

(N) (1)कमज़ोर काठ कीड़ा खाय(Kah., मुँ॰ 1) (A) 弱い木は虫に食われる　(B) 弱い人は皆から苦しめられる

〔755〕　**कमल कीचड़ में उगता है** (B.T.)

(A) 蓮は泥田に生える　(B)(1) 立派な人や偉人は貧窮や苦難の中に育つものだ　(2) 貧しい親のもとに育った子が出世したり立派な人になるたとえ

(N) (1) (B.T.) は次の英語の諺をこれの説明に加えているが同義か?Roses grow in thorns これは Every rose grows from prickles 「バラはみな刺から生える」【苦は楽の種】(D.E.P.) と同じなのか

〔756〕 कमल नाल के तंतु सों को बाँधे गजराज (B.T.)
(A) 蓮の茎でだれが巨象を繋ぐだろう (B) 常人やありきたりのものでは大仕事は出来ないものだ

〔757〕 कमल नाल को तोरिये तदपि न टूटे सूत(B.T.)
(A) 蓮の茎を折っても茎の筋（繊維）はちぎれない (B) 立派な人は人との関係が断たれようとも愛情は繋がっているものだ

〔758〕 कमली ओढ़ने से फ़क़ीर नहीं होता(Fa., B.T.)
(A) 人はカマリー（織りの粗い毛布）を着たからファキール（イスラム教の修行僧・托鉢僧）になるのではない (B) 人の中身は外見では決まらない

〔759〕 कमान से निकला तीर और मुँह से निकली बात फिर हाथ नहीं आती(Fa., B.T.)
(A) 弓から放たれた矢と口から出た言葉は二度と元へは戻らない (B) 言葉は慎むべし

〔760〕 कर का मनका छाँड़ि के, मन का मनका फेर(B.T.)
(A) 手の数珠を捨てて心の数珠を繰れ (B) 形式や外見，偽りの心を去り真心から信心すべし

〔761〕 करने की सौ राहें(B.T.)
(A) 仕事のやり方は百通りあるものだ (B)【精神一到何事か成らざらん】
(N) (1)Where there is a will, there is a way(B.T., D.E.P.)

〔762〕 कर बुरा, हो बुरा(B.T.) (A) 悪事を働けば悪い結果が生じる (B) 播いた種は刈らねばならない
(N) (1)As you sow, so you reap. As you sow, so shall you reap.(E.E.P.) As they sow, so let them reap(D.E.P.)【善因善果】【悪因悪果】【身から出た錆】

〔763〕 कर भला, हो भला, अंत भले का भला (B.T.)
(A) よいことをすればよい報いがある (B)【善因善果】【情けは人のためならず】
(N) (1)Light reflects light(B.T.) (2) =कर भला हो भला, अंत भले का भला(B.T.)

〔764〕 करम की ढोलकी बाजी(B.T.)
(A) 運勢の太鼓はどこででも鳴る (B) 運勢に見放されれば内緒のことまで露見するものだ
(N) (1) これには諺話がある．盗人が太鼓を盗んだが，追われて綿畑に潜んだものの，綿の実が太鼓に当たって鳴ったために捕らえられた (2) 次はこの話とつながりがあるのであろうか．करम री सगळे बाजे(Raj.) (A) 運勢はいずこでも鳴る (B)(a) 運に恵まれている人はいずこでも勝利を手にするものだ (b) 運に恵まれた人はいつでも調子よく過ごせるものだ (c) 運に見放されると秘密まで明かされてしまう

〔765〕 करम दौड़े आगे-आगे(B.T.)

(A) 運勢は人より先を走る　(B) 人は運命から逃れることが出来ないものだ．人は運命には逆らえず

〔766〕　**करमरेख न मिटे, करो कोई लाखों चतुराई**(Fa.1)　**करमरेख न मिटै, कर कोई लाखों चतुराई** (Fa.2)

(A) 運命線に刻まれたものは消えぬ．どれほど知恵を働かせても　(B) 運命は変えようにも変えられないものだ

(N) (1)करम रेख क्द मिटे, कर कोई लाख चतराई(Raj.)　(B) 知能も知恵も運命に対しては力が及ばない

〔767〕　**करमहीन खेती करे बैल मरे या सूखा परे**(B.T.)　**करमहीन खेती करे बैल मरे, सूखा परे** (Fa.)

(A) 不運な人が畑仕事をすれば役牛が死ぬか旱魃が起こる　(B) 運がなければ至るところで苦しみに遭うものだ

(N) (1)करमहीण खेती करै, काळ पड़े के बळद मरे(Raj.)　(B)(a) 不運な人は何事を試みても失敗するものだ　(b) 不運な人は何事をしても障碍に遭うものだ　(2)करमहीन खेती करैं, बलद् मरैं के सुक्का पड़ैं(K.L.) (B) 運命には逆らえないものだ

〔768〕　**करमहीन जब होत हैं, सभी होत हैं बाम। छाँह जानके बैठत हैं, तहाँ होत हैं घाम॥** (Fa.1)　**करमहीन जब होत है, सभी होत हैं बाम छांह जान जहं बैठत, तहां होत है घाम** (Fa.2)

(A) 運に見放されると何もかもが逆さまになる．涼しい木陰に入っていても熱い陽射しが射し込んでくるものだ　(B) 運に見放されるとどこまでも不運につきまとわれるものだ

(N) (1) ラクダに乗っていても象に乗っていても運が悪ければ犬に噛まれることになる．→〔588〕

〔769〕　**कर सेवा खा मेवा**(Fa.. B.T.)

(A) 人に仕えて果実を食え　(B)(1) 目上の人に奉仕をすればよいことがあるものだ (B.T.)　(2) 努力する人だけが幸せになるものだ (B.T.)　(3) 他人のためになることを行えばいい結果を得るものだ (Fa.)

(N) (1)करसी सेवा तौ पावसी मेवा (Raj.)　(B) 目上の人や年長者の世話をすればご褒美を貰う

〔770〕　**करिया अक्षर भैंस बराबर**(B.T.)

(A) 黒い文字は水牛に同じ（黒いだけ）　(B)【目に一丁文字なき】(無学文盲のたとえ)

(N) (1) =काला अक्षर भैंस बराबर (B.T.)　(2)करिया अच्छर भँइस बरोबर (Kah.,चंपा॰ 1; सा॰ 1)　(B) 無学な愚か者のたとえ　(3)करिया अच्छर भैंसि बराबर (A.V.) (A) 無学で文字を知らない人にとっては黒い文字は水牛と同じだ（小さく黒い文字を見分けることが出来ない．黒いものといえば水牛を思うものだ）　(4)करिया अक्षर भैंस बरोबर (Chatt.) (A) 水牛を見れば大きな水牛の様子が分かるのに小さな文字を見ても黒いだけでなんのことかわからない　(B) 文字を知らないたとえ

〔771〕　**करी दुकान, गँवई जान** (B.T.)

(A) 商いをして命を失った　(B) 商売は生やさしいものではない

〔772〕　**करी बेगारी, हाथ न बिगाड़ी** (B.T.)

(A) 苦役は果たしたが腕は惜しまず　(B) たとえ無理強いされた仕事であろうとそれをするからには腕を惜しまずに立派にやり遂げなくてはならないものだ

〔773〕 करे ख़र्च, दे ख़ुदा(B.T.)

(A) 金を費やせば神が（金を）授けて下さる (B)(1) 人に与えればその与えた人を神様が支える (2) 財貨は正しく使えば尽きることはないものだ

〔774〕 करे कल्लू, भरे उल्लू(B.T.) करें कल्लू, भरें लल्लू (Fa.2, B.T.)

(A) カッルーのしたことでウッルーが苦しむ（カッルーがしたことの償いをラッルーがする）
(B) 他人の行為で酷い目に遭わされる，あるいは，処罰を受ける

(N) (1)करे एक भरे सब (B.T., Fa.) 一人の行為で他の全員が（処罰などの）迷惑を受けるたとえ (2)करे कोई भरे कोई (M.L.K.) (3)करै कोई, भरै कोई (Raj.) (B)(a) 他人の犯した罪で罰せられるたとえ (b) 正しい裁きの行われないたとえ (c) 他人の不行跡の果を受ける羽目になるたとえ

〔775〕 करेगा सो भरेगा(Fa., B.T.)

(A) 行為をなした人が償う (B) 行った人がその果を享受しなくてはならないものだ.（【自業自得】が自分自身の悪行に強調があるのと同じように，為した行為は悪いものに限られるようだ）

(N) (1)करेगा सो भरेगा, खोदेगा सो गिरेगा(B.T.) (A) 行った人がその償いをすることになっている．穴を掘った人は自分自身がその穴に落ちる (B) 悪行の結果は自ら受けることになる.【自業自得】【身から出た錆】 (2)करेगा सो आपको माई को ना बाप को(Kah., चंपा॰ 1) करेगा सो आपको, न मा को न बाप को (B.T.) (A) 行った人がその行為の結果を受けることに決まっている．母親でも父親でもない (3)करतम सो भोगतम (Har.) (B)【自業自得】 (4)करसी सो भरसी (Raj.) (B)(a) 罪を犯せば罰を受けることになっている (b) 自分の行為の結果は自ら受けることになるものだ

〔776〕 करे तो डर, न करे तो डर(B.T.)

(A) してもしなくても恐ろしい (B) 進退両難；二進も三進も行かない状況のたとえ

(N) (1) 次は全く同じ表現であるが，意味に相違がある．करै तौ डर, नीं करै तौ डर (Raj.) (A) 悪いことをするのは恐ろしい．いいことをしなくても恐ろしい (B) 不安な人には悪事を働くのはもちろん恐ろしいが，悪事を働かなくても無実の人が処罰されるし世間は人を辱めようとするものだから恐ろしいものだ (2)करो तो डर, नहीं तो कैसा डर ?(B.T.) (A) 悪事を働けばその罰が恐ろしいが，悪事を働かねばだれも処罰することは出来ないものだ (B) 身が清ければ恐ろしいものは何もないのだ

(3)करै तौ डर, नीं करै तौ कौड़ौ डर ?(Raj.) (A) 悪事を働くのは恐ろしい．悪事を働かねば何が恐ろしかろう (B) 汚れなき人には恐れるものは何もないものだ

〔777〕 करे दाढ़ीवाला, पकड़ा जाय मूँछों वाला(B.T., Fa.)

(A) あごひげ男がしたことで口ひげ男が捕まる (B)(1) 身代わりに処罰されるたとえ (B.T.) (2) 出しに利用される人のたとえ (Fa.1) (3) 上司の失敗の責任を部下が取らされるたとえ (Fa.2)

(N) (1)करै कोई, भरै कोई (Raj.) (B) 他人が犯した罪の罰を受けるたとえ (2) インドでは長いあごひげの人は敬われ，口ひげだけの人は信頼されない (Fa.1) (3)करे दाढ़ीवाला, पकड़ा जाये मूछों वाला(M.L.K.) (B) 上位の者がしたことで部下の者が責任を問われるたとえ；とかげの尻尾切りにされるたとえ

〔778〕 करे नेकी, मिले बदी(B.T.)

(A) よいことをして悪い結果を得る（親切をしてやった相手に酷い目に遭わされるたとえ） (B) 恩を仇で返されるたとえ

〔779〕 करेला फिर नीम चढ़ा(B.T.)

(A) もともとが苦いのにその上ニーム（インドセンダン）の木に這いあがったニガウリ（ツルレイシ） (B) 悪とそれに輪をかけたような悪が一緒になるたとえ

(N) (1) これには多数のバリエーションがある.〔650〕एक तो करेला कड़वा, दूसरे नीम चढ़ा (2) =करेला और नीम चढ़ा. (3)करैला और नींब चढ़ा (Raj.) (B)(a) 悪が出世するたとえ (b) 悪が身分の高い人の後ろ盾を得るたとえ (4)करेला तेमाँ लीम चढ़े (Chatt.) (B) 悪い癖のある人が悪との付き合いからさらに別の悪い癖を身につけるたとえ

〔780〕 करे सेवा, मिले मेवा(B.T.)

(A) 仕えれば，あるいは，奉仕すればその果を得る (B)(1) 努力をすればいい結果が得られる (2) 善行の結果はいいものだ (3) 上司にへつらえば昇進する

(N) (1) =करे सेवा, पावे मेवा; करे सेवा सो पावे मेवा(B.T.)

〔781〕 करो खेती, भरो दंड(B.T., Fa.)

(A) 畑を耕して罰金を納める (B)(1) 農業は苦労の多いもの (2) 農民は自然（天候）にも人にも苦しめられるものだ

(N) (1) 不当な課税査定に対する不満を述べたもの (Fa.) Allusion to cases of over assessment of land revenue (Fa.1)

〔782〕 करो बुरा, खाओ खरा(B.T.)

(A) 悪さをして旨いものを食え (B) 悪人が栄える．これがこの世の常だ

(N) (1) करौ पाप खावौ धाप, करौ धरम फोड़ौ करम(Raj.) (A) 悪さをして腹一杯食え．人の道を守って苦しい目に遭え (B)(a) 悪事を働き人倫から逸れる者は楽しく過ごし人の道を進めば苦労するものだ (b) 人倫から外れた人だけが金儲けできる

〔783〕 करो या मरो(B.T.)

(A) やるかやられるか (B)(1) 命がけで目標に向かうべし (2) たとえ命を失おうとも正々堂々と名誉を守って事に当たるべし

(N) (1)Do or die.(B.T.) 【一か八か】(D.E.P.)

〔784〕 कर्ज़ बाप का भी बुरा(B.T.)

(A) 親父からのものであれ借金はよくないものだ (B) どんなに身近な人にも借金はするものでない（不名誉を被ることになる）

〔785〕 कर्ज़ लेकर खाना और फूस का तापना(B.T.)

(A) 借金暮らしはわらの焚き火に当たるが如し (B) いずれも永続的な解決策にはならない

(N) (1)कर्जा के खायल भूआ के तापल बराबर हऽ(Kah., चंपा॰ 2) (A) 借金をするのとススキやカヤの穂で暖を取るのとは同じこと (B) いずれも気付かぬうちに無くなってしまう

〔786〕 कल करना सो आज कर, आज करे सो अब (B.T.)

(A) 明日なすべきことは今日なすがよい，今日なすべきことはただ今なすがよい (B)(1) 何事も遅滞無くなすがよい (2) 人の命は明日なきものと思うべし

(N) (1) これには後半部分があり次のようになる कल करना सो आज कर, आज करे सो अब। पल में परलै होत है, फेर करेगा कब॥ (A) 明日の仕事は今日果たすべし，今日の仕事は今果たすべし，瞬きの間に大

波立てば果たすはいつぞ

〔787〕 **कल का क्या भरोसा**(B.T.)

(A) 明日があてになろうか (B)(1) 頼りになるのは今手元にあるものだけだ (2) なすべきことは直ちになすべきである．妨げがいつ生じるかも知れないから

〔788〕 **कल का जोगी, आज का सिद्ध**(B.T.)

(A) 昨日の出家が今日は聖 (B)(1) 出世の早い人のたとえ (2) 新入りが派手に振る舞うのを揶揄する言葉 (3) 若僧が大きな口を叩くのを揶揄する言葉 (4) だれでも努力すれば立派になれるたとえ

〔789〕 **कल का जोगी पाँव तक जटा** (B.T.)

(A) 昨日の出家が足元までの長髪を垂らす (B) (1) 若僧が大きな口を叩くたとえ (2) 新入りが初め大いに派手に振る舞うたとえ

〔790〕 **कल का बनिया आज का सेठ** (B.T.)

(A) 昨日までの小商人が今日は豪商 (B) 貧乏人がにわかに大金持ちになるたとえ

(N) (1)कल के बनिया आज के सेठ (Kah., सा॰ 1) कल्हे बनिआ आझे सेठ (Kah., पट॰ 1) (A) 昨日までの小商人が今日は大旦那 (B) にわか分限者の傲慢な振る舞いを揶揄する言葉 (2) → 〔737〕 कब के बनिया, कब के सेठ

〔791〕 **कल किया आज भरो, आज किया कल भरो** (B.T.)

(A) 昨日の稼ぎは今日受け取り今日の稼ぎは明日受け取れ (B) 人は前世の報いをこの世で受け取るものだ

〔792〕 **कल किसने देखी है ?** (B.T., Fa.)

(A) 明日をだれが見たか (B)(1) 将来のことをだれが知ろうか．明日のことはだれも知らない (B.T.)

(2) 明日はどうなるかわからないものだ．今日なすべきことは今日なせ (Fa.)

(N) (1)Tomorrow never comes (B.T., E.E.P.) (A) 明日は決して来ない (B) 今直ぐにでも取りかかるがよい (2)कल की कल पर छोड़ो(B.T.) (A) 明日のことは明日に (B) これは「今日なすべきことに専心せよ」ということのようであるから कल किसने देखी है ?と同じ意味になるのであろう

〔793〕 **कलजुग की भलाई ब्रह्महत्या** (B.T.)

(A) カリユガに行われる善行はバラモン殺し（の大罪）に等しい (B) 末世においては善行すらが極悪非道の所行とされるバラモン殺しに等しいものだ

(N) (1) =कलयुग की भलाई ब्रह्महत्या(B.T.) (2) カルユグ (कलयुग) はカリユグ (कलियुग) の訛ったものである．ヒンドゥー教の世界観で生成と消滅とが周期的に行われる時間は四つの期間に分けられる．カリユガはその終滅に至る直前の第四期の称であり正しい教え（仏教では正法）がもっとも行われなくなる期間であり，その意味で末世の代名詞である．この語は現代社会の人心の荒廃を象徴的に表すものとして用いられる (3)कलियुगक उपकार हत्या बरोबरि(Kah., मुज॰ 2) (A) カリユガに行われる親切は人殺しと同じ (B) 末世では人に親切にするのさえよくないことだ．今日の汚れた人心を揶揄する言葉である (4)कळजुग आयौ बांमणा, हळ सूं राखौ हेत(Raj.) (A) バラモンよ，カリユガ来たれり，犂に親しめ (B) 末世にはバラモンには用はない．バラモンは犂に，すなわち，農にいそしめ（今

の世にバラモンのなすべき仕事は手に鍬や鋤を持ち畑を耕すことだ）　これには続きがある．मंतर ज़मीं में गाड़ दो, माथे राळौ रेत マントラは土に埋め額にはティラク（宗派標識）の代わりに赤土を塗れ

(5)कलजुग के बेटा करे कछेरी, बाप ला खेत जोंतावत हे। ओखर बाई रानी होगे, डोकरी ला पानी भरावत हे॥ (A) カリユガの時代には息子は役所務め，父親には畑を耕させる．わが嫁はお姫さま，母親には水を汲ませる　(B) 子供が遊び暮らし親があくせく働くのを評する言葉

〔794〕　**कल भी कभी आता है**(B.T.)

(A) 明日はいつかやってくるのか　(B)(1) 過ぎた時間は二度と戻りはしない　(2) 約束を一日延ばしにする人を非難する言葉

(N) (1) →【紺屋の明後日】　(2) → Tomorrow never comes (E.E.P.) (A) 明日は決してこない

〔795〕　**क़लम या तलवार वाला कभी भूखा नहीं मरता**(B.T.)

(A) 筆や剣の立つ人は食いはぐれがない　(B) 学問のある人や武術に秀でた人は生活に悩むことがない

〔796〕　**कल मरी सास, आज निकले आँसू** (B.T.)

(A) 姑は昨日死に涙は今日出た　(B)(1) 偽りの同情を寄せる人を揶揄する言葉　(2) 時機を失して何かをしようとする人について言う

(N)(1) → 〔738〕

〔797〕　**कलवार की बेटी गिर-गिर पड़े लोग कहें मतवाली**(B.T.)

(A) 酒屋の娘がよろけると世間の人は酔っ払っていると言う　(B)(1) 闇の世界にいる人が困ってもだれも助けようとはしないたとえ　(2) 悪者だった人がまともに暮らすようになって困った状況になろうともだれも助けはしないし笑いものにする．汚名はいつまでも残り一度失った信用は容易に取り戻せないものだ

(N) (1) これは【李下に冠を直さず】や【瓜田の履】とは異なる．→〔798〕कलाल की दूकान पर पानी भी पीओ तो शराब का गुमान.

〔798〕　**कलाल की दूकान पर पानी भी पीओ तो शराब का गुमान**(B.T.)　**कलाल की दूकान पर पानी भी पियो (पीओ) तो शराब का गुमान होता है**(Fa.)

(A) 酒屋の店先で水を飲んでも酒を飲んだと疑われる　(B)【李下の冠】【瓜田の履】

〔799〕　**कलवारी की अगाड़ी और क़साई की पिछाड़ी** (Fa.)

(A) 酒屋は前，肉屋は後ろ　(B) 酒屋では初めに出す品がよく肉屋では後から出す品がよいとされる

〔800〕　**कलाल की बेटी डूबने चली, लोग कहें मतवाली**(B.T., Fa.2)　**कलाल की बेटी डूबने चली लोगों ने कहा, 'मतवाली है'** (Fa.1)

(A) 酒屋の娘が入水しようとすると世間の人は酔っ払っていると言う　(B)(1) 困っている人々に同情せず嘲笑することのたとえ (Fa., B.T.)　(2) いつも悪事を働く人がたとえいいことをしようとも世間の人は疑いの目で見るものだ (B.T.)

〔801〕　**कविता सोहावे भाट को, खेती सोहावे जाट को**(B.T.)

(A) 詩を詠むのはバートが似合い，畑仕事にはジャートが似合う　(B)【餅は餅屋】

(N) (1) バートはバラモンに準ずるものと位置づけされるが，主にパトロン頌詩の詩作に従事したとされる　(2) ジャートとはラージャスターン州，ハリヤーナー州，パンジャーブ州，ウッタルプラデーシュ州西部などを中心に居住して農耕を主な生業としてきたカースト

〔802〕　**क़सम खाने से कस्तूरी नहीं बिकती** (B.T.)

(A) 麝香は誓文で売れるものではない　(B)(1) はっきりした証拠のあるものを隠そうとして嘘を言う人を揶揄する言葉　(2) 人や物のすぐれていることは何も証明する必要がない．すぐれていればひとりでに知れるものだ

(N) (1) 次も同じ意のものである．कस्तूरी के लिए प्रमाण क्या ?(B.T.) (A) 麝香を麝香だと言うのに何か証拠が要るだろうか　(B) 立派な人は自ずと知られるものである

〔803〕　**क़साई का कुत्ता, रसोई का बाम्हन** (B.T.)

(A) 肉屋の犬と調理人をするバラモン　(B)(1) 働きもせずまるまる太っている居候について言う　(2) 居候や食客のたとえ

〔804〕　**क़साई के सरापे गाय नहीं मरती** (B.T.)

(A) カサーイーが呪ったために牛が死ぬことはない　(B) 人が思ったり念じるだけではいいことも悪いことも起こるわけではない

(N) (1) カサーイーとは主に食肉の処理及び販売に従事してきたカースト　(2) =कहीं कौवों के कोसे ढोर मरते हैं ?(B.T.) (A) カラスが呪ったら家畜が死ぬものだろうか

〔805〕　**कहना अपना, करना उसका**(B.T.)

(A) 申すのは手前，なさるのはあちら様　(B)(1) 手だてがなくなれば神様にお願いするのみ　(2) 偉い役人や高官にはお願い致すだけ．するしないはあちら様の意向次第

〔806〕　**कहना आसान है, पर करना मुश्किल**(B.T.)　**कहना आसान, करना मुश्किल**(Fa.)

(A) 言うのは容易だが行うのは難しい　(B)【言うは易く行うは難し】

(N) (1) =कहना और है करना और है; कहना सरल, करना कठिन(B.T.)　(2)कहना और है करना और है (B.T.) (A) 言うこととすることとは別　(3)कहणौ सोरौ करणौ दोरौ (Raj.) (A) 言うのは易しいが行うのは難しい

〔807〕　**कहनेवाले करते नहीं, करने वाले कहते नहीं**(B.T.)

(A) 語る人は行わず，行う人は語らず　(B) 慎重さこそが偉人の標識である

〔808〕　**कहने से करना भला**(B.T.)

(A) 言うよりもするほうがよい　(B) 口で言うよりも実行して見せたがよいものだ

(N) (1)An ounce of practice is better than tons of preaching.(B.T.) An ounce of practice is worth a pound of precept. (A)1 オンスの実行は 1 ポンドの訓戒に値する (D.E.P.)　一オンスの実行は一ポンドの教えに値する (E.E.P.)

〔809〕　**कहने से कुम्हार गधे पर नहीं चढ़ता**(B.T.)　**कहे से कुम्हार गधे पर नहीं चढ़ता** (Fa.)

(A)「乗れ」と言うと陶工はロバに乗らない　(B)(1) 日常行っていることを人に言われるとなそうとしない人を揶揄するたとえ (B.T.)　(2) 理屈にならないことで意地を張るたとえ (Fa.)　(3) いつ

も自らはすることを人に言われるとしようとしないたとえ (Fa.2)

(N) (1) =कहने से धोबी गदहे पर नहीं चढ़ता(B.T.) (A) 人に言われるとドービー（洗濯屋カーストの男性）はいつも利用しているロバに乗ろうとしない (B) 自らはしていることを他人に指図されるとしようとしない人のたとえ (2) =कहे से कुम्हार गधे पर नहीं चढ़ता(M.L.K.) (B) いつもは自分がしていることを人に言われるとしようとしない強情者のたとえ

〔810〕 **कहने से क्या कुएँ में कूदेगा ?** (B.T.)

(A) 人に言われて井戸に飛び込むものか (B) 自分自身の思慮や判断がなく愚かしいことをするのをたしなめる言葉

(N) (1) =कहने से क्या कुएँ में पड़ा जाता है(B.T.) (2)कहे से कोई कुएँ में नहीं गिरता(Fa.) (A) 人に言われて井戸に飛び込む者はいないものだ (B) 考えもなく自ら身を危険にさらす人はいないものだ

〔811〕 **कहाँ गरजा, कहाँ बरसा**(B.T.)

(A) 雷の鳴ったところと雨の降ったところは大違い (B)(1) 努力の成果がその人にではなく他の人にもたらされるたとえ (2) 期待に反することが生じるたとえ (3) 裏切り行為をする人について言う

(N) (1)कहाँ गरजल कहाँ बरसल (Kah., चंपा॰ 1) (A) 雷が鳴ったところと雨の降ったところが全く違う (B) 原因となった場所とその結果が生じた場所が全く違うたとえ

〔812〕 **कहाँ राजा भोज, कहाँ गंगू तेली** (B.T.) **कहाँ राजा भोज, कहाँ कांगला तेली** (Fa.)

(A) ボージャ王と油屋のガングーとでは大違い (B) 二つのものの間に大差があり比べようもないことのたとえ

(N) (1) ボージャ王とは諸説があるが，伝説上の大王と考えるべきであろう． (2) テーリーとは油製造や油搾りを生業とする低カーストの一の男性． (3) これには次のように後半の部分が様々な表現になっている．...कहाँ काँगला तेली, ...कहाँ गँगू तेली, ...कहाँ भोजवा तेली(B.T.) (4)कहाँ राजा भोज कहाँ भोजवा तेली(Kah., चंपा॰...) (B)(a) 自分を立派に見せようとする人に対して用いられる表現.「お前は並ぶべくもない者だ」の意に． (b) 自らを卑下するのに用いられる表現.「手前如きが比べられようはずがございません」の意に． (5)कहाँ राजा भोज कहाँ लखुआ तेली(B.P.) においては比較されているテーリーは巨万の富の持ち主であるから比較にならない理由は身分の高貴さに対する卑賤さと言うことになる (6)कहाँ राजा भोज, कहाँ भोजवा तेली(Chatt.) (A) 片やボージャ王と片やテーリーのボージュワー（ボージャを卑しめた呼び方） (B) 比較のしようもないような相違のあるものを比べようとする．すなわち，話にもならないような比較をすることのたとえ (7)कठै राजा भोज, कठै गांगलौ तेली(Raj.) (B)(a) 比べようのないほどの違いのある二人を比べようとすることのたとえ (b) 力もないくせに大口を叩くのを揶揄する言葉 (8)कहाँ राजा भोज कहाँ गँगू तेली(M.L.K.) (B) 二つのものが格段に違い比較にならないことのたとえ (9)कहाँ राजा भोज औ कहाँ गंगू (भोजवा) तेली !(A.V.) (A) ボージャ王とガングー（／ボージュワー）テーリーとでは (B)(a) 本来的には両者の違いは経済的なものである (b) 自らを小さく低く表現しようとするものであり逆に相手を持ち上げるものである (c) ボージュワー・テーリーとするのが本来の意味に近いのかも知れない．ボージュワーと言う語形はボージャという語の卑称形であるからだ．しかし，गँगूに近い語も他にも見られる．(10)कहाँ राजा भोज्, अर् कहाँ मँगू तेल्ली(K.L.) (A) ボージャ王とマングー・テーリーとでは大違い (B)(1) あなたみたいな大金持ちと手前如き貧しい者とでは比べようがございません (2) にわか分限者は派手に振る舞うものだ （これには昔話があり，運命のなせるところボージャ王は油屋のガングーのところで油搾りの激しい労働に従事することになった．やがて本当のことが知れてマングーは王の足元にひ

れ伏した，という.）

〔813〕 **कहीं की ईंट, कहीं का रोड़ा, भानमती ने कुनबा जोड़ा**(B.T., Fa.)

(A) どこかのれんが，どこかの石くれ，バーヌマティーが寄せ集めた (B)(1) あちこちからがらくたを寄せ集めて無用の物をこしらえるたとえ (B.T.) (2) 全くまとまりのないもののたとえ (Fa.2)

(N) (1) バーヌマティー(भानमती)はボージャ王の頃の女性魔術師とされる (Fa.2) (2)कहीं की ईंट कहीं के रोड़ा भानुमती ने कुनबा जोड़ा(Kah., शाहा॰ 2) (A) どこかのれんがどこかの石くれを寄せ集めてバーヌマティーが一つの家族を築いた (B) 全く知り合うことのなかった二つの家系が一つの家族のようになっていくのをたとえる表現 (3)कहूँ के ईंट कहूँ का रोड़ा। भानुमती ने कुनबा जोड़ा॥(A.V.) (B) 色々なところから様々なものを無計画に洗練もせず寄せ集めたもののたとえ (4)कहीं की ईंट कहीं का रोड़ा, भानुमती ने कुनबा जोड़ा(M.L.K.) (B) 雑多なものを寄せ集め掻き集めて一つのものを作り出すたとえ (5)कठा री ईंट कठा रे रोड़े, भांनमती कड़बौ जोड़े(Raj.) (B)(a) 様々なところから知識を集める人のたとえ (b) 趣味のよくないつまらないものを蒐集する人のたとえ (c) がらくたを掻き集める人の変わった性分を揶揄する言葉=कठा री ईंट, कठा री रोड़ी, भांनमति कोकळ जोड़ी.

〔814〕 **कहीं की बोली, कहीं की गाली** (B.T.)

(A) どこかの（普通の）言葉はよそでは罵り言葉になる (B) 同じものでもところ変われば評価が異なるというたとえ

(N) (1)One man's meat is another man's poison (B.T.) (B) ある人にとっての食べ物は他の人にとっては毒になる (D.E.P.)

〔815〕 **कहीं डूबे भी तिरे हैं**(Fa.) **कहीं डूबे भी तरे हैं**(B.T.)

(A) 溺れてしまった人が浮くものだろうか (B)(1) 一度駄目になった人は立ち直ることは出来ないものだ (Fa., B.T.) (b) 踏み倒された金は戻りはしない (B.T.)

〔816〕 **कहीं गधा भी घोड़ा बन सकता है** ? (B.T.)

(A) ロバが馬になれるものか (B)(1) 愚か者や悪人は改まらないものだ (2) 卑しい人はいつまで経っても卑しいままだ

(N) (1)Wash a dog, comb a dog, still a dog is a dog(B.T.) (A) 洗ってもくしけずっても犬は犬

〔817〕 **कहीं दाई से पेट छिपता है** (B.T.)

(A) 産婆さんに腹を隠せるものか (B) 事情や内情を詳しく知る人や内輪の人には何事も隠しおおせるものではない．全てを知っている人に隠し事をしようとするたとえ

〔818〕 **कहीं नाखून भी गोश्त से जुदा हुआ है** ? (Fa., B.T.)

(A) 爪が身から剥がれたことがあるか (B) (1) 身内はいつまでも身内のままだ (B.T., Fa.) (2) 親密な関係や身内の中に不仲の生じた際に関係修復を促す言葉 (B.T.)

〔819〕 **कहीं बूढ़े तोते भी पढ़ते हैं** (B.T.)

(A) 老いたオウムがものを覚えるものか (B) (1) 老人には新しいことは学べないものだ (2) 時機を失すると事は成らないものだ

(N) (1)Can you teach an oldman to dance ? (B.T.) (A) 老人に踊りを教えられようか

〔820〕 **कहूँ तो माँ मारी जाए, न कहूँ तो बाप कुत्ता खाए**(Fa.) **कहूँ तो माँ मारी जाय, नहीं तो बाप कुत्ता खाय** (B.T.)

(A) 言えば母が打たれ，言わねば父が犬を食う (B) にっちもさっちも行かない状況のたとえ

(N) (Fa.) も (B.T.) も同じ諺話を伝えている．母親が誤って父親に山羊の肉の代わりに犬の肉を食わせようとしているのを知った息子の状況にたとえている (2)कहीं तऽ माई मारल जाई ना तऽ बाप कुत्ता खाई(Kah., शाहा॰ 1) ビハールのこの諺話は (Fa.) 及び (B.T.) と違い，父親に出された食べ物は犬が触れたために父親が食べてはいけない不浄のものになっていたのだと説明する

- 未完 -

諺の世界

ラームヴリクシュ・ベーニープリー[1]

土人形[2]

ネズミ百匹[3]

タペーサル爺さんが見張り番をする果樹園にはセイヨウグアバの木が一本植わっていた．それのもともとの苗木がイギリスからもたらされたものかそれともどこかよその国からもたらされたものかについては承知しないからなんとも言えないのだが，ただなにか新種のもの，特に小ぶりのものには，しばしばイギリスとかセイヨウとかいう名前がつけられているものだ．小型犬はイギリス犬となりトマトにはセイヨウナス[4]という名がついてしまっている。

このセイヨウグアバの木は普通のグアバの木よりも小ぶりで，枝もきゃしゃでありしなやかだ．深緑の葉は普通のものよりつやがありすべすべしていてかなり小さい．その実は大きなビンロウジよりも小さく，熟すと表面が乳白色を帯びる．ただし，果肉は緋色がかっている．

子供たちが隙あらばと狙いをつける一方でタペーサル爺さんがこれ許さじと目を光らせている．

「やあ，デーオ，グアバが熟れたぞ」

「じゃ取って来ようか」

「いや，だめだめ，爺さんに足をへし折られるぞ」

「なあに，あんな爺さんにへし折られてたまるものか」

デーオは矢のような勢いで駆け出すと木々の茂みに身を潜めたり這いつくばったりしながらやがてグアバの木の下にたどりつきまるで猿のように，いやリスのような身のこなしでするするとその木に登った．デーオの小さな手が手当たり次第グアバの実をもいでいるのが離れたところからも見えていた．それを見ている私の口の中には早くも唾がたまってきた．

人の欲には限りがない．デーオはやがて細い枝伝いに移動し始めた．私の見ている前で熟した実に飛びつくように手を伸ばしたその時だった．爪先立って足をのせていた枝がばきっと音を立てて折れた．左手でつかんでいた細い枝はデーオの全体重を支えきれずにぽっきり折れてしまいデーオともどもどさっと地面に落下した．

その物音を聞きつけるが早いか爺さんは棍棒を手にして小屋から飛び出してきた．デーオは一瞬の間も置かず立ち上がると一目散に逃げ出した．爺さんがどう頑張っても追いかけられる相手ではない．爺は罵りの言葉をわめきちらしながら戻って行った．

私は別の道を通って逃げデーオと落ち合った．デーオの上着の両方のポケットからは葉のついたままの熟したグアバがのぞいていた．「食えよ」デーオはポケットに手を入れようとした．

「なんだこりゃ」

見るとデーオの左手は力が抜けたようにだらんと垂れ下がっている．ひじがはずれている．まるで一本の腕が二本になり皮だけでつながったようになっている．デーオは逃げるのに必死になり気もつかなかったのだ．私はそれに気がつくとデーオは大声で悲鳴をあげるだろうと思ったが，ほんの少し驚いた様子を見せただけで「あっ」とも「うーん」とも言わずにグアバを指差しながら私に

ポケットから取り出すように合図した．私はグアバを取り出すところではなかった．声を震わせながら言った．

「えらいことになったぞ，お前の腕は折れているわ」

「また，つながるさ」

事も無げにそう言うと私の持っていた手拭いを指差して言った．

「それをおれの腕に巻いて首から吊り下げてくれ」

折れた腕を手拭いで包み通学鞄のようにデーオの首から吊り下げてやった時に私自身が感じた痛みといったらなかった．だが，デーオは一つのうめき声も出さなかった．確かに目が赤くなりはしたが．

「お前痛くはないのか」と言うとデーオは答えた.「当たり前よ．そりゃ痛いに決まっているさ．痛くないはずがないだろう．でも泣きわめいたらどうにかなるものかい．痛みが減るのかい」

デーオの唇は震えていた．

村は一面に緑におおわれている．田畑にはトウモロコシ，ヒエ，早稲などの穂が波打っている．道端には様々な雑草が生え出ている．雨に洗われた木々の葉の美しさには心を奪われる思いである．農家の軒先には夕顔やヘチマの蔓が這いあがっているのが見受けられる．

この緑の中，ジャンマ・アシュタミーのブラタ(5)，すなわち，願行祭がやってくる．マンゴー園ではミトゥアー，バンバイー，マールダーなどの品種がすでにシーズンを過ぎているのは確かだが，ファジリー，バダイヤー，ラーリーなどの品種はまだ枝にたわわに実っている．トウモロコシの穂には旨味たっぷりのぷくぷくした実が詰まってきている．裏庭の畑ではグアバの枝やきゅうりの蔓がそれに成った実の重みでしなっている．

このブラタには断食を行うことになってはいるが，一つには果物なら食べてもいいし断食も昼間だけ守ればいいことになっているので子供たちにとってはジャンマ・アシュタミーは一番楽しみなブラタであった．子供たちの大半がブラタを守っていた．

庭の中央にはヴィシュヌ神が祀られている祠がある．そこでは祭壇に色々な準備がなされている．人がしきりに出入りしているし様々なお供え物が用意されている．コエンドロの葉をを炒めてパンジャニー(6)をこしらえる準備が進んでいる．それの香ぐわしい匂いが子供たちを興奮させている．子供たちは祠から少し離れたところにある一本の立木に掛けられたブランコを力一杯漕いでいる．いつの間にかお日様が沈み夜が更けお月様が出てやがてクリシュナさまのお誕生の時刻となる．子供たちは次から次へとパンジャニー[6]のお代わりをする．子供たちにとってその待ち遠しさといったらない．

7，8人の子供たちの中には一人二人女の子もおりデーオもその中にいる．高い木に登ってブランコの綱を掛ける子供はデーオ以外にはいないしあんなに激しくブランコを漕ぐ子供も他にはいない．

激しく漕いでいるかと思えば次には歌を歌い時には大声をあげて笑い出す．

「わあっ，蛇だ，コブラだよ」

一人の女の子が叫んだ．庭に接している竹林には番いのコブラがすみついていた．その話はそれまでもちょいちょい聞いてはいたのだったが，まさか昼日中にそれも人が大勢集まって騒々しくしている最中に出て来ようとは想像さえしたことがなかった．女の子の悲鳴が上がると同時に皆はその女の子の震えている人差し指の示す方向に一斉に目を向けた．皆は「きゃー，恐い」と叫び声を上げた．中には一目散に逃げ出した子もいた．子供たちはみなうろたえ落ち着きをなくした．コブ

ラは梅雨最中のバードン月なのに一片の雲もなくじりじり照りつける激しい暑さにいたたまれず穴から這い出してどこか決まった涼しい場所を目指したのであったろう．幾人かの子供が悲鳴をあげて逃げるとコブラはその間にとぐろを巻き我々のほうをしっかり見定めようとした．なんというその姿であろうか．4フィートは優に超えるその長さ．木漏れ日に当たったその小麦色の胴体はぎらつき鎌首をもたげて立ち上がっていた．鎌首の幅は4インチを下らない．両目は人を引きずり込むように美しく妖しい光を放ち先の細く割れた舌先はぺろぺろと波を打っている．

どうしたらよいかと考える間もなくデーオは棒を持って蛇の方へ進んで行く．私はデーオを行かせまいと思った．それまではこの世には勇猛果敢なものは三つと半分しかいないものだと聞いていた．すなわち，その一番は水牛，二番目は猪，三番目はコブラ，そして半分と言うのはあのラーマチャンドラ王である．水牛と猪とコブラの三者は正面から攻撃を加えるもので相手に背を向けることがない．確かにラーマチャンドラ王は勇猛ではあったが，木陰に身を潜めた上でバーリンを討ったのであった．(7)　ところがなんとそのラーマチャンドラ王をも凌ぐ剛の者が私たちの目の前に立っているではないか．コブラに挑もうとしてわが小さき友が小さな棒切れを握って前に進もうとしているではないか．

「やめろ，逃げろ」と叫んでいる最中にデーオはコブラから10フィートほどのところに進み出ていた．デーオが近づいてくるのを見たコブラは一旦は鎌首を引っ込めて頭を下げた．皆はコブラは逃げ出すものと思った．ところがデーオが10フィートほどのところへ近づくといきなり1フィート以上も頭をもたげ鎌首を最大に広げるとしゅーっしゅーっと言う音を出し始めた．それはまるでクリシュナを襲ったカーリヤ・ナーガ(8)を思い起こさせるものであった．しゅーっしゅーっという音を出しながら頭を絶えず揺らしている様子はまるで怒りに震えているかのようであった．

「デーオ，逃げろ」と叫んだが，デーオは鎌首を睨みながら棒をしっかり握って立っていた．コブラも少しも前へ進まずデーオの足も前へも後へも動かなかった．それを見つめている子供たちはびっしょり汗をかいていた．デーオの視線はコブラの目に突き刺さっていた．

「逃げろ」皆がそう叫んだその時，デーオは握りなおしていたその棒切れを目も眩むような素早さと寸分違わぬ正確さで投げつけたのでそれはコブラの鎌首の真下，地面からほぼ9インチほどの高さのいわば首の部分にばしっとぶち当たった．その激しい勢いにコブラは鎌首もろとももんどりうって地面に転がった．だが，その次の瞬間コブラは姿勢を立て直して身構えた．そして今度はまるでその尻尾の先端のほんの一部分だけを地面につけているかのような姿勢で高く立ち上がった．いや，まるで直立したかのようにふくらませた鎌首をゆらりゆらりと振りながらしゅーっしゅーっと激しく息を吹きかけていた．それはまるで冥界の支配者である閻魔大王ヤマラージが死を招き寄せるターンダヴァの踊りを踊っているかのようであった．デーオはもう手に何一つ持ってはいない．コブラが襲いかかろうものならその場で命を落とすかと思われた．だが，デーオを応援するためにヤマラージの開けた口に向かって歩を進める者がいようか．デーオは突っ立っている．ひょっとしたら恐怖のあまりからだが硬直したのではないか．

「逃げろ，逃げろ」

だが，どうしたのだ．コブラは再び自ら地面にばったり倒れたのだ．その倒れた音までが聞こえた．地面に倒れてからコブラは再び続けざまに尻尾を地面に打ちつけ地面から頭を少しもたげてはしゅーっと息を吐き出した．コブラが地面に倒れると子供の幾人かは勇気が湧いたのでグッリー・ダンダー（棒打ち遊び）の棒を手にして進み出た．デーオの第一撃でコブラの首の骨が砕けたのであったが，コブラはいわゆるバーイー・カー・ジョーンカー，すなわち，アーユルヴェーダでいう五種のヴァーユ（風），もしくは，五種の生気の風の噴出力で立ち上がったのだった．ヴァーユに砕けた骨を突っ張る力がいつまでも保たれるはずがない．コブラは地に這い己の惨めな姿を悔やんでいた．前に進み出ようとするわれわれ仲間を押し止めデーオは仲間の持っていた棒を手に取りコ

ブラを散々に打ち叩きなぶり殺しにした．はじめは２，３本の棒を投げつけ，次に近寄ってコブラの胴を幾度も打った．次に棒の一端をコブラの口のあたりにやるとコブラがかみつく．デーオはけらけら笑い声をあげた．こうして長い間デーオは蛇を相手に死の遊びを続けた．そこへデーオの父親がやって来るのが見えた．父親の咳払いを耳にするとデーオはコブラの鎌首を幾度も激しく棒で打ってぐしゃぐしゃに潰してしまい歓喜の声を上げながら走り去った．私たち仲間も一緒になってその後を追った．

デーオの父親は息子を進学させようと思っていた．村の学校を卒業後，デーオは一時期都会の学校へ行きはしたのだが学業を続けようとはしなかった．村に戻ると家業についたものの性格がこれまでとはすっかり変わってしまったようになった．ちょっとでも人がなれなれしい口をきこうものならしつこく絡むようになった．相手のからかいの言葉に対しては拳骨で，相手の棒切れに対しては棍棒で返事をするようになった．相手が４本の足をしていようが２本の足をしていようが鼻綱を通して相手を引きずり回さずには気が済まなかった．だれの所有になるものであろうとも村内で一番丈の高い竹の先端をへし折り一番高い木の枝になった果物を取って食べるようになった．自分の飼っている水牛にはだれの所有する田畑であろうと至るところで作物を食わせ，牛にはくつこ（口籠）をつけずに好きなように歩き回らせていた．他人の畑が丸裸になろうがデーオには関係のないことであり，デーオのすることに口をはさむ蛮勇はだれも持ち合わせていなかった．

品行に汚点のつくような話も一つならずあったのだが，デーオはどうしたことか私にはいつもやさしい振る舞いを見せた．そのためデーオとのことでは（親代わりの母方の）伯父から幾度となく小言を言われたものだった．「あんな男となぜ口をきくんだ．なぜ親しくするんだ．不良だぞあいつは．性根の腐った奴だ．品行が悪い奴だ．あんな奴と付き合ったり親しくするものではない」苛立つ伯父の言葉を私はおとなしく聞いていた．伯父の言葉のまともなことや真実味を疑う余地は全くなかった．だが，そうしたことを知ったり聞いたりした上でも私はデーオから距離を置くことが出来なかった．なぜかと問われればその頃はまだそのような理屈をこねることに慣れていなかったのだ．

ある日の夕方，学校の休暇で帰省中だったが，野外が好きな性分から村外れに散歩に出かけた．その途中，デーオと出くわしたので並んで歩いた．サツマイモの蔓が生い茂った畑があった．そこに足を入れるとビロードの上にいるような感じがした．芋蔓の間にはところどころ赤紫の花も咲いていた．まるで緑のじゅうたんにバラの花が咲いているかのようであった．二人はそこに腰を下ろした．

「おい，なにか歌を歌えよ」

「おいおい恐れ入るな．おれが歌っているのを聞いたことがあるのかい」

「それじゃなにか面白い話を聞かせてくれ」

「どんな話だい．身の上話かい」

そう言ってデーオはにっこりした．デーオのいいところは決して嘘をつかないことだ．デーオは自分の恋物語を話し始めた．田舎のロマンスというやつだ．それぞれのロマンスにまつわる不思議な冒険談．いつの間に日暮れ時になったのかわからない．にわかに夕闇が迫ったのを見て家路についた．

しばらく歩くとデーオが急に黙ってしまった．しばらくあってこう言った．

「お前はどうしておれとつきあうんだい．そのことで世間の人に嫌みを言われているだろうに」

「馬鹿なことを言うなよ．おれが嫌みを言われようとお前になんの関係があるんだい」

デーオはまた黙り込んだが今度はえらく真面目な口ぶりで言った.

「なにかおれに出来ることを教えてくれないか. なにかいいことさ. お国のためになることでな」

それまで時々デーオにわが国の有様について少し話したことがあったのを思い出した. そのためデーオの胸になにかが突き刺さったような感じを与えていたのであろう. だが, その日デーオの問いかけを耳にした時には唐突さにどうしたものかと戸惑った. デーオがお国のことを考えるとは. でもともかくなにかを言うべきであろうと考えたのでこう言った.

「大げさなことをすることはないさ. せいぜいカーディー[9]を着るようにすればいいんだよ」

しかし, カーディーは都会でしか手に入らないものだ. それに都会はこの村から20マイル以上も遠方にある. だが, デーオはそのことにはいささか面食らったもののこう言った.

「よし, どうにかして取り寄せよう」

デーオが初めてカーディーを着た日は村ではかなりのお笑い草となった. 村人たちは言い合った.

「百匹もネズミを食うた猫さまのメッカ詣でじゃのう」[10]

だが, だれ一人デーオに面と向かってそれを言うことはなかった.

'30年の嵐が去る間もなく'32年の砂嵐が激しく吹き荒れた.[11] まなじりを決した4500人の人たちと共に私もパトナー・キャンプ刑務所の中で臭い飯を食べていた.

毎日のように新入りがやってきては古手が去って行くのであった. その出入りはもはや出迎える喜びも別れを惜しむ悲しみの感慨も起こらぬほどに日常化してしまっていた. 大海にどれほどの川が流れ込みどれほどの水が蒸発してしまおうとも海はたゆむことなく波打つものなのだ. 水の増減は関係のないことだ.

ある日のこと. 一人の見覚えのある風体の男が門から入ってくるのを見つけそれがデーオであることがわかった時は驚きも喜びも格別なものであった. このところしばらくデーオとは無沙汰に過ぎていた. 物書きになり雑誌の編集者, 愛国者, 人々の先頭に立つ者として過ごす身にはデーオの消息を知る暇があろうはずもなかった.

それがなんとデーオが自分たちと同じくこの刑務所に入ってくるとは. それは全く想像すら出来ないことだった. でも嬉しさのあまり事情をたずねる暇もあろうはずはなかった. デーオを自分たちの監房に案内した. 夕刻のことであった. 食事がすむと直ちに監房は閉ざされることになっている. 中では村の様子や家族の消息をたずねる. 話をしているうちに眠ってしまった. デーオは私の横に眠っていた. 夜中に眠りを破られた. というのもデーオがなにか苦しげなうめき声をあげていたからだ. それはまるで極限の苦痛の中から小さくはあるが陰々滅々とした音のように発せられるものであった. 夢魔に襲われているのではないかと思い激しく揺すぶってデーオを起こした. デーオは目を覚ましたが, わけをたずねても一言も発しなかった. だが, また眠りにつくと再び同じようにうなされるのであった. 再度起こした. でも夜通し起こしているわけにもゆかぬことだった.

デーオと一緒にやってきたクンクンが昨日デーオが夜中にうなされる秘密を明かしてくれた.

デーオはもはやかつてのデーオではなくなっていた. 彼は今や管内の不服従抵抗運動のゆるぎない指揮官としてこの刑務所に入ったのであった. そうなのだ, 紛れもなくゆるぎのない指揮官として入獄したのだ.

でも彼はその指揮をとった代償としてどれほどのものを支払わなければならなかったのか.

デーオが指揮していた区域は県内はおろかビハール州全体にもその名を轟かすほどの実績をあげていた. コングレス党の報告書においても話題になっていたほどだった. サティヤーグラーヒー, すなわち, 反英非暴力抵抗運動に参加する人たちの隊列は絶えることなく当局を悩ましておりいつも小管区の小さな刑務所を満杯にしている有様であった. 役人たちは苦境に立たされていた. 警察

による抜き打ちの取り締まり，財産の没収や罰金も何ら有効なものとはならなかった．騒動の元凶であるデーオが捕まるまでは何人捕まえようが無駄なことであった．さらにはデーオを捕まえる試みも繰り返し失敗していたのであった．

しかし，警察のあらゆる試みも手を尽くした努力もなし得なかったことをある日デーオが自らやってのけた．今度は少し臭い飯も味わってみようと決心したのだった．さる日警察署に向かうデモ隊の指揮をデーオがとるとの予告がなされた．責任者の警部補は自分の力に自信が持てなかった．武装警官を率いた警部が応援にやってきた．身の丈は6フィート以上もあるような大男であった．デーオはデモ隊の指揮者として逮捕された．クンクンなど他の人たちも一緒だった．署の狭い留置場に全員が詰め込まれた．日が暮れ夜になり夜半になった．辺りは静まりかえった．すると留置場の扉が開きデーオが連れ出された．隣の部屋に連れて行かれたその後は….

その後は….それを語るクンクンの顔には怒りの表情が現れ目は血走った．クンクンが言う．

「その後どうなったなんて…思い出すのもいまいましい．警部の奴が…あの警部の野郎が….

おいらには奴が怒鳴りつける声が聞こえておった．ひっきりなしにばしっばしっ，ごつんごつんという音が聞こえてきた．人が倒れては立ち上がる音が聞こえてはいたんだ．デーオ兄貴がぶん殴られているのだろう．けれども叫び声はさっぱり聞こえてこないんだ．

ところが兄貴がそこで悲鳴をあげないことがえらい災難を招くことになったわけなんだ．警部は革をかぶせた棍棒を用いたり平手や拳骨で殴りつける．倒れれば半長靴で蹴り続けた．けれど兄貴は叫び声をあげないどころか涙さえ浮かべないんだ．警部の奴はたとえ命を奪うことになろうとも兄貴に涙を流させるつもりだったんだ．それがあいつの沽券にかかわることだったわけだ．それなのに兄貴ときたら命がけで自分の意地を張っていたんだ．

そうなんだ．命を投げ出す覚悟だったんだ．兄貴はさんざん殴られたり打たれたりしているうちに気を失ってしまった．すると今度は口に水を注がれて意識を戻された.『泣きを入れるかそれとも命を捨てるかどっちなんだ』と奴は怒鳴った．兄貴はにっこりした．本当のことなんだぜ．警部補がはっきりおれたちにそう言ったんだ．すると警部の奴は棍棒と拳骨と半長靴で殴る蹴るをまた始めたんだ．兄貴はまた気を失った．すると奴は兄貴の胸板に半長靴なり乗ってどんどんと踏みつけ始めたんだ．二，三度踏みつけると兄貴の口から血が出てきた．

『血を吐いた．血を吐きましたぜ，警部』警部補が大声で叫んだ．

『死ねばいいんだ』　怒り狂った警部はこう言ったんだ.『おれたちをひどい目に遭わせてきたんだぞこいつは』

けれど口で言うほどには人の命を奪うことは簡単ではないものだ。警部も事の重大さを感じ取ったのだろう．一方，その騒ぎを聞いていたおれたちも留置場の中で大きな叫び声をあげて騒いだんだ．警部の奴はおれたちまでひどい目に遭わせようとしかかったんだが，警部補が止めに入ったのさ．

『もし，このことが仲間連中に知れたら今夜私たちはだれ一人命が助かりませんぜ．警部はこの連中の住んでいる地域のことをご存じないのですから』

警部はそそくさと引き揚げて行ったわい．間もなく警部補は兄貴を連れて留置場にやってきた．兄貴はなんともむごたらしい姿になっていた．文字どおり全身が傷だらけになっていたんだ．けれども兄貴は一言も悲鳴をあげなかったんだぜ．その日の夜のうちにおれたちは自動車で県の刑務所に移されたんだ．夜明け頃には兄貴の体は肌が破れそうになるほど腫れ上がったんだ．薬が与えられ手当が施された．今は見かけはよくなったようだが痛みを口に出さないようにものすごい痛みに耐えたものだからその痛みは胸の奥の奥底にまで沈んでしまったようなのだ．それからというもの

兄貴は夜眠ると決まってうめき声をあげるようになったというわけなんだ」

クンクンはそう言うと深い溜息をついた.

昼中明るいところでデーオをよく見てみると体には今もなおいたるところに黒ずんだ痣が残っていた. だがその黒ずんだ体の中には神々しいまでに清らかで強靭な魂が煌々と輝いていた.

注

(1) 著者ラームヴリクシュ・ベーニープリー रामवृक्ष बेनीपुरी(1900/1902 - 1968 ?) はビハール州北部のムザッファルプル県ベーニープル村の生まれ. 学業半ばで M.K. ガンディーの反英非協力運動に参加し生涯にわたって諸々の日刊紙, 週刊誌, 月刊誌, 児童雑誌などの編集に携わるかたわら小説, 戯曲, 伝記などの分野で多数の作品を著した. 国民会議派の運動への参加に始まり, 社会主義運動, 農民運動にも参加しキサーン・サバー (全インド農民組合) などの農民組織においても活動した. 1929-42 年にかけて数度政治犯として投獄された. インド独立後は州立法議会議員も務めた.

(2) 原著名は माटी की मूरतें. 訳出に使用したテキストはप्रकाशन केन्द्र, लखनऊ (1971). 本書執筆の経緯についてはハザーリバーグ中央刑務所 (当時はビハール州, 現在ジャールカンド州) に政治犯として服役中 (1941-42) に想を得たことを自ら記している. 本質的な部分を損じない程度の「象嵌」(筆者自身の表現), すなわち, 潤色を行ったことは認めているが, 作品はあくまでも小説ではなく伝記であり人物スケッチである, とも述べている. (1964) 筆者の直接知る平凡な男女の村人や近親者の人物像を描いているが, 一名だけは獄中で知り合った, 微罪を重ねたために甚だ長期にわたり服役中の老人である. 初版 (1946) では 11 人の人物が描かれているが第二版では 1 人が追加されている. 第二版の序文によれば初版は 6 年間に 6 万部発行されたと言うことであるから当時としては驚異的な数字と考えるべきであろう. (なお, ओंकार शरद が 1971 年に記しているところでは 20 万部以上発行されていた.)

(3) 原題は人名の「デーオ」(もしくは, デーブ) देव であるが, 小訳では文中の諺「百匹もネズミを食べた猫がメッカ (マッカ) 詣で」の一部を題名に用いた. その諺の原文は सौ-सौ चूहे खाय के बिलाई चली हज को である. सौ-सौ と言う表現は数詞の百の強調した形であり甚だしい多数とか無数をたとえた表現である. S.W. Fallon の諺辞典に सात सौ चूहे खाके बिल्ली हज को चली(Fa.), (Mah.,wom.)「七百匹のネズミを食べて…」及び सत्तर चूहे खाके बिल्ली हज को चली「七十匹のネズミを食べて…」とあるのと同工の表現である. なお, (Fa.1) の説明は次の通り.「悔悟して信心深くなったことを装う邪悪な人について言う. たとえば, 年老いて信心深くなった娼婦など」 (10) を参照のこと.

(4) बिलायती बैगन ビハール地方での呼称.

(5) ジャンマ・アシュタミー (ジャンマーシュタミー) のブラタ (जन्माष्टमी) ブラタ, もしくは, ヴラタ ब्रत/व्रत とはヒンドゥー教徒が家庭で特定の日に, もしくは, 特定の日限, 除災, 家内安全, 招福, 夫や子供の長寿や安全, 子宝獲得などのため特定の神格に祈りを捧げたり願掛けを行う儀礼で, 断食を伴う. 完全な食断ちや水断ちを行う厳格なものから果物やそば粉など特定の食品は摂取の許されるものまで断食は一様ではないが一般に米や麦などの穀類の摂取が断たれる. ジャンマ・アシュタミーとはインド暦 6 月, 陽暦 8〜9 月の黒半 8 日に祝われるクリシュナ神の聖誕祭. その日の夜生誕の時刻まで断食が守られることになっている.

(6) パンジャニー पंजनी セリ科の一年草コエンドロ (コリアンダー) の若葉を用いた料理と考えられるが詳細は不明.

(7)　バーリン（バーリー）はキシュキンダーの猿の王．ラーマチャンドラ王（ラーマ）はラーヴァナに奪われた妻のシーターを捜し求めて南インドの猿の王国キシュキンダーを訪れたが，そこの王バーリンの弟スグリーヴァと同盟関係を持ちその求めに応じてバーリンを討った．

(8) カーリヤ・ナーガ कालिय नाग はインド神話に出てくるヤムナー川に住むナーガ（蛇）族の王で，その蛇毒により周囲に危害を与えていたのをクリシュナが懲らしめ帰順させたとされる

(9)　खादी 手織綿布のことでカッダル खद्दर とも呼ばれる．マハートマー・ガンディー M.K.Gandhi の指導した反英民族独立運動の実践活動の中で奨励された．手紡ぎ車の奨励と並んで象徴的な意味も有した．

(10)　原文は (3) に掲げた通りであるから筆者の母語と思われるマイティリー語の次の表現とは異なる．सत्तर चूहा खाके बिल्ली चलली हज के (Kah.चंपा° 1; शाहा° 2)　なお，(B.T.) はマイティリー語と近接するボージプリー語の次の諺を掲げている．सत्तर चूहा खाके बिलार भइली भगतिन「70 匹のネズミを食うた雌猫が尼猫になった」もっとも，John Christian の記録しているビハール地方の諺では，「雌猫は 900 匹のネズミを食べてハッジ（メッカ巡礼）に出かけた」となっている．नव सै चूहा खाके बिल्ली चली हज को (B.P.) また，(Raj.) の掲げる諺は次の通りで मिनकी हज करण ने जाय सै-सै ऊंदर खाय 70 匹ではなく百匹である．用法及び意味は (1) 生涯賄賂を受け取ってきた役人が見かけの上でだけ信心深い振る舞いをするたとえ (2) 犯罪人が全く偽善的な振る舞いをするのを揶揄する表現，とある．

以上は「猫のメッカ巡礼」をたとえにしたものであるが，次のアワディー語の諺ではイスラム教徒のメッカ詣で（大巡礼）と異なりヒンドゥー教の聖地プラヤーガへの巡礼がたとえに用いられている。諺としては同じ意味のものである．どちらが古いのであろうか．以下に I.P. パーンデーヤの解釈を参照しながら紹介しておこう．कब ते पूना भगतिनि गईं ? कथरी ओढ़ि परागै गईं (A.V.) すなわち，一生涯にわたり出歩く先々で喧嘩を売り争いを起こし仲違いを起こさせたり人の心を凍らせ傷つけるようなきつい言葉を浴びせては村中の女性たちを恐れさせたりして生活を引っかき回してきたプーナー婆さんが発心したとは本当か．それはいつからのことか．ぼろをまとってパラーグ（プラヤーグ）へ巡礼に出かけたとは本当か．まだ何かたくらみがあるのではないかと村人たちは疑心暗鬼になっている．悪行を重ねた人は容易に世間の信頼を得ることはできないのだ．プーナー婆さんについているバガティニ भगतिनि という表現は信仰篤い女性のことであるが，アワディー語では肉食しない人，菜食の人の意味にもなる．意味をかけているとは思えないが，肉食をやめたと称する猫を仮定すれば分かりやすい話であろうか．

(11)　1930 年に始められた反英不服従運動は翌年 3 月のデリー協定の成立を経て一時鎮静化へ向かうものの二度の円卓会議もインドの政治改革には程遠く不服従運動は再び活発になった．1932 年早々にはイギリス側による激しい弾圧が開始された．

蝿と承知で (1)

「ダーダー（おじいさん）の拝んでいる神様のお家は西の方角にあるの．なぜ東の方角にはないの」

私はスバーン・ダーダー (2) のつやつやして威厳のあふれる白く長いあごひげに小さな指で触れながら尋ねた。スバーン・ダーダーの広くて突き出た額には喜びの表情がのぞき濃い口ひげとあごひげに隠れたきりっと引き締まった唇には微笑みが洩れた．長い右手の掌で私の頬をなでながら

ダーダーはこう言った.

「坊や，そうじゃないんだよ．神様は東西南北のどちらの方角にもいらっしゃるのだよ」

「それじゃダーダーはなぜ西の方角に向かって立ってからお祈りをするの」

「西の方角のあるところにラスール[3]と言う神様のお使いが来られたのだよ．そのお使いの方がおいでなされたところにおじいさんたちは巡礼にでかけるのさ。おじいさんたちはね，その巡礼地に向かって神様を念じるのだよ」

「その場所はここからどのくらい遠いところにあるの」

「うんとうーんと遠いところなんだよ」

「お日様が沈むところなの」

「いや，それよりも少しこちらのほうにあるんだよ」

「ダーダーはそこへ行ったことがあるの」

するとダーダーの大きな目がうるんできたのがわかった．顔全体に赤みがさしてきた．感情が高ぶり震える声で言った.

「坊や，そこに行くのにはとても沢山のお金がいるんだよ．おじいさんは貧しいものだからこんな歳になってもこんなに一生懸命に仕事をしているのさ．少しお金をためてそこへお参りに行けるようにと思ってね」

スバーン・ダーダーの目を見ているうちに幼い私の胸も一杯になった.

「ぼくのおじさんに少しお金を借りればいいのにさ」

「いいかい坊や，お金を借りて巡礼に行っても御利益はないんだよ．神様の思し召しがあれば1,2年の内になんとかあそこへ行けるほどのお金がたまるだろうよ」

「ぼくにもなにかそこのお土産を持って来て下さるよね．何だろうな」

「皆はそこのお土産にカジュールとかチュハーラーとかナツメヤシの実[4]を持って帰るのだよ」

「それじゃぼくにもチュハーラーを持って来てね．でも1ダース以上は頂戴ね」

ダーダーの白いロひげとあごひげの間に白い歯が光って見えた．ダーダーはしばらくの間私を抱いてくれた後，一息入れて言った.

「それじゃ坊はあちらで遊んでおいで．おじいさんは仕事を済ませてしまうからね．ちゃんと仕事をしないとアッラーの神様がお怒りになるからね」

「おじいさんの神様はとても怒りっぽい神様なの」

すねて私が言うとダーダーはその日は大声を上げて笑い出した.

「あのね坊や，神様は子供たちが大好きなのだよ．坊はほんとに愛らしい子だ．神様，どうかこの子に長寿をお授け下さいますようお願い致します」

そう言うとダーダーは私を肩に乗せ壁際に進みそこに下ろすとすぐに左官こてと金槌を手にして作業に取りかかった.

スバーン・カーン・ダーダーは腕利きのレンガ職人と認められていてわが家の建物の修理に際しては必ず仕事を任されていた．その際は一週間ほどは泊まり掛けで仕事をしそれが終わると家に戻るのであった.

背が高く胸幅が広く頑丈な体．広い額，太い眉．目頭と目尻には少し赤みがあり瞳は少し青みがかっていた．鼻はとても目立つほどの鉤鼻，びっしり生えたあごひげは胸元まで届いている．年老いているにもかかわらず胸板は思いきり張っていた．頭にはいつも舟型のドゥパリヤー帽を被り上半身にはニーマースティーン，つまり，袖のついたジャケツを着て下半身にはカーチャーというぴっちり締まりのある腰布を着用していた．履いている靴は田舎で作られる厚い革底のチャムローダー靴．顔面は輝き口元からは花の蜜がこぼれ落ちるようで口のききかたや立ち居振る舞いは全く非の打ち所がなかった.

だが子供の私の一番のお気に入りはそのつやのある白いあごひげだった．祈りを捧げる時には縞の腰布のルンギーをつけ上着には質素なクルターを着て膝をついて掌を上に向けた両手を胸より少し高く上げて半眼になりなにか祈りの言葉をつぶやいている．私はその姿にうっとり見とれたものだった．まるでダーダーはそこに現れたアッラーの神様を目をうるませて拝みながらつぶやき神様と言葉を交わしているのではないかと思えるのだった．

とうとうある日私は子供の特権で無邪気に尋ねたことがあった．

「おじいさんはいつか神様を自分の目で見たことがあるの」

「これこれ，坊や，なんと畏れ多いことを言うんだね．人間はこの目では神様を拝むことは出来ないものなんだよ」

「ぼくをはぐらかさないでよ．ぼくはみんな知っているんだ．おじいさんは毎日目をつぶって神様を拝んで小さな声でお話をしているんだ．おじいさんはぼくをはぐらかしているんだよ」

「このじいさんが神様とお話をしているだなんてとんでもない話だ．おじいさんはそんな幸運には恵まれていないんだよ．お話が出来るのは神様のお遣わしになった方だけなのさ．クラーン（コーラン）にそう書いてあるんだよ，坊や」

「そうなの．神様のお使いの人にもあごひげがあったの」

「そうだとも，そうなんだよ．とても立派な金色のあごひげがね．今でもそのあごひげの毛が何本かマッカ（メッカ）に大切に残されているんだよ．おじいさんがそこにお参りに行った時にはそれを拝むのだよ」

「ぼくも大きくなってあごひげが生えてきたら伸ばすんだ．とっても長いのをね」

スバーン・ダーダーは私をかかえ上げて抱きしめてくれた．それから肩車をしてあちこち連れて行ってくれた．色々な話を聞かせてくれたり昔話を語ってくれたりした．私を楽しませてくれた後ではまた仕事に取りかかるのであった．私には仕事とアッラーの神様だけがこのおじいさんには大切なんだと思えた．仕事をしている時もアッラーの神様を忘れず神様から離れるとすぐに仕事に取りかかるのが神聖な務めだと考えていたのだ．それに仕事と神様とがうまく釣り合っておじいさんの胸の内に愛情という天の川を流し続けていたのだ．私のような子供までもが大いに楽しくその川に飛び込んだり潜ったりすることが出来るのだった．

ナーニー（母方の祖母）が言う．

「沐浴をして朝御飯を済ませなさい．今日はフサイン・サーハブ(5)のパイク(6)に行く日だよ．スバーン・カーンが迎えに来ることになっているからね」

母は私を授かるために随分沢山の神様に願掛け(7)をしたのであったがその内の一つにフサイン・サーハブもいらっしゃった．ジャネーウー(8)を身につけた9歳になるまでの間，ムハッラムの祭(9)には私もイスラム教徒の子供たちと同じようにタージヤ(10)のぐるりを赤く塗った棒を手にして飛び跳ねることになっていた．首にはいつもお守りの紐をつけていた．あの頃の私にとってはムハッラムの祭は本当に楽しい祭であった．新調の服を着て浮き浮きしながら，初対面の人に挨拶したり様々な見世物を見物したりしながら大変な人混みの中をかきわけて歩き回ったものだった．このムハッラムの祭の背景には身の毛もよだつようなそして胸を引き裂くような，悲しみに満ちた悲劇が存在することはその頃は露知らぬことであった．

それはともかく沐浴を済ませ服装を整えて待っているとスバーン・ダーダーが到着する．すると肩車をして私を自分の住む村へ連れて行くのであった．

ダーダーの家は家と言うよりは子供たちの遊技場になっていた．内孫も外孫も数え切れぬほどの子供たちが集まっていた．私と同じ年頃の子供たちがきらびやかな衣裳に身を包んでまるで私が到着するのを待っているかのようであった．家に到着するとダーダーの奥さんであるおばあさんが私

の首にお守りのバッディー（紐）をつけてくれる．腰には鈴をつけてもらい手には赤く塗った2本の棒を握り他の子供たちと一緒にカルバラー[11]に向かう．一日中飛び跳ね見世物を見物しお菓子をほおばり夕方にはダーダーの肩に乗せてもらって家に戻るのであった．

イード（断食明けの祭）やバクリード（犠牲祭）[12]の際にはダーダーは私たちのことを忘れることは出来なかったしホーリーの祭やディーワーリーの祭[13]の折りには私たちはダーダーを忘れることが出来なかった．ホーリーの日には祖母は自分の手でプーアーやキール[14]，それに肉料理などを山と盛ってダーダーのおもてなしをしていたものだった．そしてダーダーのひげに色粉を塗り付ける役は私が果たした。．一度，色粉を塗った後に以前のことを思い出して言ったことがあった．

「おじいさん，ラスールのおひげもこんなふうにきれいな色だったんだろうね」

「ラスールのおひげには神様が色をつけて下さったんだよ．特別の思し召しがあったからね．おじいさんみたいな普通の人がそんな幸運に恵まれることはないけれどね」

ダーダーはそう話すとすぐに目を閉じてなにかつぶやき始めた．まるで頭の中ではその様子を見つめているかのような感じであった．

私も少し成長した．一方，ダーダーもついにメッカへの巡礼を済ませて来た．私は大きくなったが，ダーダーはナツメヤシの話を忘れずにいた．私が休暇で都会の学校から帰省した時にダーダーはナツメヤシの土産を持ってわが家を訪ねてくれた．ダーダーの家の暮らし向きもよくなってきていた．ダーダーの人徳と孝行息子の働きでかなり裕福になってきていたのだが，謙虚さと人柄は昔と変わらなかった．わが家を訪れると昔通りの作法で挨拶をした．それからチュハーラーを取り出すと私に手渡してくれた．

「坊のためにアラブの国から持って帰ったんだよ．昔のことを覚えているかい．坊が特別に注文したものなんだよ」

ダーダーの小鼻は嬉しさを隠しきれずにいた．

チュハーラーを受け取ると私はそれを自分の頭の上に押し戴いた．もう一度子供時分に戻ってダーダーの首に抱きついてもはや文字どおり眩いばかりに輝いている白いあごひげを撫でて「ダーダー，ダーダー」と呼んでみたい衝動に駆られた．だが，もはや私が子供に戻れるわけもなく言葉遣いにもあの幼い頃の無邪気さも清らかさも失せてしまっていた．英語教育の学校の雰囲気に育てられたぎこちない感じが何事にも現れるようになっていたのだ．だが，ただ一つだけまだ清らかなものが残っていた．溢れ出た涙が私の身を浄めダーダーの足元に注がれたのだった．

メッカ巡礼から戻ったダーダーはほとんどの時間をお祈りに費やすようになった．一日中手には数珠の玉が繰られ口にはアッラーの御名が唱えられるようになった．近郷近在で重きをなす人として知られるようになり大きなもめごとが起きれば随分遠方からヒンドゥー教徒のものであれイスラム教徒のものであれ仲裁役を依頼されるようになった．その誠実な人柄が世間に知れ渡っていた．

ダーダーのかねてからの願いはマスジド（モスク）を建立することだった．私の伯父が建立した寺院はダーダーの施工になるものであった．ダーダーは当時は一介のレンガ職人であったのだが，もしも神様の御加護があれば自分もモスクを建立したいものだといつも話していた．

神様の思し召しがありついにその日がやって来た．ダーダーのモスクが完成したのだ．村人たちのためのこじんまりしたモスクだがとても美しい造りのもので，ダーダーが生涯をかけて獲得した技術がつぎ込まれたものだった．もはや自分の手で左官こてを握ったりれんがを削る金槌を振るうだけの力は残ってはいなかったが，一日中現場に腰を下ろしてれんがの一つ一つのつなぎ目に気を配っていた．モスクの内側のアラベスクのデザインはダーダーが自ら描いたものでありその彫りは

ダーダーの緻密な監督と指導の下に行われた．

伯父の所有していた林には紫檀やチーク，パラミツなどの建材になる木が沢山植えられていた．モスクの建立に用いられた木材はすべてその林に産したものだった．

モスクの竣工式の日は近郷の主だった人たちが招待された．金曜日のことであり出席者全員がお祈りを捧げた．訪れたヒンドゥー教徒のもてなしにはヒンドゥーの菓子屋が呼ばれ様々な菓子がこしらえられた．パーンやショウズクも振る舞われた．今でも人々はその竣工式の日の来客に対するダーダーの心を尽くしたもてなしを忘れずにいる．

時は移り時代は変わった．私はほとんど都会で暮らすようになった．都市部では来る日も来る日もヒンドゥーとムスリムとの対立に起因する暴動が発生している．まさに文字通り来る日も来る日ものことだ．見ての通りだ．ヒンドゥーもムスリムも同じ道を歩いている．同じ店で買い物をしている人たちだ．同じ乗り物に膝をつきあわせて乗っている人たちだ．同じ学校で学んでいる人たちだ．同じ職場で働いている人たちなのだ．ところがである．突然にだれもかれもが悪魔にとりつかれてしまったのだ．叫び声，喚く声，必死に逃げ回る人，殴り合い，殺し合い，放火…ありとあらゆる犯罪行為に抑制が利かなくなった．だれもが家庭も身体も名誉も危険にさらされてしまっている．愛情，友愛，思いやりに取って代わって憎しみ，敵対心，残忍な殺人がのさばりはびこっている．

都会が罹ったこの病気は徐々に田舎にも広がり始めた．牛と奏楽[15]とを巡って言い争うようになった．今までは生涯に亘って屠畜場に自分の牛を売ってきていた本人がある日一頭の牛が殺されると聞いただけで幾人もの人間の首を刎ねようとするまでになった．自分自身が結婚式や祭礼には奏楽の欠かせない人たちでありムハッラムの悲しみの奏楽を盛大に行う人だちであるのに自分たちのモスクの前を１分もかからずに奏楽しながら通り過ぎる人たちの上に血の雨を降らせようとするのだ．

一部のパンディットたち[16]がうまいことをやってのけ一部のムッラーたち[17]がこっそりやってのけたのだ．やれサンガタン[18]だのやれタンジーム[19]だのといった口実でいさかいと対立の種が播かれるようになってしまった．棍棒が舞い短刀がきらめいた．こちらでは頭がかち割られあちらでははらわたが飛び出た．どれほどの若者が死んだことか．どれほどの家が焼き払われたことか．残った田畑はイギリスの支配する裁判所の費用となって競売に付されてしまった．

今年はスバーン・ダーダーの住む村のイスラム教徒までが祭礼に当たり雌牛を犠牲に捧げるという噂が広まった．近隣に住むイスラム教徒の人口は少なかったのだが彼らの意気込みと言ったらなかった．一方，ヒンドゥー教徒はこれまで牛に特別の愛着を抱いていたわけではなかった．それよりも自分の土地や財産を誇らしく思う人たちであった．両者の間の緊張は高まるばかりであった．ついには，なんとスバーン・ダーダーのモスクで雌牛が生け贄に供されるとの噂が広まったのだ．

「なんということだ．ダーダーのモスクで雌牛が生け贄に供されるとは一体全体何事だ．それはあり得ないことだ」

「もしそうなればおれたちの面目は丸潰れだ．これだけのヒンドゥーが住んでいながら自分の母親も同然の雌牛の首が刎ねられたと言って世間は騒ぎ立てるだろうよ」

「もしも本気で牛を助けるつもりならゴーラーゴーリーにある屠畜場を襲撃すべきではなかろうか．そしてもしわれわれに本当にその勇気があるのならムザッファルプル市に出かけて行ってイギリス軍の駐屯地を襲撃しようではないか．ゴーラーゴーリーの屠畜場で処分されるのは老牛だが駐屯地では元気な子牛が殺されているのだぞ」

「だけどそれはおれたちの目に見えぬ遠いところでの話ではないか．これは『蝿と承知でどうし

て飲み込めようか』[20] ということなのさ」

「楯突くような物言いで悪いがね，わしは遠いとか近いとかの距離の問題ではないと思うのじゃ．問題はわれわれが本当の勇気を持っているかどうかということではないのかね．軍の駐屯地にあんたが行こうとしないのはあそこではあんたが直に大砲の口を向けられるからなんだよ．ここのイスラム教徒はほんの一握りしかいないものだからあんたはやっつけようとはやっているんだよ」

「あなたはスバーン・カーンのひいきをなさっていますよ．それは依怙贔屓ですよ．大切なのは信仰なのです．信仰が一番大切なものなのです」

一部の若者たちは私の伯父の話に腹を立て非難の言葉を浴びせると立ち上がり出て行ってしまった．だが，どんなに腹を立てようとわめき散らそうと伯父の同意なしには重要なことについてはだれ一人その先に足を踏み出すことは出来ないことになっていた．

一方，スバーン・ダーダーの家にもムスリムたちが大勢押し掛けていた．どうしたことか，ダーダーは一体どこからそのような元気を得たのだろうか．熱をこめて厳しい口調で語っていた．

「牛を生け贄に供するのは許さんぞ．わしはそんな馬鹿げた話は聞くつもりはない．お前たちはわしの前から立ち退いてくれ」

「なぜ牛を生け贄にするのがいけないんだ．おれたちは自分の命が惜しいから自分たちの信仰を捨てるというのか」

「わしが言うのはそのようなことは信仰とは関わりがないと言うことなのじゃ．わしはメッカの巡礼に行ってきた．コーランも読んだ．どうしても牛を犠牲に供すべきだということではないぞ．アラビアでは羊や駱駝が一般に犠牲に供されておるということなのじゃ」

「だが，おれたちが牛を生け贄に捧げたからと言ってあいつらにそれを禁止する権限はないはずだ．おれたちの信仰のことになぜ口出しするのだ」

「あの人たちのことはあの人たちに尋ねるがいい．わしはイスラムの教えを信じる者じゃ．ただの一度もアッラーの神様を忘れたことはないわ．よいか，わしはイスラームの信徒として言うておるのじゃ．牛を生け贄に供するのは認められん．断じて認めぬぞ．」

ダーダーのあごひげが右に左に揺れ顔は興奮のあまり紅潮していた．唇は小刻みな動きを見せ体までもが震えていた．その場の人たちは全員ダーダーのそのような様子を見て黙っていた．だが一人の若者が口を開いた．

「ダーダーはお年を召していらっしゃるので離れたところにおいで下さい．カーフィルたち[(20)]には私たちが立ち向かいますから」

「カッルーよ，口を慎むがいい．お前はだれをカーフィル呼ばわりしているのじゃ．わしの歳のことは言うまでもない．わしはもはやこの世から去り行く身じゃ．まずはわしを生け贄にしてからなら牛を生け贄にすることが出来ようぞ」

ダーダーはその緊張が最高に張りつめた状況でモスクの中に入った．祈りを捧げた．それから数珠を手にしてモスクの入り口に座り込んでこう言った．

「この中にはわしの死骸を乗り越えた者しか入らせん」

そう言うとダーダーは腰を下ろした．目は閉じられている．だが，止めどもなく流れ落ちる涙は頬を伝いあごひげを濡らして滴り続ける．手には数珠が繰られ唇はかすかに動いている．その動きがなければダーダーの姿はまるで大理石の彫像とも思える．やがてモスクの近くに人々が集まり始めた．初めはムスリム，次にヒンドゥー．もはや牛を生け贄にする問題はダーダーの涙に流し去られてどこかへ行ってしまった．ダーダーは神が遣わされた人のように思えた．その全身からは親愛と友愛のメッセージが大気の中に広がって行くのであった．

つい先日のこと．妻が私の2年間に亘る長い獄中生活の後，ついにガヤーの中央刑務所に面会にやって来た．この長きに亘る別離の後，彼女が私に手渡してくれたものは独特の編み方で編まれた絹や木綿の組み紐や飾り紐のお守りであった．

「これはスーラジ・デーオター[22]のお守りですよ，これはアナンタ・デオター[23]のお守りですよ，これはグラーム・デーオター[24]のお守りですよ」と彼女は言いながら一つ一つ手渡した。そして最後にこう言った.「これはフサイン・サーハブのお守りですよ．お願いですからこれを忘れずに身につけていて下さいね」

これらはみな私の母が子供を授かるために祈願した時の思い出の品々である．母が去り父も去り妻は4人の子供の母親となり私は父親となっている．だが，今日に至るまでこの願掛けの誓いは守られてきている．妻は私が無神論者なのを知っているので，母が願掛けをした神様たちの縁日には決まってそれぞれのお守りを私の首にかけてくれていた．その日はこの刑務所の中では看守と公安警察を前にしてはそれはしなかったものの抜かりなく私にお守りを怠りなく身につけることを約束させた．私も笑って応じ彼女を安心させたのであった．

妻は帰って行った．だがそれらのお守りは今も私の衣裳缶に大切にしまわれている．

衣裳缶を開く度毎にそしてフサイン・サーハブのお守りを目にする度に二つの不思議な光景が目に浮かぶ．一つの光景はカルバラーのものだ．

一方にはわずか72人の人たち．その中には女子供もいる．この小さな集団を率いるのがハズラト・フサイン・サーハブである．この人は幾度もクーファの玉座に招かれた人であるが，今や掌一杯の水すら得られない状況に立ち至っている．その前をユーフラテス川が流れているのだが，岸辺にはずらりと見張りが立ち水が得られないような状況にある．悪辣にして頑迷なヤジードに服従するかそれとも渇して苦しみもだえて死ぬるか．

子供たちは渇きに喉をかきむしり母親と姉妹はのたうちまわっている．ああ，掌に一掬いの水をくれ．愛し子の喉は渇ききり息は絶えんばかり．水，水，水だ，掌に一掬いの水をくれ．

「水は川となって流れてあり．名誉も富も少なからず恵んでくれようぞ．汝はラスールの孫なればなり．されどその条件はただ一つ，ヤジードの手を握り臣従の誓いを致すべし」

「ヤジードの手を握り臣従の誓いを致せとは．悪辣にして頑迷なるヤジードに服従せよとは．それもラスールの孫に．それは断じてあり得ぬこと．それよりは我ら掌一杯の水に溺れ死ぬることを選ぶものなり．左様な卑しきことをラスールの孫は断じて致さぬものなり．されど子供たちのためには水は是非とも得るべし．このままもだえ苦しみ死なせることはならず」

一方は女子供も含めてわずか72人の人々．これに対するは悪辣非道なヤジードの率いる装備抜かりなき大軍．戦闘が行われる．ハズラト・フサインとその一行はカルバラーの野で殉教する．殉教者たちの血でその砂漠の土は真赤に染まる．子供たちがもだえ苦しむさまと女性たちの悲鳴で辺りに戦慄が走る．このようなあまりにも悲惨な出来事は世界の歴史にも稀である．ムハッラムの祭はまさにその日の悲しみに満ちた出来事を記憶に留めるためのものなのだ．世界中ですべてのイスラム教徒が認めるものだ．友愛の情が深まりついにはヒンドゥー教徒までもがこの祭を自分たちのものとしたのであった．それは如何にももっともなことであった．

そして目に浮かぶもう一つの光景とはスバーン・ダーダーにまつわるものだ．いつも肩車をしてもらってムハッラムを見物に行っていたあのダーダーのことだ．

あの広い額，白いあごひげ，優しさ溢れる眼差し，あの蜜のような甘美な言葉の出てくる口元，光り輝いている面．若い時分は信心と仕事に等しく時を分かち年老いてはアッラーの神に没入した人．識見は高く愛情の泉はつきることなく湧き出てくる人．その泉は自他の区別なく万人の心を潤

し浄める．

私はカルバラーの殉教者の前に跪き，あのなつかしいダーダーの前に頭を垂れ真心こめて合掌する．

注

(1)「蝿と承知で」　原題は本書の他の作品の場合とと同じく，主人公の名前スバーン・カーンから採られているが，小訳では本文中に用いられた諺から採った．→ (20)

(2) スバーン・ダーダー（スバーンおじいさん）　原文ではसुभान दादा であるが，より正確には恐らくスブハーン・ダーダー सुबहान दादा であろうと思われる．ダーダーと言う言葉は多様な意味に用いられる．すなわち，「父方の祖父」の意味に用いられるほか「老人」への敬意をこめた呼びかけの言葉としても用いられ，兄や兄貴分などの意にもよく用いられる．

(3) ラスール (rasūl)　イスラム教で預言者のうち神の教えであるシャリーア（シャリーアト）を伝える使徒の意．ここでは預言者ムハンマド（マホメット）を指す．

(4)　ナツメヤシの実　カジュール (खजूल) とはナツメヤシの木とその果実の意を表すが，その果実の乾燥度の低いものもカジュールと呼ばれる．これに対してチュハーラー (छुहारा) はそれの固く乾燥されたものの呼称である．(Wealth of India, VIII, p.18)

(5)　フサイン・サーハブ　第4代カリフ，アリーと預言者ムハンマドの娘ファーティマとの第二子でシーア派第3代のイマーム・フサイン (626-80)．ウマイヤ朝第2代カリフとなったヤジード（ヤズィード）の世襲による即位を認めずそのため殉教した．サーハブは敬称．ここではカルバラー（現イラク）での殉教を悼み毎年イスラム暦ムハッラム月10日に行われるその殉教の哀悼行事タージヤ（タアズィヤ）及びその際街を練り歩くフサインの墓廟の模型である棺架の行列に言及している．

(6)　パイク (paik पैक)　ペルシア語由来の語で本来は使いの者，飛脚などの意を表すが，ここでは上記のタージヤ（タアズィヤ）の行列の前を走る者，先導者の意．→ (9).

(7)　願掛け　筆者の母親はヒンドゥー教徒としてヒンドゥー教の寺社で子授け祈願を幾度も行ったが，併せてイマーム・フサインにも子授け祈願をしたということである．聖者廟にも参詣して祈願したものと思われるが，そのことについての言及はない．→ (5).

(8)　ジャネーウー जनेऊ　これはヤジュノパヴィータ (यज्ञोपवीत) とも呼ばれるもので，カースト・ヒンドゥー（いわゆる上位のカースト内ヒンドゥー）の男子がヒンドゥー教徒としての誕生を認められる人生儀礼を経て身につけることが許される聖紐．儀式は十歳前後から青年期にかけて行われるのが一般的である．

(9)　ムハッラムの祭　ヒジュラ暦の第一月であるムハッラム月の10日に行われる祭．アーシューラーと呼ばれる．シーア派にとってはシーア派第三代のイマーム・フサインの殉教の日でありこれを哀悼する行事が行われる．

(10)　タージヤ (ta'ziya ताज़िया)　アーシューラー，すなわち，ムハッラム祭においてそれを担いだり運搬したりして街を練り歩く竹や色紙などでこしらえたイマーム・フサインの墓廟の模型である棺架，ないしは，山車や輿．

(11)　カルバラー (karbalā)　(1) 現在はイラク領内のユーフラテス川沿いの都市であるが，イマーム・フサインが殉教した場所としてシーア派の人たちが巡礼・参詣する聖地．(2) ここで言及され

ているのは，タージヤを市街で練り歩いた後埋める場所のことである．タージヤの出るところではそれぞれにカルバラーがある．(3) イスラム教徒の礼拝所や埋葬地．(4) 水の得難い土地．

(12)　イード (īd) とバクリード（バカルイード）(baqar īd)　イードはイスラム教の祭を指す言葉であるが，前者はヒジュラ暦 9 月，すなわち，ラマダーン月の断食が明けた際の断食明けの祭，すなわち，イード・アル・フィトル（ヒジュラ暦 10 月 10 日），後者は動物の供犠の行われる犠牲祭イード・アル・アドハー（ヒジュラ暦 12 月 10 日）を指している．

(13)　ホーリー祭やディーワーリー祭　いずれもヒンドゥー教の祭で前者はインド暦の 12 月，パールグン月の白半 15 日の春祭，後者は富の女神ラクシュミー神に祈願するカールティク月，すなわち，インド暦の 8 月の新月に祝われる秋祭．

(14)　プーアー，キール，肉料理　プーアー पूआ は小麦粉に黒砂糖や白砂糖を加えて練ったパン生地を円形にのして精製バターのギーで揚げた料理．キール खीर は米を砂糖を加えた牛乳で煮たものである．乳粥とも訳される．ここではご馳走の例として記されている．筆者の家庭（ここでは母方の祖父母の家）における日常的な肉食についての言及はなされていないが，ここでの言及は鶏肉か山羊，あるいは、羊肉の料理がムスリムの客人のためにヒンドゥーの家庭でこしらえられていたことを意味するものと考えてよいだろう．

(15)　牛と奏楽　原文には雌牛とあるが，雌牛とは限らない．ただし，人の子に乳を与える雌牛を母親と重ね合わせるヒンドゥー教徒の思考がこの問題で大きく作用したことは確かである．1922 年以降，食用やイスラム教徒の供犠のために牛を屠ることやヒンドゥー教徒が祝い事や祭礼に際してモスクの近辺で奏楽すること，たとえほんの僅かの時間通過するためだけにせよそれが問題視され騒乱の原因とされるようになった．ここではこれが反英抗争・反英民族運動の停滞や頓挫を象徴するものとなりいわゆるコミュナル騒擾と呼ばれる，ヒンドゥーとムスリムとの宗教間対立となって行ったことに言及している．

(16)　パンディット　本来は学識ある人，学者や学僧などの意であるが，ここではコミュナル騒擾においてヒンドゥー教徒の立場を過度に強調した人たちを指している．

(17)　ムッラー，もしくは，モッラー　本来は，イスラム教についての深い知識を有する学者や知識人を指すが，ここでは (16) のパンディットに対抗してイスラム教の立場の優越を偏狭な観点から擁護しようとしたイスラム教の学者や知識人を指している．

(18)　サンガタン संगठन　これは組織化とか団結などの意を持つ言葉であるが，非ヒンドゥー教徒のヒンドゥー化や元ヒンドゥー教徒の再改宗など 19 世紀後半に始まり 20 世紀に及ぶインド社会の変動の中で生じたヒンドゥー教徒の護教的，乃至は，宣教的な運動を指す．

(19)　タンジーム तंज़ीम　これもサンガタンと同様，組織化や団結の意を表すものでタブリーグ तब्लीग़ とも呼ばれる．ただし，タブリーグはもっとあからさまに教えを広めること，宣教の意を表しインド亜大陸におけるイスラム教への改宗や再改宗を指した．

(20)　蝿と承知で　原文では देखते हुए मक्खी कैसे निगली जाएगी とある．直訳は「(それが) 蝿だと（自分の）目で見て（知って）いながらどうして飲み込むことができようか」となる．(B.T.) の表現では देखकर मक्खी नहीं निगली जाती と少し異なるが，いずれもその意味は次の通りである．(1) その結果を承知の上で損を被ることはできないものだ (2) 面と向かってなされた侮辱は我慢ならないものだ．

(21)　カーフィル　イスラム教において神への感謝をしない者，不信仰者，もしくは，無信仰者のことを指すが，厳密な意味については様々な議論がなされてきている．

(22)　スーラジ・デーオター सूरज देवता　スーリヤ सूर्य とも呼ばれる太陽神．

(23)　アナント・デーオター　अनंत देवता　これはサンスクリット読みではアナンタ・デーヴァターになりアナンタ・デーヴァ अनंत देव/अनन्त देव と同義である．アナンタ・デーヴァはインド神話ではナーガ族の王でヴィシュヌ神をその体の上で眠らせるとされるシェーシャ・ナーガ शेष नाग の

ことも指すし，また，ヴィシュヌ神そのものともされる．ここではバードラ月（インド暦6月，陽暦8〜9月）の白半14日に行われるブラタ（／ヴラタ），すなわち，断食願行の対象となるアナンタ・デーヴァ（アナンタ神，ヴィシュヌ神の異名の一）のことである．この日のブラタでは一日中の食事，もしくは，一食を塩断ちのものとすることになっている．また，この日の儀礼ではウコンで黄色に染められ14個の結び目がつけられた木綿の紐が拝まれることになっている．いずれのブラタの際にも語られることになっているブラタ・カター，すなわち，縁起話と同様，この日に語られる縁起話の聴聞による御利益の一は確かに子授けである．

(24)　グラーム・デーオター ग्राम देवता　村の創始者などと伝えられる村毎にまつられた固有の神格であり，これだけの記述ではどのような神格であるのかを特定することはできない．

北インドの諺　(II)

編著者　古賀勝郎
発行所　津市河辺町 3501-1
発行日　2006 年 3 月 1 日
印刷所　稲垣印刷（津市南河路 364-5）
© 古賀勝郎